



- 制作・発行
静岡市
- お問合せ
静岡市企画局企画課
静岡市葵区追手町5番1号
TEL054-221-1022
- 印刷
日興美術株式会社



令和3年度 静岡市SDGs連携アワード 連携事例集



17 PARTNERSHIPS FOR THE GOALS



令和3年度
静岡市SDGs連携アワード
連携事例集

市長挨拶

静岡市長
田 辺 信 宏



本年度から実施された「静岡市 SDGs 連携アワード」において、多くの事業所・団体の皆様から、様々な取組をご応募いただいたことに厚く御礼申し上げます。






SDGsという言葉が世間に広がるにつれ、本市においても、SDGsに取り組む事業所団体が増えてきました。SDGsを通じて地域が抱える課題を解決し、持続可能なまちを実現するためには、個々の取組を結び付け、連携によるビジネス機会の創出、付加価値の向上が大きな原動力になります。

本アワードで事業所・団体の皆様から幅広く、様々な連携した取組が集まりました。事例集としてそれら取組内容を皆様に還元していくことで、より多くの「連携（パートナーシップ）」が生まれていくことを期待しています。

「誰一人取り残さない」というSDGsの基本理念の下、個人、事業所、団体が互いに連携・協力し、その価値を高めながら、「1人の100歩より、100人の1歩」で進めることが、SDGs達成に向けて重要な要素となります。

ぜひとも皆様、本事例集を参考にして、SDGs達成に向けた「行動（アクション）」を起こしてください。今後も様々な連携した取組が生まれていくことを楽しみにしております。



1	はじめに (静岡市長 田辺信宏)	1
2	令和3年度 静岡市 SDGs 連携アワード 概要	4
3	大賞・部門賞・特別賞 事例紹介	5
	【大賞】 SHIZUOKA STRAW PROJECT	6
	【部門賞】	
	・ローカルビジネス部門	
	「季咲亭・静岡めんまプロジェクト」	8
	・ローカルアクション部門	
	『竹灯ろう作ってみようか?』から始まった地域をまきこんだ魅力づくり	10
	・パートナーシップ部門	
	「邪魔モク」で SDGs !捨てられていたアカモクに付加価値を!	12
	・サステナビリティ部門	
	コーヒーの力を信じて。持続可能な循環型社会	14
	・ユースアクション部門	
	未来の主役は私たちだ!子どもたちが作る SDGs マップ	16
	【特別賞】 スリーリングス PJ (1000 年先を 1000 人のチカラで...)	18
4	連携した取組事例紹介	
	 1 貧困をなくそう	
	・「まだ食べられるのに、もったいない」で SDGs	20
	 2 飢餓をゼロに	
	・ SDGs を通して企業と企業を結び	21
	・ 農福連携でくらしの豊かさの実現を目指す	22
	 3 すべての人に健康と福祉を	
	・「保険の整備拡充」で SDGs !会社にも従業員にも適切な保険を。	23
	・ことばの壁をこえ心もからだも健康に	24
	 4 質の高い教育をみんなに	
	・未来の主役は私たちだ!子どもたちが作る SDGs マップ	17
	・「ひろろ」ことから SDGs を考える地域清掃プロジェクト	25
	・未来に向けて、街づくりを自分達の手で	26
	・みんなで地球について考えるイベント「アースデイあさはた」	27
	・ SDGs が繋ぐ地域の輪、商店街活性化プロジェクト!	28
	・「若年層の採用フォロー」で SDGs !幅広い活躍の場を。	29
	・シール絵本『SDGs ってなあに?』の製作	30
	・100 年後も続く「愛といのち」のアートプロジェクト	31
	 5 ジェンダー平等を実現しよう	
	・市民が自信と誇り・希望を持って活躍できる授乳施設づくり	32
	 6 安全な水とトイレを世界中に	
	・モバイルバイオユニットできれいな水を	33

	 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	
	・トラック・バスを用いた静岡市 SDGs の PR	34
	 8 働きがいも経済成長も	
	・アキヤアソビ ～空き家を使ったチャレンジの場所提供～	35
	・静岡の建築家を応援する会「匠創物語」	36
	・「建設現場から発信する SDGs !!」 みんなで知ろう	37
	・「紙の循環型利用と採用セミナー」で SDGs !業務から採用まで幅広い連携。	38
	 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	
	・「季咲亭・静岡めんまプロジェクト」	9
	 10 人や国の不平等をなくそう	
	・アートを通じた福祉支援により「誰一人取り残さない」社会の実現へ	39
	 11 住み続けられるまちづくりを	
	・『竹灯ろう作ってみようか?』から始まった地域をまきこんだ魅力づくり	11
	・「放任竹林」の伐採で SDGs !!持続可能な自然環境を	40
	・自治体と民間企業がタッグを組み空き家問題解決へ	41
	・ SDGs で詐欺撲滅!ポスターで安心して暮らせるまちづくりを	42
	 12 つくる責任 つかう責任	
	・コーヒーの力を信じて。持続可能な循環型社会	15
	・「ごみの分別」から SDGs 目標を達成しよう!	43
	・静岡市の文化×資源×新テクノロジーのものづくり	44
	 13 気候変動に具体的な対策を	
	・「藤枝茶を何とかしようプロジェクト」の活動!!	45
	・「乾燥モズク」と「藤枝の海ぶどう」の誕生!!	46
	 14 海の豊かさを守ろう	
	・ SHIZUOKA STRAW PROJECT	7
	・遊びながら SDGs に関心を広げる夏休みイベント【ペットボトルキャップ de ぺるりん】	47
	・「みんなで拾ってみんなで作る」海ごみアップサイクルチャレンジ	48
	 15 陸の豊かさを守ろう	
	・スリーリングス PJ (1000 年先を 1000 人のチカラで ...)	19
	・「庭木の里親サービス」で大切な樹木を次の世代につなぐ	49
	 16 平和と公正をすべての人に	
	 17 パートナーシップで目標を達成しよう	
	・「邪魔モク」で SDGs !捨てられていたアカモクに付加価値を!	13
	・ SHIZUOKA SDGs Action !静岡の SDGs 企業を発信!	50
	・企業・団体向けの SDGs 勉強会実施& SDGs 宣言作成支援	51
5	連携事業所・団体 一覧	52



1 静岡市SDGs連携アワードとは

地域課題解決に向け、持続可能な開発目標「SDGs」の目標17（パートナーシップで目標を達成しよう）を通じた事業所・団体間の連携した取組を増やすことを目的としており、SDGs達成に向けて行われる取組のうち、事業所・団体間の連携を誘引しやすく、汎用性の高い取組を行っている2以上の異なる事業所・団体によるグループを表彰します。

このような連携した取組に特化した表彰制度は、国内初の試みになります。

2 評価項目及び基準

提出された「応募シート」の記載内容を踏まえ、下表中の該当する各項目について、4段階の基準で評価を行います。また、それら評価に加え、SDGs達成に向けた寄与及びインパクトの度合い等を考慮し、総合的に表彰対象を選考します。

(1) 評価項目表

項目	着目点
連携可能性	様々な分野による連携が可能か (様々な事業所・団体が参加しやすいか) (限られた事業所・団体でのみ連携可能な取組でないか)
普遍性	何をきっかけに取組が進められたか (特殊な環境・要因が介在していないか)
持続可能性	取組・連携の継続が期待できるか (取組を継続させるのに特殊な技術や資金が必要とならないか)

(2) 評価基準

項目	評価基準
A	特に高い汎用性が認められる
B	高い汎用性が認められる
C	一定の汎用性が認められる
D	汎用性が認められない

3 応募におけるメリット

受賞または事例集に掲載されることによる広告効果

- 市HP及び冊子にて公表されることによる情報発信



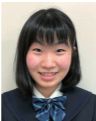
他事業所・団体の取組を把握し、連携の模索・強化

- 他の取組を知ることによる連携の機会の増加

4 令和3年度 選考委員会 委員

選考委員会は、環境、経済、社会、教育分野等に関係する有識者、学識経験者等から幅広く委員を構成しています。

	氏名	所属
委員長	 蛸江 憲史	慶応義塾大学大学院 政策・メディア研究科 教授
委員	 竹内 光子	しずおか市消費者協会 会長
委員	 松永 秀昭	静岡商工会議所 常務理事

	氏名	所属
委員	 弓削 幸恵	NPO 法人まちなびや 理事長
委員	 下村 明宏	学校法人星美学園 静岡サレジオ小・中・高等学校 教諭 (SDGs推進担当)
委員	 星野 杏奈	2021年度 JCI JAPAN グローバルユース国連大使



大賞



部門賞

- ・ローカルビジネス 部門
- ・ローカルアクション 部門
- ・パートナーシップ 部門
- ・サステイナビリティ 部門
- ・ユースアクション 部門



特別賞



大賞

選考委員長からのコメント



慶応義塾大学大学院
政策・メディア研究科
教授
蟹江 憲史

身近な取組から始めて、海洋プラスチック汚染問題や地球環境、農業のことを考える取組へと広がっている点が素晴らしいと思います。高校生発の取組が、様々なステークホルダーを巻き込み、まさにパートナーシップで目標達成へ向かう活動です。今後はさらにスケールアップして、世界の変革を導くリーダーシップを期待したいと思います。

SDGs インパクト



【ターゲット 4. 4】
技術的・職業的スキルなどを備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる
【ターゲット 4. 7】
全ての学習者が、持続可能な開発の知識とスキルを習得できるようにする

児童から大学生レベルまで、麦わらストローの作成から利用をすることができ、麦わらストローの利用向上や啓発活動を企業などと連携して行うことにより、職業的スキルの向上にもつながっていく取組である。2030年までに持続可能なライフスタイルの貢献と理解を経て、持続可能な開発を推進するための知識とスキルを習得することにも貢献している。



【ターゲット 12.5】
発生防止、削減、リサイクル等により廃棄物の発生を大幅に削減する
【ターゲット 12.8】
持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようになる

個人レベルから企業レベルまで、様々な場面でプラスチックごみ削減に貢献でき、麦わらストロー自体が自然に還る素材であることから、今後この取組が広がっていくことで廃棄物の排出量の削減に寄与していく。啓発活動、教育やセミナー等を通じて、様々な人々が持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識をもつことができる。



【ターゲット 14.1】
海洋ごみ等を含むあらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減する
【ターゲット 14.2】
健全で生産的な海洋を実現するため、海洋及び沿岸の生態系の回復のための取組を行う

海洋プラスチックごみの問題は世界規模で提起されており、麦わらストローが幅広く利用されることにより、海洋ごみの削減につながっていく。麦わらストローの購入代金を海洋プラスチックごみ問題に取組む団体へ寄付することにより、さらなる海洋保全の活動に貢献していくことが期待される。

SHIZUOKA STRAW PROJECT

「農育プロダクション「いきものがかり」by静岡農業高校」×「(株)静岡銀行」×「静岡県地球温暖化防止活動推進センター」×「(株)ドリームプラザ」×「つむぎCAFÉ」×「日興美術(株)・ダイワ製本(株)」

1.取組概要
SHIZUOKA STRAW PROJECTは、農育プロダクション「いきものがかり」by 静岡農業高校が実践しているSDGs Action！のひとつです。私たちが生産加工した麦わらストローをきっかけに、海洋プラスチックごみ問題のこと、地球環境のこと、農業のことを一緒に考える機会を提供をしています。多くの企業様が活動に賛同しており、得意分野による支援、啓発活動、イベントなどの機会を提供してくださっています。私たちは「できることから始めよう！」を合言葉に、いま地球がどんな状態なのかを知ることの大切さを伝える活動を実践しています。

2.該当するSDGs目標	3.取組イメージ
<p>4 質の高い教育をみんなに 高校生が農業の学びを活かし、環境問題について具体的な行動を起こすことで、より深い学び(知識・技術)を得ることができています。また、教育関連施設や企業主催のイベントでワークショップを実施し、参加者に学びの機会を提供しています。</p> <p>12 つくる責任 つかう責任 麦わらストローは、校内で育てた六条大麦から加工しています。排出された廃棄物は、校内で飼育しているヤギやヒツジの餌として循環させています。麦わらストローはプラスチックフリーを促進させ、プラスチックごみ問題を考えるきっかけになっています。</p> <p>14 海の豊かさを守ろう SHIZUOKA STRAW PROJECTに取り組むことで、海洋プラスチックごみ問題を知るきっかけを得ることができます。世界の海が、地球がどんな状況にあって、どんなことができるのか、興味を持ってもらい、知ることの大切さを伝えていきたいです。</p>	<p>4.ポイント SHIZUOKA STRAW PROJECTは、生産者は「麦を育てる・麦わらストローの加工」、企業は「イベント支援・募金箱設置協力・麦わらストローの使用」、消費者は「募金支援・麦わらストローの使用」というように、それぞれの立場からSDGsに取り組むことができる仕組みとなっています。</p>

5.取組が開始されたきっかけと展開	7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント
<p>農育プロダクション「いきものがかり」は、農業を知る機会・学ぶ機会を提供する教育活動団体ですが、コロナ禍により思うような活動ができなかったため、自分たちが栽培・収穫した六条大麦から麦わらストローを加工する教材づくりに取り組みました。この教材は海洋プラスチックごみ問題を考えるきっかけを提供できると考え、SHIZUOKA STRAW PROJECTを企画しました。麦わらストローを製品化するにあたり、トレーサビリティと安全性を証明したいと考えましたが、食品衛生法に基準がなく、分析項目や殺菌方法の確立が難しかったです。この課題は周囲の助けもあり解決することができ、麦わらストローの製品化に成功することができました。現在、各企業さまに支援と賛同を求めプレゼンを実践し、SHIZUOKA STRAW PROJECTとして協同しながらSDGs Action！を起こすことができています。</p>	<p>六条大麦の栽培は、畑がなくてもプランターで栽培でき、栽培管理もほとんどないため、幼保や小学校で児童が実践できるレベルです。収穫した大麦からは「麦茶づくり」を体験することもできますし、麦わらストローの加工もとても簡単にできます。そのため、SDGsや海洋プラスチックごみ問題を考えるきっかけとして、六条大麦の栽培と麦わらストローの加工を授業で取り上げることを提案します。実際に、栽培・収穫・加工をすることで、SDGsや海洋プラスチックごみ問題を身近な問題として捉えることができると思います。また、SHIZUOKA STRAW PROJECTは、それぞれの立場からSDGsや海洋プラスチックごみ問題に取り組むことができる仕組みとなっています。このような仕組みは、様々な団体が取り組んでいるSDGs Action！にも取り入れていくことができると思います。</p>

6.応募した取組の今後の計画・展開	
<p>「静岡農業高校」科学館や学校放課後児童クラブ等でワークショップを展開していきます。「静岡銀行」当行の本部タワー5階職員用カフェでの麦わらストロー利用による役職員への啓発を検討しています。「静岡県地球温暖化防止活動推進センター」募金者へ温暖化対策アプリ・クルポのポイントを付与し脱炭素に向けた行動変容を促します。「(株)ドリームプラザ」イベント時のブース提供、エスパルスドリームプラザ内に募金箱の設置とともに、店内での麦わらストローの活用、啓発活動を行います。「日興美術株式会社」資料やショップカードのFSC®認証紙利用を促進していきます。※麦わらストローの購入代金は、海洋プラスチックごみ問題に取り組む団体へ寄付していきます。</p>	<p>SHIZUOKA STRAW PROJECTをモデルとし、いまの自分の立場で当たり前のようにSDGsに取り組めるような仕組みづくりが、これからの社会には必要だと考えています。</p>



部門賞

ローカルビジネス部門

選考委員からのコメント



静岡商工会議所
常務理事
松永 秀昭

SDGsを“自分ごと”として地域課題に着目したことが素晴らしい。環境に深く影響を与えている放任竹林をテーマに、その解決に向け、地域・行政・各種法人・大学などの社会全体で取り組む内容となっています。また、地産地消で地域ブランド化した「静岡めんま」で得た収益(経済)を、環境保全や雇用などに還元する持続可能な活動スキームとして確立することで、SDGsの三要素(環境・社会・経済)を調和させ、さらに、セミナーなどによる普及・啓発でその活動を広げ、本部門賞としてふさわしい取組です。

SDGs インパクト



【ターゲット9.2】
包摂的かつ持続可能な産業化を促進し、雇用及び産業セクターの割合を大幅に増加させる
【ターゲット9.4】
資源利用率の向上等による産業改善により、持続可能性を向上させる

放任竹林という課題に対し、自社の漬物技術を活かし、食べることを通じた商品開発を行うことにより、「静岡めんま」という持続可能な新たな産業を生み出している。また、様々な団体と連携して行うことにより、持続可能性を確保するとともに、新たな雇用の創出にもつながっている。



【ターゲット8.5】
完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事等を達成する
【ターゲット8.6】
就労、職業訓練等を行っていない若者の割合を大幅に減らす

障がい者就労施設と連携し、就労を希望する障がい者の見学受け入れ及び雇用を行っており、働きがい及び経済成長につながる取組を行っている。また、単に雇用するだけでなく、これまでの就労実績を活かし、既存従業員に対して指導を行い、障がい者が働きやすい環境づくりに貢献している。



【ターゲット17.17】
効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する

行政、教育機関、竹林整備団体等の市民団体と連携し、「静岡めんま」を主体とした循環型の生産システムを構築しており、パートナーシップでSDGs達成を目指すロールモデルとなっている。売上の一部を放任竹林整備団体に寄付などを行うことにより、この連携を維持・拡大させることに貢献している。

「季咲亭・静岡めんまプロジェクト」

「(株)季咲亭」 × 「竹林整備団体」 × 「大学」 × 「行政機関」

1. 取組概要

「放任竹林」という地域課題に対し、自社の漬物技術を活かした商品開発を通じて、環境、経済、社会の三側面において、持続可能な好循環を生み出す『静岡めんま商品化プロジェクト』をスタートさせました。静岡市をはじめとする県内の竹林で、竹林整備団体や学生等と一緒に整備しながらメンマに適した竹を収穫し、製造・販売を開始。「食べること」で放任竹林整備につながる「静岡めんま」と銘打って、行政機関とも連携しながらプロモーションを行っています。また、本事業を一過性のものとせず、新しい商品開発や販路拡大を製造業の責任として取り組んでいます。放任竹林への取り組みを発展しながら持続可能な事業とするため、得られた収益を竹林整備に取り組む各団体の活動費やハンディキャップのある方や生涯活躍できる人材の新規雇用の財源としています。

2. 該当するSDGs目標

	「産業と技術革新の基盤を作ろう」ターゲット：9.2 進捗：(1) 静岡めんまの売上金額(令和2年度)【1,323,038円】(令和3年度)【3,510,000円】(令和4年度)【7,020,000円】 (2) 新規取引先(店舗)数(令和3年度)【250店舗】 目標：(1) 静岡めんまの売上目標(令和4年度)【11,700,000円】 (2) 新規取引先(店舗)数(令和4年度)【350店舗】 ○「静岡めんま」を通じたパートナーシップの構築及び好循環化への取組み(社会・環境)当社を軸に、竹林整備団体、自治体、卸先(スーパー、飲食店)、一般消費者が「静岡めんま」をキーワードに繋がり、整備、製造、販売、購入というそれぞれの行動から、地域課題解決、SDGsの目標達成に貢献できる好循環な仕組みを確立しています。
	「働きがいも経済成長も」ターゲット：8.5 進捗：(1) 障がい者の雇用数(令和3年度)【1人】 ※障がい者就労施設との連携を進めるにあたり、就労を希望する障がい者の方が8人見学に訪れています。 目標：(1) 障がい者の雇用数(令和4年度)【5人】 (2) 男女雇用比率の均等化(令和4年度)【5:5】 ○今後の静岡めんま生産体制強化に伴い製造現場における障がい者雇用を検討している。今までの障がい者就労支援施設と連携を深め、就労実績からの経験を活かし指導を行う従業員に対して理解・習得のための指導を行っています。
	「パートナーシップで目標を達成しよう」ターゲット：17.17 進捗：(1) プロジェクト協力先数(令和3年度)【①竹林整備団体 12団体 ②新規取引先 250店舗】 目標：(1) プロジェクト協力先数(令和4年度)【①竹林整備団体 35団体 ②新規取引先 700店舗】 (2) 商品化及び肥料化率(令和4年度)【100%】

3. 取組イメージ



4. ポイント

たけのこ収穫用に栽培されていた孟宗竹(モウソウチク)の竹林が、後継者不足や管理者の高齢化に伴い放置された結果、既存の植生を破壊、崖崩れの発生など、各種の竹害発生の課題を抱えていることを知りました。当社は、地域に根ざった企業であり続けたいという思いから、この地域課題に対し何か貢献できることがないか考えた結果、当社の技術を活かし、静岡県の地域課題となっている放任竹林、竹害に悩む地区から、メンマの加工に適した「幼竹」を当社が買い取り、「静岡めんま」として製造し、消費者の方々が美味しく食べることで、「地域保全」に貢献できるサイクルを構築することを目標し、商品化することに成功しました。

5. 取組が開始されたきっかけと展開

近年の加速する気候変動により地球全体の温度が上がり国内において大雨が降る回数が増えています。2014年10月6日にはJR東海道線・由比駅-興津駅間で、線路沿いの斜面の土砂崩れが発生し、線路が埋まる災害が起きました。この災害が静岡県内でも「地域課題の竹害」により起こっていることを知り「竹害」を食い止める事が出来ないかと考えた結果生まれたのが「静岡めんまプロジェクト」です。「静岡市SDGs宣言」「経営革新計画(商経第595号)」「静岡県二HACCP事業」「地域経済牽引事業計画(O2静岡産振第411号)」などを取り入れ、当社では対応が難しいことを行政の皆様から情報収集を行いプロジェクトが実行できる環境づくりを行いました。また、公益財団法人ふじのくに未来財団と連携し静岡めんまを寄付付き商品とし、売り上げの一部を竹林整備を行っているNPO団体に寄付をさせて頂く事になりました。その後の展開として、
・令和3年静岡県森林共生白書掲載(「静岡県森林と県民の共生に関する条例」第12条)
・静岡県庁内の広報グラブ「ひとり一改革運動」で県知事賞(静岡土木事務所)
・第1回竹林整備隊(宇津ノ谷峠)
・R3.1.6公益財団法人静岡県グリーンバンク主催「森づくりミーティング」登壇
・R3.3.11ローカルSDGs・ESGセミナー「静岡の地域活性化」を目指して」登壇
・R3.1.21「企業と連携し地域活性化! 農村再生デザインセミナー」登壇
・R3.6.25学校法人相川学園静岡高等学校 登壇
・R3.8.11高校生による「SDGsインタビュー」では静岡県立静岡東高等学校
・R3.8.26高校生による「放任竹林インタビュー」では静岡大成高校
・R3.9.24「静岡めんまができるまで」大谷小学校生徒様に地域の問題について説明など県知事賞やセミナー登壇、学生に対しSDGsの公演を継続的に、「静岡めんまプロジェクト」の大切さを伝えています。

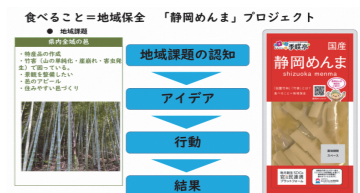
6. 応募した取組の今後の計画・展開

静岡県内には多くの放任竹林があるとされています。当社は今後も県内の目につく放任竹林の整備を行い、目に見える景観を作り出していきます。実績発表や公演などを繰り返し、「静岡めんまプロジェクト」の実績を重ねて生産量を増やし国産品の良さを広め9.9%輸入に頼っている「メンマ」を国産に切り替え、地産地消はもちろん国内総生産(GDP)を上げることに寄与します。また、静岡めんまづくりに連携し竹林整備を行っているNPOの皆様とメンマ以外の青竹の有効活用として、青竹を使用した「竹チップ」の肥料や竹チップを敷き詰めた空き地の利用など有効活用し、地域課題の竹害を減らすことを加速して行きます。静岡市は、日本政府からSDGs未来都市に選定され、国連からアジア初のハブ都市に位置付けられており、SDGs先進都市として国内外からの評価が高いのが特徴です。静岡市が構築するSDGs推進のネットワークとも連携しながら、中小企業のSDGs推進を今後もけん引していきます。

7. 汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

放任竹林は全国的な課題であり、全国に放任竹林整備に取り組む団体が存在します。また、当社のような食品製造・販売する会社も全国にあることから、他の事業所・団体もこの取組を真似しやすい、汎用性が高いと考えます。SDGsに取り組む際、自社の経営理念や事業計画を変えるのではなく、自社の活動方針にSDGsを関連する事から始めています。当社の技術力を生かし静岡めんまプロジェクトを実行することにより、行政・地域・販売・労働・金融・流通・小売・消費などに結び付き、それぞれの業務にはそれぞれ「似たような性質や特徴を持つ者の枠組み」の方々が存在し、静岡めんまプロジェクトに関連した業務が産み出され、竹害などの地域課題に触れる機会が多くなれば課題解決に触れる機会が多くなり、幅広く活用できる汎用性あるものと考えます。

県内地域で活動し、県内企業として様々な取り組みを行うと静岡県内企業・地元企業が活動を行っている静岡の地域社会(社会圏)が見えてきます。社会の下支えがSDGsウェディングケーキで言う生物圏に当たります。その生物圏で現在進行形で起こっている事を社会圏を通じて知る事ができ、静岡県内企業として何が出来るか可能性を模索し経済圏に繋げたのがこのプロジェクトになります。企業経営は経済・社会・環境のバランスの上になり立ち、「季咲亭・静岡めんまプロジェクト」を通じて社会的課題を解決を図ります。当たり前のことですが、その気づきをしっかりと受け止めたのが右図となります。



企業は、見方を変えれば必ず社会的な解決を行うための事業活動を行っており、17のゴールのどれかに該当しています。既存事業をSDGs視点に見直し、どの事業がゴールに当てはまるか検討し、2030年までのSDGsを行動に移す残り9年間はこれからの日本を担う学生と取り組むことにより実績を残し、活動を継続的に続ければ、同じような活動が全国にも広がっていくと思われれます。SDGsを共通語に静岡市内の学生とつながり持続可能な経営基盤を確立し受け継いでいただく期間です。

(清水区大内 常葉大学・静岡県立大学・静岡大学の学生)



部門賞

ローカルアクション部門

選考委員からのコメント



しずおか市消費者協会
会長
竹内 光子

「竹灯ろう作ってみようか?」から始まった活動が、SDGs 推進に取り組んでいることが分かります。小・中学校や企業、町内会が関わって実践することで技術の習得や継承、環境保全、自然物の有効活用、防災意識の向上等、一つの活動を多くの団体で発展させることにより、持続可能な開発が可能となっています。
また、小・中学生のような若者が関わることで、今後も地域や広く社会への魅力創出が期待できます。

SDGs インパクト



【ターゲット 4. 4】
技術的・職業的スキルなどを備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる
【ターゲット 4. 7】
全ての学習者が、持続可能な開発の知識とスキルを習得できるようにする

小・中学生を対象とした竹林整備につながるメンマ作りや竹灯ろうを学校に設置する取組など、大人や企業と作業をすることによる地域課題解決に向けたスキルの向上が期待できる。
単なる普及啓発に留まらず、子どもが大人や企業と作業する実践を通じて、持続可能な開発を推進するための知識とスキルの習得につながっていく。



【ターゲット 11.3】
包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、人間居住計画・管理の能力を強化する
【ターゲット 11.7】
安全で包摂的かつ利用が容易な公共スペースへの普遍的アクセスを提供する

行政の手の届かない課題に対し、自主的な参加を主とした団体が住宅問題や環境保全等の解決に向けた実践的な取組を行うことは、持続可能な都市化に貢献することにつながっていく。
公共スペースである津波避難タワーに竹灯ろうを設置することで、防災意識の向上に加え、地域の魅力創出・交流人口の増加が期待できる。



【ターゲット 15.1】
陸域生態系及びそのサービス保全、回復及び持続可能な利用を確保する
【ターゲット 15.4】
生物多様性を含む山地生態系の保全を確実にする

放任竹林で伐採した竹をメンマ作りを通じて消費し、さらに竹灯ろうにして地域の魅力及び情報発信につなげていく取組は、容易かつ運転資金も少額で済むことから、一過性に留まらず、今後も持続可能な山地保全等に貢献していくことが期待される。

『竹灯ろう作ってみようか?』から始まった地域をまきこんだ魅力づくり

「用宗を楽しくする会」×「長南小・城山中」×「漁協」×「用宗町内会」

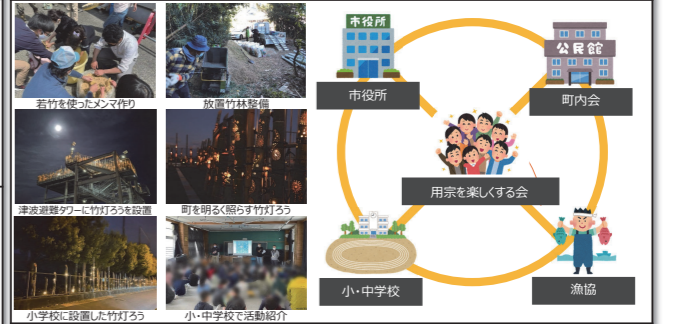
1. 取組概要

地域の新たな魅力づくりとして、用宗漁港津波避難タワーへの竹灯ろう設置プロジェクトを平成30年から毎年実施しています。静岡市放任竹林対策推進事業をはじめ、長南小・城山中、漁協、用宗町内会など、行政や地域を巻き込み、竹林整備で伐採した竹に付加価値をつけて有効利用しています。5月は若竹を使ったメンマ作り、11月～3月は伐採した竹を使った竹灯ろうを製作し、津波避難タワーへ設置して漁港周辺の賑いづくり、4月～11月は小学校へ竹灯ろうを移設し年間を通じたまちの魅力づくりと情報発信に繋がっています。

2. 該当するSDGs目標

	地域内外の人が集まりボランティアで活動している当会がハブ的な役割を果たし、小中学校はじめ、町内会、各種団体、行政を巻き込み、幼いころから地域の課題や環境問題に取り組む必要性を学んでいます。少子高齢化や空き家の増加、自治会の担い手の確保が課題となっているなか、「地域で子どもを育てる」といった趣旨のもと、地域の魅力づくりと一緒に地域の課題解決に繋がる活動として「楽しみ」ながら取り組んでいます。
	平成27年の活動開始から現在までに、行政、小・中学校、町内会、各種団体と連携しながら、子どもから大人までが参加できるイベントやプロジェクトを実施し延べ3000人以上に参加いただいています。誰かがやってくれるのを待つのではなく、メンバー自らが積極的にアイデアを持ちより、試行錯誤しながら、地域全体を巻き込み、誰もがこの街に住み続けたいと思ってもらえるような新たな魅力づくりと情報発信に取り組んでいます。
	放任竹林の持続可能な管理を行うため、竹林整備で伐採した竹を利用し、春には地域住民や子ども達を集めたメンマ作り講習会で約2kgのメンマを製作し、地域のお店やイベントで販売をしています。秋には毎年約200本の竹灯ろうを製作し、津波避難タワーに設置することで漁港周辺の魅力づくりと情報発信を行い、設置期間終了後は小学校に移設することで、子どもから大人までが地域の環境問題を考えるきっかけにしています。

3. 取組イメージ



4. ポイント

これまであまり注目される事がなかった津波避難タワーに着目し、防災意識の向上を図ると共に、漁港周辺の魅力創出と交流人口の増加、用宗エリアの賑わいを創出し、地域の活性化を図っています。既存のものを活用し、新たな付加価値を生み出す事で、持続可能な社会の実現に取り組んでいます。どこにでもある物が、アイデア次第で人を惹きつける「まちの魅力」になると考え、トライアンドエラーで取り組んでいます。

5. 取組が開始されたきっかけと展開

空き家の増加をきっかけに、地域の魅力を発信して若者を呼び込もうと、2015年6月に「用宗を楽しくする会」の活動が始まりました。活動の一環として、2015年12月から広野海岸公園で「Xmasイルミネーション」による地域の魅力づくりをスタートしました。
2018年12月からは地域のシンボルでもある用宗漁港に会場を移し、津波避難タワーに竹灯ろうを設置し漁港周辺の魅力づくりを毎年実施しています。
竹灯ろう製作にあたり、放任竹林整備を通じた環境問題にも着目し持続可能な活動とするために、地域住民や子ども達を集めたメンマ作り講習会の実施、小学校へ竹灯ろうを設置し年間を通じた町の魅力づくり、町内会と連携した情報発信など、地域をまきこんだ取り組みへと活動の範囲を広げています。

6. 応募した取組の今後の計画・展開

放任竹林整備と合わせて津波避難タワーへの竹灯ろうプロジェクトは継続的に開催し、毎年取材に来ていただいている、新聞社・テレビ局にもご協力をいただきながら、引き続き地域の魅力発信に力を入れていきます。
これまでは地域の成り立ちや文化、経済、風習を学ぶ事に視点を置き、現在は活動を通して、地域の課題や環境問題の解決に取り組んでいます。今後は、10年、20年先の主役となる子ども達を「地域のみんで育てる」ために、小・中学校にも協力をいただきながら、子ども達のもとより、地域住民や各種団体、町内会との繋がりを強化していきます。他の地域にも取り組みを紹介し、まちの魅力を再認識していただき、新たな担い手の育成や確保に取り組み、より大きな活動へと広げながら課題解決へと繋がっていきます。

7. 汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

参加自由で年会費の徴収なども行わず、楽しい、面白い、参加したいと思うプロジェクトに対して、自主的に参加をしてもらう活動となっています。メンバーには企業経営者や商店主、農家、サラリーマン、主婦など、子どもから大人まで誰もが参加できるようにしています。
実施するプロジェクトは、メンバーをはじめ地域住民が参加したいと思えるような内容となるよう、地域の活性化や課題解決、環境問題などに繋がる楽しいアイデアや意見を出し合い、みんなで力を合わせて企画をしています。
事業やイベントの専門家がいるわけではありませんが、他の地域の取組をインターネット等で調べ、真似をしたり、既に地域にあるものを使って新たな町の魅力づくりとなるように、子どもから大人までが好きなことを楽しみながら、やりたい事を形にしています。
資金面では、地域のイベントなどにお店を出店し、少しずつ運営資金を集め、小さい事から出来る範囲で活動を行っています。プロジェクトによっては地元企業から協賛をいただいたり、行政の補助金や町内会の協力金をいただきながら、地域の活性化に取り組んでいます。
地域のネットワークをフル活用し、地域住民や小中学校、各種団体、町内会、行政とも相談をしながら、密に連絡を取り合い、「やりたいう事やってみよう!」「やって出来ない事はない!」をスローガンに、「ゆるく」「楽しい」活動として実施をしています。



部門賞 パートナーシップ部門

選考委員からのコメント



NPO 法人まちなびや
理事長
弓削 幸恵

厄介者だったアカモクに付加価値をつけて販売する新たな経済の循環は、循環型社会の実現に寄与する取組として印象に残りました。また、高校生への学びの機会提供も次世代育成となっており、評価に値します。地元である静岡市民がスーパー等で買うことで手軽にSDGsに参加できる仕組みづくり等も期待したいと思います。

SDGs インパクト



【ターゲット4.4】
技術的・職業的スキルなどを備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる

【ターゲット4.7】
全ての学習者が、持続可能な開発の知識とスキルを習得できるようにする

アカモク商品の消費により、家庭レベルで海洋保全について学びきっかけを作ることができる。また、学校での授業を通じた地域課題・環境問題に対する学習機会の提供により、持続可能な開発の知識とスキルの向上が期待される。さらに、「うまいもん甲子園」を通じた実践的な連携事業により、学生の技術的・職業的スキルの向上にもつながっていく。



【ターゲット14.1】
海洋ごみ等を含むあらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減する

【ターゲット14.2】
健全で生産的な海洋を実現するため、海洋及び沿岸の生態系の回復のための取組を行う

漁業組合と連携してアカモクを新しい水産資源として注目することで、本来の藻場としての環境保全の確保につながり、適正な資源量調査及び水質検査等による生態系保全・回復に貢献することが期待できる。また、水産高校の学生にとっても、食を通じた海洋保全という取組により、海の豊かさを守る手法を学ぶことが可能である。



【ターゲット17.17】
効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する

公的団体、教育機関及び民間企業と連携し、アカモクを循環型の生産システムを構築しており、パートナーシップでSDGs達成を目指すロールモデルとなっている。地元の企業と連携することにより、地域の特産品、食文化として発信し、地域の魅力づくり・関係人口の創出にも貢献する取組である。

「邪魔モク」でSDGs！捨てられていたアカモクに付加価値を！

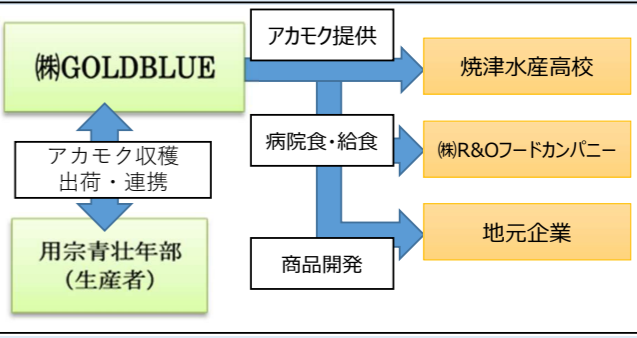
「(株)GOLDBLUE」×「用宗青壮年部」×「焼津水産高校」

1.取組概要
アカモクは元々捨てられていた海藻で漁師の間では「邪魔モク」と呼ばれていました。(株)GOLDBLUEは、その捨てられていたアカモクを有効活用しています。GOLDBLUEは漁師の若手組織（清水漁協用宗支所 青壮年部）と一緒にアカモクの収穫を行い、販売しています。収穫したアカモクで地元企業と連携し、商品開発することでアカモクを地域の特産品にする取組をしています。普段捨てられているアカモクを有効活用することで、食品ロスを削減することができ、循環型社会の実現に寄与しています。収穫されたアカモクは焼津水産高校が授業の一環で活用しており、学生がメニュー開発をし、「うまいもん甲子園」の全国大会に出場しています。アカモクを通じた、14.海の豊かさを守るの達成を目的として、誰一人取り残さない社会の実現を目指します。

2.該当するSDGs目標

- 4.質の高い教育をみんなに**
学生が自ら社会問題及び環境問題について考え、具体的な行動を起こすことで、技術的・職業的スキルの向上を目指しています。焼津水産高校はアカモクを使用したメニューを開発し、「うまいもん甲子園」の全国大会に出場します。GOLDBLUEは令和元年から現在まで、約500名の学生に授業をしてきました。（焼津水産高校・静岡東高校・駿河総合高校）
- 14.海の豊かさを守ろう**
捨てられていたアカモクを新たな水産資源として有効活用しています。アカモクの収穫は資源量調査や水質調査を行い、海の生態系に配慮した方法で収穫します。現在、従来であれば廃棄されるはずのアカモクを年間約5t削減することが可能となっています。
- 17.パートナーシップで目標を達成しよう**
老舗飲食店の丁子屋・あらしお株式会社とアカモクの知識経験があるGOLDBLUE社が連携をし、商品の開発・販売を行い付加価値の向上につなげています。R&Oフードカンパニーはアカモクをリハビリ施設のメニューに取り入れ、地産地消を推奨しています。今後は、さらに他の団体とも連携して事業の発展を目指しています。

3.取組イメージ



4.ポイント

静岡で収穫されていなかったアカモクに着目し、新しい水産資源を生み出すと同時に、循環型社会の実現に寄与しているところがポイントです。またアカモクを通して、地元の学校・企業と連携しており、地域の特産品・食文化として根付かせることができることも取組の魅力となっています。

5.取組が開始されたきっかけと展開

(株)GOLDBLUEは創業当初、静岡産のアカモクが見つからなかったため、他県産のアカモクを使用して商品の開発をしていました。GOLDBLUEのHPで活動を知った、用宗青壮年部の漁師からアカモクみたいな海藻があるので見てほしいと連絡もらったことがきっかけです。用宗海岸にはアカモクがたくさんあり、しらす・桜エビの漁獲量も年々下がっていることから、アカモクを収穫して静岡市の特産品にしようという取組をはじめました。最初の年はアカモクの収穫方法や見分け方・加工の仕方等手探りで、困難を極めました。GOLDBLUEと用宗青壮年部が何度も打ち合わせを行い、収穫方法・効率の良い加工を追求しました。2年がかりで効率良く収穫できるようになり、知らない方が多かったアカモクも知ってもらうことができました。多くのメディアがアカモクを取り上げてくれたこともあり、認知度が高まりました。

6.応募した取組の今後の計画・展開

現在、静岡の地元企業の力を借り多くのコラボ商品を開発しました。このおかげでより多くの消費者にアカモクを知っていただくことができました。今後は焼津水産高校と共同でメニュー開発の取組を進めます。また用宗青壮年部と協力し、海の豊かさを守り、水産資源の有効活用を行い食品ロスの削減を加速化させていきます。さらに、アカモクを通してGOLDBLUEが行っているSDGs活動を中高生に授業の一環として伝えていきます。資源には限りがあり、海の資源は年々大幅に減っています。元々捨てられていたアカモクに価値を与えることで、貴重な水産資源として活用できるだけでなく、アカモクを通して海の豊かさを守るために何が出来るのかを多くの方と一緒に考えていきたいと思えます。

7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

漁業で廃棄されがちなアカモクに対して、海藻加工の知識・経験をもつ事業所や団体が連携すれば、健康食品や化粧品ができることから、他の事業所・団体も真似しやすく、汎用性が高いと考えます。また、1社で取組を行うのではなく、地元企業や学校と連携することで、認知度を上げることができます。巻き込む人が多いほど、メディアにも注目してもらいやすいです。地域一丸となるように働きかけをすることは、全国どこでも真似しやすく汎用性が高いです。



下記の写真のように、アカモクは焼津水産高校の環境に関する授業で取り上げられました。現在は、生徒がアカモクを使ったメニュー開発を進めています。他の高校でもアカモクを通して、SDGsの具体的な取組を授業でお伝えし広まっています。全国でも同様の取組が広がっていくことが期待できます。





部門賞 サステナビリティ部門

選考委員からのコメント



学校法人星美学園
静岡サレジオ 小・中・高等学校
教諭
(SDGs 推進担当)
下村 明宏



2021年度
JCI グローバルユース
国連大使
星野 杏奈

私たちは、飲食に限らず豊かな生活を追い求めようとするほど、看過することのできない別の課題を生み出しているのが現状です。家庭でも日常的に廃棄されているコーヒーかすは、肥料のみならず消臭や除湿、防虫にも再利用できるようです。本取組の広まりは、私たちの意識を変えるだけでなく、行動を変えることにもつながるでしょう。

SDGs インパクト

12 つくる責任
つかう責任



【ターゲット 12.5】
発生防止、削減、再利用等により廃棄物の発生を大幅に削減する
【ターゲット 12.8】
持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする

年間約2トン廃棄処分していたコーヒーかすを、企業と連携して堆肥化する取組は、廃棄物の排出量を削減することにも貢献している。また、様々な人がこの取組に参加することにより、堆肥化から作物の栽培、収穫を通じて、持続可能な開発及び自然と調和した生活様式に関する情報と意識を持つことにつながっていく。

17 パートナリシップで
目標を達成しよう



【ターゲット 17.17】
効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する

NPO 法人と民間企業による連携した生産システムを構築しており、決してこの地域でしか構成されないパートナーシップではなく、全国の地域で展開できる内容であり、SDGs 達成を目指すロールモデルとなるのが期待できる。実店舗であることを活かした店頭での情報発信により、コーヒーの購入者がこの取組に参加し、さらなるパートナーシップの構築も可能である。

8 働きがいも
経済成長も




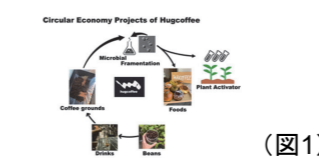
【ターゲット 8.5】
完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事等を達成する
【ターゲット 8.6】
就労、職業訓練等を行っていない若者の割合を大幅に減らす

NPO 法人と連携し、障がいのある方々に堆肥作りから作物の栽培を依頼することで、新たな仕事及び雇用の創出につなげ、働きがい及び経済成長に貢献する取組となっている。今後栽培した作物の販売からメニュー開発により、さらなる仕事・雇用の創出が期待できる取組である。

コーヒーの力を信じて。持続可能な循環型社会

「(株)hug coffee company」×「富士見工業(株)」×「ワークショップり〜ふ」

<p>1.取組概要</p>	<p>hugcoffeeは静岡市内でコーヒーショップを3店舗運営しており、年間約2トンものコーヒーかすを廃棄処分していました。NPO法人まあぶるが運営する『ワークショップり〜ふ』、農業資材事業を取り扱う『富士見工業株式会社』と協力し、コーヒーかすを堆肥化し有効活用する事で廃棄ロスを削減し、循環型社会に寄与しています。また実店舗でお客様をお迎えしつつ、様々な企業、団体との関わりを持つ弊社が取り組むことで、SDGsを広く知ってもらうきっかけになることを目指しています。</p>	
<p>12 つくる責任 つかう責任</p>	<p>コーヒーショップを運営するうえで、日々大量に排出されるコーヒーかすを有用化し、ゼロミッションを目指しています。3店舗合わせて年間約2トンのコーヒーかすを廃棄していましたが、排出されるコーヒーかす全てを再利用できるよう取り組んでいます。</p>	<p>3.取組イメージ</p>  <p>日々排出されるコーヒーかす コーヒー1杯で訳20g 年間にしておよそ2トンの コーヒーかすが排出されます</p> <p>ワークショップり〜ふにて堆肥製造</p> <p>堆肥業界において分析機関をもつ 富士見工業での堆肥製造</p> <p>堆肥を使用して 栽培した野菜</p>
<p>17 パートナリシップで 目標を達成しよう</p>	<p>・hugcoffee ・日頃から堆肥作りを行っている障がい者の生活介護事業所ワークショップり〜ふ ・農業の専門的知識をもつ富士見工業株式会社 この3社が日々の業務からそれぞれに連携することで付加価値の向上を目指します。 更に、実店舗を運営するhugcoffeeの発信力を用いて他団体とも連携しています。</p>	
<p>8 働きがいも 経済成長も</p>	<p>ワークショップり〜ふの協力のもと、重度の障がいを持つ方々にコーヒーかすを使った堆肥作り、及び堆肥を用いて野菜などの作物の栽培を行っていただいております。 この活動を通し、仕事・雇用を創出する事を目指しています。</p> <p>4.ポイント</p> <p>コーヒーかすを使った堆肥作りにおいて、3社とも日々の業務の中で取り組むことができ、特別な費用や技術は用いておりません。 この取り組みを始めるにあたり、“持続可能なこと”を第一条件としました。循環型社会を達成するためには、SDGsの達成を目的とするのではなく、日々の営業をする中で自分たちに出来ることは何かを探る事が大切だと考えています。</p>	

<p>5.取組が開始されたきっかけと展開</p> <p>コーヒーショップを3店舗運営するうえで年間約2トンものコーヒーかすが排出されます。スペシャルティコーヒーを取り扱う中で生産者の方たちから消費者へのバトンをつなぐだけでなく、大量に排出されるコーヒーかすを何かに再利用できないかと模索していました。そんな時お世話になっている福岡のワークショップり〜ふが、社員の友人の勤め先である『富士見工業株式会社』の協力を経て、コーヒーかすの堆肥化を目指した取組が始まりました。まずはコーヒーかすが堆肥になるのか不安でしたが、試行を重ねて無事堆肥化に成功しました。り〜ふさんでの作物の栽培に加え、自分たちでも野菜の栽培を試みています。今後はコーヒーかす堆肥の安定した製造、実店舗での堆肥で育てた野菜を使ったメニューの提供や、野菜自体の販売、堆肥の販売を目指しています。</p>	<p>7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント</p> <p>コーヒーかすに限らず、どんな飲食店でも営業するうえで多くの生ごみ、食べ残しが排出され、その多くが破棄され、日本における“フードロス”は今や社会的な問題といえます。どんな飲食店の皆様でも、農業や微生物についての知識・経験をもつ企業や団体と連携することで“フードロス”を減らし循環型社会を目指すことができ、汎用性の高いパートナーシップが実現すると考えています。また、この取組で作った堆肥や作物を利用することで、どんな方でもSDGs達成に貢献することが出来ます。 多くの方にこの取組に参加していただくことで、SDGsに掲げられている『2・飢餓をゼロに』や『12・つくる責任つかう責任』などが達成でき、新しい雇用の創出など飲食以外の団体にも広がっていくことが期待できます。</p>
<p>6.応募した取組の今後の計画・展開</p> <p>現在は、さらに協力団体を増やすことに尽力しています。実店舗のhugcoffee紺屋町店の近隣に店舗を構えるタイ料理店『サバードール』の持つ農園『山口農園』にて、コーヒーかすを使った堆肥を使用していただき、収穫した野菜の販売と商品利用を行っていきます。この取組を定着させ、店頭販売に加えて、コーヒーかすを使った堆肥自体の販売も行いたいと考えています。また、公的な研究機関とも協力しコーヒーかす堆肥の科学的、実地的な効果を測定していきます。(図1) 静岡県内で排出されるコーヒーかすは国内最大の量であるので、効果を確認、生産技術が確立された際には、弊社の情報を公開し、県内大手コーヒー生産企業の工場等でもコーヒーかすの再利用に取り組んでいただけたらと考えています。さらに、弊社の従業員が外部講師を務める静岡県立静岡商業高等学校の課外授業『ライフマネープラン』において、弊社の取り組みを次の世代へも発信していきます。 認知度、ブランド力を活かしSDGsの周知を図ることは、弊社のような小さな会社にもできる大切な役割であると認識しているため、今後も積極的に発信をしていきます。</p>  <p>(図1)</p>	



部門賞 ユースアクション部門

選考委員からのコメント



学校法人星美学園
静岡サレジオ 小・中・高等学校
教諭
(SDGs 推進担当)
下村 明宏



2021年度
JCI グローバルユース
国連大使
星野 杏奈

これからの社会を担っていく子どもたちが主役となって進んでいる点、また SDGs についてはもちろん、地域のことも学ぶことができる点が、非常に魅力的でした。この取組が全国各地に広がり、それぞれの地域でわが街の SDGs を共有できたら、サステナビリティの実現につながります。一緒に SDGs を通じて地域を盛り上げていきましょう！

SDGs インパクト



【ターゲット 4. 4】
技術的・職業的スキルなどを備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる

【ターゲット 4. 7】
全ての学習者が、持続可能な開発の知識とスキルを習得できるようにする

小学校が授業等で提供する内容に加え、市民団体が小学生の段階から、単に学ぶだけでなく、身近な地域を歩いて企業や公共施設を訪問し、見て触れながら体験させる活動は、将来の技術的・職業的スキルの向上と持続可能な開発の知識習得につながることを期待できる。



【ターゲット 11.3】
包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、人間居住計画・管理の能力を強化する

【ターゲット 11.7】
安全で包摂的かつ利用が容易な公共スペースへの普遍的アクセスを提供する

身近な地域の企業や公共施設を訪問し、SDGs の取組を知ることで、子ども自ら持続可能な都市について考える機会を提供し、同時に地元人材の育成にもつながっていく取組である。また、事業所・団体がごみ処理場などに連れて行き、子どもに身近な存在であることを伝えることによって、公共スペースに対する心理的距離を縮めることに貢献できる。



【ターゲット 17.17】
効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する

市民団体が中心となり、行政や企業と連携して、子どもに SDGs を知る・行動するきっかけを提供する取組は、活動をするたびに様々な関係者が参加することが期待でき、パートナーシップの奨励・推進の貢献につながっていく。

未来の主役は私たちだ！子どもたちが作るSDGsマップ

「麻生区SDGs推進隊」×「川崎市」×「地域」

1. 取組概要
麻生区内在住の小学校4年生～中学校1年生が自分たちの街を可視化する「SDGs推進隊」を結成し、学校横断型のコミュニティを作りました。区内にある企業、お店、農家、公共施設等を巻き込み、SDGsにつながるもの探しをしています。ここで得た情報を「SDGsマップ」として作成し、区内小中学校や教育関連、社会福祉施設等への配布をすることによって、街にあるSDGsを「見える」ようにします。同時に固定概念がない子どもたちの想いや行動は、大人たちへのリターンエデュケーションに繋がっています。

2. 該当するSDGs目標

- 4. 質の高い教育をみんなに**
学校教育におけるSDGsの取組み事例が少なく、教育上、環境問題に焦点が当たってしまいがちな中、学校横断型であり官民学連携で実施できる活動であることから「生きたSDGs」に直接触れられる機会があることです。
- 11. 住み続けられるまちづくりを**
行政や街（市民団体等）の動き、企業の行動などを知ることによって「自分が出来ること」について理解と行動に移せることです。また学校外でのコミュニティが出来ることによって、次代のまちづくりの旗手が育ってくれると考えています。
- 17. パートナシップで目標を達成しよう**
2030年度までの活動を通じ、SDGs推進隊としてのコミュニティを形成します。（23人（本年度）×10年＝230人）つながり方や働き方も多様化の中で、意識を持った仲間づくり、シビックプライドの醸成に繋がると考えています。

3. 取組イメージ



4. ポイント

活動内容はシンプルですが、地域や企業巻き込み型での実施となるため、「SDGsに取り組むまち」の成果物として、高いオリジナリティが特徴です。また活動の持続化によって関係人口を創出することで、地元人材の育成にも寄与すると考えております。

5. 取組が開始されたきっかけと展開

2020年の教育指導要領改訂により、小学生からSDGsについて触れている一方で、そのほとんどは座学であり、インプット型となっています。当地は農業へのアクセス、自然環境が豊かであることからSDGsのゴールにつながる「可視化できる人・モノ・コト」は多く存在すると思われました。SDGsの認知はあるものの、具体的に何と結びつのかを明確に説明できる者は多いとは言えない現状において、本活動における主目的は、SDGsを知る「きっかけ」を提供し、ローカルでその深度を強めることにあると思います。企画しました。未来のまちづくりを担う小中学生を対象にメンバーを集め、SDGs推進隊として活動し、成果をSDGsマップとして作成。「ローカルSDGs」を可視化して、22年1月には子どもSDGsフォーラムを実施します。活動は2030年度まで継続し、生活環境以外での若者のコミュニティを作っていきます。

6. 応募した取組の今後の計画・展開

活動初年度となる本年は、①SDGs推進隊の活動のプロモーション動画を作成 ②地元にある人・モノ・コトをSDGsのゴールに結びつけ、マップを作成し、各小中学校に配布します。③上記で作成した地図や活動の成果報告とともに、市長、区長、教育委員会や校長会、識者等をお招きして「このまちのSDGs」について対談を行います。次年度以降は、紙で作成したマップをデジタル化させ、アプリで誰でも使用できるようにします。推進隊活動を区外にも広め、「つながる」場を作り、交流を図ってまいります。距離的な問題はオンラインの特性を活用し、「自分たちの街」を発信する場を設け、シビックプライドの醸成へとつなげていきたいと考えています。

7. 汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

- 自分たちが取り組みたいSDGsを宣言する
17のゴールアイコンが書かれた用紙を準備し、自分の街で取り組んでみたい、解決したいことに関するゴールを選び、内容を書いてもらう。→宣言内容を動画に収め、Youtube等でプロモーション動画として公開します。
- 行政が作成する地図+SDGsのゴールが書かれた付箋に事業者や場所、モノの情報と内容を書き込み、地図に張り出します。
※活動費助成のためSDGsに取り組む企業からの支援、クラウドファンディングの実施による広報活動も展開します。
- 企業、お店、農家、ごみ処理場などの公共施設への訪問を通じ、実態経済の中でどのようなSDGsアクションがあるかを体感します。
- 推進隊活動の活動報告と、子どもたちが思う、この街の未来について「SDGsフォーラム」と銘打ちイベントを実施します。実施模様は動画撮影し、記録として残します。
- 他行政区で実施する推進隊とオンラインでつなぎます。知らない地域が広がることで、自分の街が好きになるきっかけを作ります。



特別賞

選考委員からのコメント



NPO 法人まちなびや
理事長
弓削 幸恵

誰もが参加しやすい松葉かきに始まり、商品開発と売上の寄付までの好循環がイメージできます。SDGsの視点が文化遺産の保全強化につながるのと同時に、観光にも活かせると感じました。観光客が松葉かきを行い、その松葉で食べ物を焼いて食べる企画など想像が膨らみます。世界遺産をもつ静岡にふさわしい素晴らしい素晴らしい取組であると思います。

特別賞のポイント

★ 汎用性・SDGsへの取組の観点だけでなく、三保松原という静岡市の**観光資源**に対しても寄与する内容であり、このような取組により静岡市を盛り上げていきたい

★ 単にごみを拾うだけでなく、そこから地域の**魅力発信**につながる商品の開発を行う取組は、ぜひとも全国で真似してほしい

SDGs インパクト

11 住み続けられるまちづくりを 【ターゲット 11.4】 世界の文化遺産及び自然遺産の保護・保全の努力を強化する 三保松原の保全活動の実施及び商品の売上の一部を環境保全費として寄付することは、三保松原の文化遺産の保全強化につながっていく取組である。

12 つくる責任 つかう責任 【ターゲット 12.8】 持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようになる 松葉かきの活動から、それを利用した商品を消費する一連の流れは、持続可能な開発及び自然と調和した情報と意識を持つことにつながっていく。

15 陸の豊かさも守ろう 【ターゲット 15.1】 陸域生態系及びそのサービス保全、回復及び持続可能な利用を確保する 自主的な三保松原の保全活動の実施及び商品の売上の一部を環境保全費として寄付することで、今後も継続して陸域生態系の保全・回復が期待できる。

スリーリングSPJ (1000年先を1000人のチカラで・・・)

「なすびグループ」×「みほしるべ」×「(株)otono」

1.取組概要 三保松原における定期的な松葉かきと、枯れ松葉を利用した商品を開発及び売り上げの一部をみほしるべに寄付という循環型、持続可能な活動の実施しています。今後は他企業及び学生を巻き込んで活動の拡大化、持続化を目指して活動中です。そして、1000年先と同じ景色を残すために毎回1000人での持続可能な松原保全活動を行います。
* 該当項目は11、12、14、15。今後は17も追加していく予定。

2.該当するSDGs目標	<p>11 住み続けられるまちづくりを 2020年2月に全社員約300名(パート、アルバイトを含む)で松原保全活動を実施し、静岡市文化財課へ売上の一部(約20万円)を環境保全費として寄付しました。更に定期的に松葉かきを行うことで世界文化遺産の保護・保全を強化し、持続可能な活動にしています。</p> <p>12 つくる責任 つかう責任 回収した枯松葉の利用によって、天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用が達成できます。更に、三保松原焼きの開発により、文化振興、産品販促につながります。また枯松葉の利用は廃棄物削減にも効果的です。</p> <p>15 陸の豊かさも守ろう 広大な松林を維持する為に活動の拡大化を目指します。その結果、地域の方々の意識変化や活動自体への自発的な参加の増加など地域活性の推進力になると共に、松原保全を実現化します。</p>
---------------------	---

3.取組イメージ	<p>三保松原保全活動日を告知 →定期的な松葉かき →枯れ松葉を持ち帰り、利用 →三保松原焼きを提供 →売上の一部を静岡市文化財課へ寄付 →松原の保全を強化</p>
4.ポイント	<p>松葉かきするだけでなく、回収した枯松葉を利用し、三保松原焼きの発信と合わせ広報活動も行うことで、将来的にまちの経済を活性化し、好循環型のまち静岡を生み出し、住み続けられるまちづくりを実現していくことです。</p>

5.取組が開始されたきっかけと展開 2013年地元の新聞社が三保の世界遺産登録をきっかけに始めた三保松原の松葉かきが2018年を最後に終了するという話を聞き、どこかの企業がバトンを受け取らなければ、活動が本当に終わってしまうと考え、弊社が受け継ぐことにしました。当時、みほしるべの初代所長が私の高校(清水南高校の先輩ということもあり、三保に地区に掛ける思いが共通していたこともあり、松葉かきにおける協力体制確立の段取りは非常にスムーズに進みました。しかし、経済活動なきただの松葉かきだけでは企業として継続が難しいであろうと考え、落ち松葉を使った商品を開発して、それを販売することになりました。しかし、残留農薬の問題や、落ち松葉の利用許可の問題など簡単には進まず、静岡農業高校さまや市役所にもご尽力いただき、やっと落ち松葉を使った「三保松原焼き」という商品が誕生しました。

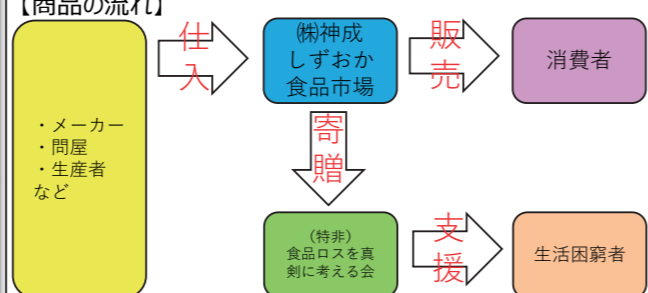
6.応募した取組の今後の計画・展開 今はまだこの活動における協力企業が数社ですが、今後は県内の各企業と共に、松葉かき及び商品開発を進め、全国にこの活動と商品を発信することで、三保松原の保全活動を巨大化させていきたいと考えております。また、企業だけでなく、学生ボランティアも作り、企業と学生でマッチング事業も展開していきたいと考えております。今の学生は環境問題や地域問題に興味深いと言われております。そこで、この活動を通じて、企業側の考える環境問題、学生が考える環境問題、そしてそこから生まれる企業の環境への取組のスタート地点になる活動になればと考えております。また今後、この活動がHUBになり、多くに企業や学校、学生、地域が三保に目を向けて、ひいては松葉かきの枠を超えて地域ブランドの確立と学生企業のマッチングの場になることが将来の狙いでもあります。

7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント 非常にシンプルです。
① 毎週土曜日と決めて定期的に松葉かき
② SDG'sについてのディスカッション
③ その松を使って商品開発
④ その売り上げの一部をみほしるべに寄付

しかし、これらの活動が企業の好き勝手ばらばらにやっても最高の効果が生まれません。組織化して、仕組みをしっかりと作って、他企業とも連携をして大きな活動にしていく事が望ましいと考えます。コロナ禍で人が集まるのが難しい中、この活動は屋外で多くの人と触れ合うことができる素晴らしい効果も生み出せます。また、短時間で誰でも参加できる手軽さから地域の方々や他企業の参加によってより多くの方を巻き込んでの活動が実現できます。また個人、企業の意識変化によって更に拡大していき、将来、当たり前の活動として認識され、持続可能な活動に繋がります。また構成事業所名と1000年1000人に「0」が3つという点と三保の三を取ってスリーリングSPJとしました。

「まだ食べられるのに、もったいない」でSDGs

「(株)神成」 × 「(特非) 食品ロスを真剣に考える会」

<p>1.取組概要</p>	<p>(株)神成は、賞味期限の切迫・規格外・パッケージの不良などを理由に廃棄されてしまう訳あり食品をメーカーや問屋、生産者から仕入れ、しずおか食品市場にて消費者へ販売することで循環型社会の実現に寄与しております。また、連携する特定非営利活動法人「食品ロスを真剣に考える会」を通じ、生活困窮者や福祉事業所への食料品の寄贈を行うことで飢餓をなくす活動もしております。</p>		
<p>2.該当するSDGs目標</p>	<p>1 貧困をなくそう</p> <p>安全に食べられる賞味期限切れや規格外の訳あり食品を安価に販売することで貧困問題をなくすことを目指しています。 令和3年度は現在までに約3万名のお客様に食料品を販売しました。</p>	<p>3.取組イメージ</p> <p>【商品の流れ】</p> 	
<p>12 つくる責任 つかう責任</p>	<p>メーカーや問屋が通常の卸先に卸すことが難しい訳あり食品を仕入れることで食品ロスの削減を目指しています。 令和3年度は現在までに50万点以上の食品を仕入しました。</p>		
<p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	<p>食品は「分ければ資源、捨てればゴミ」となります。また、水分を多く含む生ごみは、その燃焼により、多くの温室効果ガスを排出することに繋がっております。ゆえに、食品ロスを削減することは、温室効果ガスの削減に繋がります、気候変動への対策となっております。</p>		
<p>4.ポイント</p>			
<p>①地球環境を守る。 ②貧困・飢餓を減らす。家計を守る。 ③企業の廃棄コストを減らす。</p>			

<p>5.取組が開始されたきっかけと展開</p> <p>令和2年春に新型コロナウィルスにより仕事を失い食べることにさえ困っている人がいるという一方で、学校の休校により給食用の食材が廃棄されていたり、飲食店の時短営業や閉店により食材卸会社も卸先が無くなるという報道を知りました。違う悩みで困っている双方を繋ぐことにより貧困や飢餓を減らし、企業の助けにもなり、それが食品ロスの削減及び地球環境を守ることに繋がると思い立ち取組を開始しました。</p>


<p>7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント</p> <p>近隣地域の問屋や農家さんと連携することで物流スピードが上がり、また物流コストを抑えることができるため消費者により安全で安い食品を提供することができます。地域に密接した事業所や団体がこの事業を取り組むことが適していると考えられます。小売業を運営している事業所や団体は既存事業所の一角から始めることができるのもポイントです。</p>



<p>6.応募した取組の今後の計画・展開</p> <p>今後はメーカーや卸売り問屋だけではなく地域住民や自治体などとの連携を深めることで食品ロス問題の認知を高める取り組みをしていく予定です。</p>
--

SDGsを通して企業と企業を結ぶ

「(株)ノースジニアス」 × 「(福)南幌福祉会」 × 「(特非)麻生キッチンりあん」

<p>1.取組概要</p>	<p>(株)ノースジニアスでは、SDGsに取り組む企業・団体・個人様へ取材を行い、North SDGs MediaというSDGs専用サイトへ掲載しています。「SDGsを通して企業と企業を結ぶ」ことを目的とし、企業同士つながることで、既存の取り組みの拡大や、新たなビジネスを創出する機会を生み出しています。南幌福祉会と麻生キッチンりあんのパートナー締結を創出し、南幌福祉会で余った災害用備蓄品の食料を定期的に麻生キッチンりあんへ寄贈し、子ども食堂を通して子どもたちに栄養ある食事を届けています。</p>		
<p>2.該当するSDGs目標</p>	<p>2 気候をゼロに</p> <p>毎月1~2回子ども食堂を開催し、子どもから大人まで脆弱な立場にある人々が、安全かつ栄養のある食料を得られることを目指します。</p>	<p>3.取組イメージ</p> 	
<p>12 つくる責任 つかう責任</p>	<p>これまで廃棄していた食品を子ども食堂へ寄付することで、食品ロスの削減を目指します。</p>		
<p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p>	<p>1~16の目標を達成するためにパートナーシップの促進は欠かせないものとして、これまで約24社を取材し、HP上にて取材動画とSDGs解説動画を合わせて40本ほど公開中です。メディアを通じて認知度の向上と、様々な業種や職種の企業がつながる機会を創出しています。</p>		
<p>4.ポイント</p>			
<p>ノースジニアスの業態上、「SDGsをサービスや商品に組み込むことが難しい」ということを逆手に取り、包摂的な取り組みを行うことで、誰もがSDGsの活動を発信できるツールの役割を果たします。</p>			

<p>5.取組が開始されたきっかけと展開</p> <p>代表がSDGsのセミナーに参加し、自社でもSDGsに取り組んでいくべきという話を共有されたことがきっかけです。ただ、ノースジニアスはグループカンパニーの本社機能の役割を果たす会社であり、サービスや製品を直接提供しているわけではなく、様々な業種や職種で構成されているグループカンパニーと常に関わり、発想の転換を繰り返しているという当社の強みを活かすことにしました。そしてNorth SDGs Mediaを立ち上げました。SDGsの認知度もまだ高い現在、メディアを活用して企業の取り組みを社会に発信すること、そして、メディアを見た他の企業から共感を呼び、今では取材を行った企業へ、動画を見たテレビ局や雑誌からの取材依頼、NPO法人様への活動費寄付や、食料の寄付などが寄せられ、SDGsの認知向上と“つながり”が生まれています。</p>
--


<p>7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント</p> <p>SDGsに取り組みたい・興味がある、すでに何かしらSDGsに関わる活動をしている方など、業種や職種に関係なく取材を行わせていただき、動画や記事を通して情報発信することや、セミナーへ参加していただくことが可能です。また、「今まで捨てていた食材を何とかしたい」「こういうことができる企業がいたら一緒に活動したい」などの想いがあれば、相応の企業様などを紹介し、つなげることが可能です。実際に、社会福祉法人で災害時の備蓄品として保管されていた食料を「もったいないから捨てたくない」というお話をいただき、子ども食堂を運営しているNPO法人や、フードバンクを運営しているNPO法人様を紹介し、捨てることなく寄贈されることになりました。</p>
--

<p>6.応募した取組の今後の計画・展開</p> <p>今後はメディアの活動だけではなく、更なる認知向上と企業の取り組み促進のため、SDGsセミナーの開催や、どのように取り組めば良いか困っている企業へのコンサルティングなどを計画しています。</p>



農福連携でくらしの豊かさの実現を目指す

「JALみず」 × 「nanairo」

<p>1.取組概要</p>	<p>JALみず（清水農業協同組合）は就労継続支援B型事業所nanairoと農福連携の取り組みを行っています。nanairoが行う耕作放棄地を利用した野菜栽培や、農産物販売をJAがサポート。また、JALみずのパッケージセンターで行っている農産物の加工や箱詰めなど、出荷調整作業をnanairoに委託しています。障がい者施設と連携することで、農業者の負担軽減、地域への農産物の提供を通じて、持続可能な農業を目指しています。</p>	
<p>2.該当するSDGs目標</p>	<p>2 気候をゼロに JAでは農家が「栽培」に集中できるよう、出荷調整作業（出荷準備）を担うパッケージセンターを運営しています。また、熟しすぎて出荷できなくなったイチゴをかき氷にして販売することで食品ロスを減らしています。nanairoに、エダマメの出荷準備や、イチゴのへた取り、などの単純作業を依頼しています。</p>	
<p>8 働きがいも経済成長も</p>	<p>エダマメの出荷準備や、イチゴのへた取りをnanairoに依頼することで、農家の出荷労働力軽減につながっています。農家は、栽培に集中する事ができると同時に、労働時間の短縮で、ゆとりのある生活をおくる事が出来ます。</p>	
<p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	<p>nanairoの利用者はチーム一体となって受注作業の達成を目指しています。連帯感が生まれ労働意欲向上にもつながっています。</p>	
	<p>3.取組イメージ</p>  <p>4.ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 1月～5月のイチゴの単純な出荷・加工作業と6月～10月のエダマメ出荷作業と通年で仕事を依頼しています。 ・1年を通じて仕事を依頼することにより、nanairo利用者の就労意欲向上と、農業者の出荷労働力軽減につながっています。 	

5.取組が開始されたきっかけと展開

nanairoが、耕作放棄された畑を借りて、野菜栽培事業をスタートするにあたり、JALみずが栽培方法や、採れた野菜の販売方法などのノウハウをサポートし、連携活動がスタートしました。そんな中、農家から、作物のパック詰め作業に時間がかかりすぎて栽培面積拡大が図れないとの相談があったことから、JALみずはパック詰め作業などを請け負う「パッケージセンター」を開設しました。パッケージ作業を行うための、労働力確保と障がい者雇用の創出を目的に作業の一部をnanairoに依頼しています。

6.応募した取組の今後の計画・展開

現在はイチゴ、エダマメの加工、パック詰めなどの作業を行っています。イチジクなど、その他の農作物にも対応できるようパッケージセンター機能を拡充する予定です。取り扱う農作物を増やし、農業者の作業負担軽減と障がい者雇用の創出につなげていきます。農家はこれにより、栽培規模を拡大したり、より農産物栽培を中心に、働くことができます。

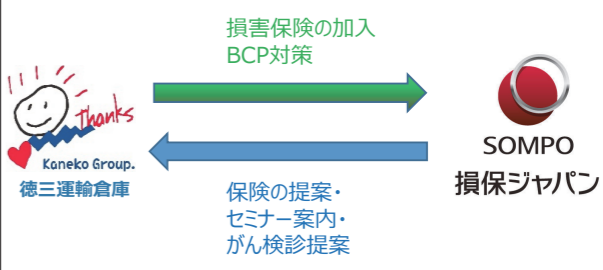
7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

農業者にとって、農産物を守るための「ヘタ取り」など、出荷調整作業は単純ですがとても負担が大きく時間がかかる作業です。障がい者施設との連携により、お互いの持ち味を活かせるWinWinの活動につながります。農業者や農業団体と障がい者施設の連携(農福連携)は取り組みやすいポイントだと思います。



「保険の整備拡充」でSDGs！会社にも従業員にも適切な保険を。

「徳三運輸倉庫(株)」×「損害保険ジャパン(株)」

<p>1.取組概要</p>	<p>徳三運輸倉庫で加入する損害保険の一部を損保ジャパンで取り扱うとともに、健康経営や従業員の福利厚生観点からもがん予防等の取り組みをご紹介いただき、企画として推し進めることで、会社にも従業員にもメリットのある保険を推し進めています。</p>	
<p>2.該当するSDGs目標</p>	<p>1 貧困をなくそう 損害保険についての拡充を進めるとともに事故削減に努めることで、経済損失削減と災害時の補償領域拡大・BCP対策をすることで、従業員の雇用確保・雇用の安定にもつなげています。</p>	
<p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	<p>損保ジャパンのご協力により無料で事故削減及び従業員の福利厚生やがん検診等のセミナーを開催いただき、健康経営を加速させています。</p>	
<p>8 働きがいも経済成長も</p>	<p>損害保険を充実させ、健康にも配慮した経営をすることで、従業員が安心して働ける職場環境を構築します。</p>	
	<p>3.取組イメージ</p>  <p>4.ポイント</p> <p>保険に関して多角的な視野を持つことで、会社にも従業員にもメリットのある物を模索したり、無料でもセミナー等の開催を打診することもできるため、連携した情報交換がポイントです。</p>	

5.取組が開始されたきっかけと展開

損害保険の分野で元々お取引があった中、損保ジャパンの担当者さんと情報交換を密にしたり、会社として取り組んでいること等を紹介する中で、従業員の福利厚生や従業員向けセミナー・がん検診等のご提案をいただきました。

6.応募した取組の今後の計画・展開


今後の展開としては、従業員向けセミナーの開催を通じてがん検診を広く周知し、簡易ながん検診を受診してもらい、従業員にもご家族にも安心して働いていただく環境を整備します。また、家族も含めたセミナーや検診等にもつなげていき、その伴う休みも取りやすい環境づくりに努めていきたいと思っています。

7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

損害保険だけでなく、幅広い情報交換の中から、適切なサービスや情報提供をいただくことで、無料コンテンツも含めて様々な取り組みや企画・サービスに発展させることができるため、情報交換を密にすることがわかりやすく真似しやすいポイントです。

ことばの壁をこえ心もからだも健康に

「静岡県済生会」×「外国人のための無料健康相談と検診会」×「静岡県国際交流協会」

<p>1.取組概要</p>	<p>日本に住む外国人の方々が定期的に検診を受け、健康な生活を送れるよう「外国人のための無料健康相談と検診会」と連携し、無料健康相談会を開催しています。医療通訳が必要な方には、静岡県国際交流協会と連携し、診察及び入院時に支援・調整を行っています。</p>
<p>2.該当するSDGs目標</p>	<p>3.取組イメージ</p>
<p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	
<p>10 人や国の不平等をなくそう</p>	<p>一人ひとりに適切な医療を提供する為、静岡県国際交流協会・静岡県立大学等と連携し、医療通訳による正確な情報伝達、コミュニケーションを図ります。令和2年度は7カ国、医療通訳者6名により206名の外国人に通訳を実施しました。</p>
<p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p>	<p>4.ポイント</p> <p>日本では聴診など簡単な説明で行うことが多いですが、海外では医師が「何をするのか」「なぜ必要なのか」「どのようなことをして欲しいのか」そして「どのようなことが予想されるのか」ということを逐一説明することが少なくありません。診断の結果を説明するときのみならず、診察の途中でもこれから何をするかなど、可能な限り説明をきちんと行うことで安心して受診・入院できるよう支援しています。</p>

5.取組が開始されたきっかけと展開

健康保険証が無い、言葉が通じない、経済的に余裕がない等の理由から検診を受ける機会が少ない外国人のために始めました。開始当時は静岡県に医療通訳の制度が無く、外国人の方の受診が困難なケースもありましたが、静岡県国際交流協会と協力して現在の体制となっています。

6.応募した取組の今後の計画・展開

毎年行っていた無料健康診断はコロナ禍でオンライン対応となり、昨年の利用者は減ってしまいましたが、今後は静岡市静岡医師会に協力を仰ぎ検診会の充実を図ります。



7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

医療通訳の研修を行い、通訳者を増やしていく計画です。




「ひろう」ことからSDGsを考える地域清掃プロジェクト

「常葉大学附属橘中学・高等学校」×「瀬名地区自治体」×「日本たばこ産業 静岡支店」

<p>1.取組概要</p>	<p>静岡市主催の「SDGs学生交流会」にて常葉大学附属橘中学・高等学校とJT静岡支店の繋がりができたことで本プロジェクトが開始しました。誰もが気軽に取り組める「清掃活動」をキーワードに、「ひろう」ことを通じてSDGsの観点を考えていきます。取組みは「知識」「実践」の2段階構成となっており、JTが行う清掃活動について生徒へ講演した後、実際に生徒が地域清掃を実施します。体験しながら「15：陸の豊かさを守ろう」について学び、同時に生徒同士や近隣団体・企業との「17：パートナーシップ」を強化することを企図しています。SDGsを身近なものとして捉え、地域との連携強化や更なる波及を目指しています。</p>	
<p>2.該当するSDGs目標</p>	<p>3.取組イメージ</p>	
<p>4 質の高い教育をみんなに</p>	 <p>2021年2月 橘高校での講演</p>	 <p>ひろ街取組イメージ</p>
<p>15 陸の豊かさも守ろう</p>	<p>講演後、実践編として生徒参加の「ひろ街」を企画しました。本校を拠点とし、瀬名地区の地域清掃ボランティアに約200名が参加予定です。 ※9月開催予定でしたが、コロナ影響で10月へ延期となっています</p>	
<p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p>	<p>4.ポイント</p> <p>誰もが気軽に取り組める「清掃活動」をキーワードに、SDGsの観点(15,17)を体験しながら学び、同時に生徒同士、地域や他企業とのパートナーシップを生み出すことができるのがポイントです。清掃の合間に参加者と楽しく話したり、今まで通らなかつた道を歩き、新しい地域の魅力を再発見することができるのが大きな魅力となっています。</p>	

5.取組が開始されたきっかけと展開

橘高校では、部活動および生徒会の活動にSDGsを意識して活動するよう17テーマの中から身近にできるテーマを選び具体的な活動を行うように推進したり、中学でもSDGsをテーマに探究活動を行うなど、学校としてSDGsを意識した取り組みが行われていました。そこで静岡市が主催した「SDGs学生交流会」に両者が参加しており、JTの清掃活動なら生徒でも参加しやすいと、橘高校の教員から静岡市を経由して連絡したことがきっかけです。その後、学校で設けている総合の授業内で「JTのSDGsにおける取組み」を生徒約400名の前で発表しました。知識(講義)から実践(清掃活動)へ発展させるため、今年9月にひろ街の実施を企画しました。実施において、生徒約200名と瀬名地区自治体が参加する予定です。



6.応募した取組の今後の計画・展開

現在、企画したひろ街は緊急事態宣言の影響を受け10月開催に延期となっています。その期間を準備期間と捉え、感染対策に気を配りつつ参加団体・企業との関係強化を目指しています。

7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

清掃活動を通してSDGsに取り組んでいるので、真似しやすいのが特徴です。お子さんから高齢の方まで、誰でもトングとゴミ袋さえあれば気軽に活動することができます。



また、お祭りなどのイベント時にも清掃活動を実施できます。現在の状況では難しいものがありますが、参加された方と一緒に清掃活動をすることで、地域でのお祭りがより身近なものになることを期待しています。



未来に向けて、街づくりを自分達の手で

「(株)nexus静岡」 × 「大富中学校」

<p>1.取組概要</p>	<p>子どもたちに実践教育の場を提供し、働くとはどういうことかを考えるきっかけを与える取り組みになります。その第一歩として、大富中学校の総合的な学習の時間に関わらせていただきました。自ら考え積極的に行動すること、今まで知らなかった分野に触れることは、子どもの可能性を広げます。そして子どもたちは働く大人の姿を見て、働きがいについて学んでくれることと思います。今後も子どもたちの実践教育の場を広げることで、持続的に成長し続けられる街・社会の実現を目指します。</p>	
<p>2.該当するSDGs目標</p>	<p>3.取組イメージ</p>	
<p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<p>子どもの頃の経験がその人の思考をつくりあげます。そのため身近に実践教育の場をつくり、様々な経験を提供することによって、子どもたちの生きる力の向上を目指しています。2年以内に、他企業との連携も含め実践教育の場を5つ以上設けることを目標としています。</p>	
<p>8 働きがいも経済成長も</p>	<p>大人が輝いて働いている姿を見ることによって、子どもたちも将来働くことに意義をもつことができると考えます。そのため従業員がそれぞれの得意を活かすことによって、働きがいをもてる企業を目指しております。2年以内に、従業員満足度90%以上を目標としています。</p>	
<p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p>街はそこに住む人、そこで働く人によってつくりあげられています。そして住み続けられる街をつくるためには、未来を担う子どもたちを育てることが必要となります。他企業と連携し、小・中学生の実践教育の場を更に広げ、子ども達が街や社会と関わることでできる機会の創出を目指しています。</p>	
<p>4.ポイント</p>		
<p>短期的ではなく、長期的な視野で未来の焼津市の姿を想像し、今企業としてできる取り組みを行っているところがポイントです。また一度きりの経験で終わらせてしまうのではなく、持続的に行える実践教育の場を創出してまいります。子ども達が実践教育を行う中で急成長する姿を見て、従業員も更に働きがいを見出すことが期待されます。</p>		

<p>5.取組が開始されたきっかけと展開</p>	<p>7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント</p>						
<p>昨年度、大富中学校で総合的な学習の時間の授業で「焼津駅前商店街を活性化させるためには」をテーマにプレゼンが行われました。その中の提案に弊社が運営するCafeの新メニューがありました。もともとはプレゼンで授業は終わりの予定でしたが、このまま終わってしまうのはもったいないと感じ、弊社より大富中学校にお願い、実際に商品化しました。そして急遽中学生達に販売チームを結成していただき、中学校にて先行販売を行いました。先行販売を行うにあたり、販売目標を生徒自らで設定していただき、達成するためにどのような宣伝や注文方法を行ったらいかがかと考えていただきました。全てが終わった後、生徒より、自分たちが何かを生み出すことにやりがいを感じたとの声をいただきました。</p>	<p>どんな分野にも「仕事」は存在するため、どこでも実践活動の場を提供することができると考えます。そして子ども達に何を与えたいかの目標設定をきちんと行い、年齢別やスキルの段階別にカリキュラムも設けることで、持続的な成長のサポートを行うことができると考えられます。</p> <p>Cafeでの実践活動【新メニューを考案し、売り出す喜びを知る】</p> <table border="1"> <tr><td>○カフェの仕事先の種類を知る</td></tr> <tr><td>ステップ1 店内、店外を掃除する</td></tr> <tr><td>ステップ2 従業員の指示のもと、席案内、料理提供を行う</td></tr> <tr><td>ステップ3 お客様より注文を取る</td></tr> <tr><td>ステップ4 電話対応を行う</td></tr> <tr><td>ステップ5 在庫チェックを行う</td></tr> </table>	○カフェの仕事先の種類を知る	ステップ1 店内、店外を掃除する	ステップ2 従業員の指示のもと、席案内、料理提供を行う	ステップ3 お客様より注文を取る	ステップ4 電話対応を行う	ステップ5 在庫チェックを行う
○カフェの仕事先の種類を知る							
ステップ1 店内、店外を掃除する							
ステップ2 従業員の指示のもと、席案内、料理提供を行う							
ステップ3 お客様より注文を取る							
ステップ4 電話対応を行う							
ステップ5 在庫チェックを行う							
<p>6.応募した取組の今後の計画・展開</p>	<p>○商品開発を行う</p> <table border="1"> <tr><td>ステップ6 既存メニューが作れるようになる</td></tr> <tr><td>ステップ7 売れ筋商品を分析する</td></tr> <tr><td>ステップ8 原価率の求め方を知る</td></tr> <tr><td>ステップ9 新メニューを考案する</td></tr> <tr><td>ステップ10 試作を作る</td></tr> <tr><td>ステップ11 販売可能かどうかを判断する(料理工程、原価率に問題がないか)</td></tr> </table>	ステップ6 既存メニューが作れるようになる	ステップ7 売れ筋商品を分析する	ステップ8 原価率の求め方を知る	ステップ9 新メニューを考案する	ステップ10 試作を作る	ステップ11 販売可能かどうかを判断する(料理工程、原価率に問題がないか)
ステップ6 既存メニューが作れるようになる							
ステップ7 売れ筋商品を分析する							
ステップ8 原価率の求め方を知る							
ステップ9 新メニューを考案する							
ステップ10 試作を作る							
ステップ11 販売可能かどうかを判断する(料理工程、原価率に問題がないか)							
<p>焼津市内の中学校との継続的な関わりを持ち続け、中学生への実践活動の場を提供していきます。また生徒たちが社会人の働く姿を見て、働きがいについて学ぶ機会を与えていきます。今年度は、大富中学校の生徒へのビジネスマナー講座の開催、コラボ商品の開発の継続を行っています。また焼津市内のもう1校と関わりをもつことができている。新たな展開としては、弊社が運営するCafe・FOOD TRUCKを起点とし、焼津市内の小中学生が様々な場所で職業体験が行えますよう、現在計画しています。焼津市内の子どもたちが実践活動を行う中で、自分たちの将来について考え、住み続けたい街づくりに参加していけますよう援助してまいります。</p>	<p>○販売促進を行う</p> <table border="1"> <tr><td>ステップ12 メニュー表作成</td></tr> <tr><td>ステップ13 Instagramでの紹介</td></tr> <tr><td>ステップ14 レジ設定</td></tr> <tr><td>ステップ15 販売開始</td></tr> </table>	ステップ12 メニュー表作成	ステップ13 Instagramでの紹介	ステップ14 レジ設定	ステップ15 販売開始		
ステップ12 メニュー表作成							
ステップ13 Instagramでの紹介							
ステップ14 レジ設定							
ステップ15 販売開始							

みんな地球について考えるイベント「アースデイあさはた」

「(一社)グリーンパークあさはた」 × 「スマートブルー(株)」 × 「日興美術(株)」

<p>1.取組概要</p>	<p>今年4月に開園した「あさはた緑地」公園のセンターハウスの柿落とし的なイベントとして、世界的に展開する環境イベント「アースデイ」を開催しました。開催にあたり、SDGsの達成に向けて志を同じくする企業2社に協賛及び出店の協力をいただき、350名以上の来場者に楽しみながら地球環境について考えるきっかけを提供しました。</p>	
<p>2.該当するSDGs目標</p>	<p>3.取組イメージ</p>	
<p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<p>地球環境について学ぶウォークラリーは定員100名を超える子どもたちが参加しました。また、SDGs関連書籍の紹介コーナーや、環境について考える絵本のコーナー、掲示物による情報提供など、身近なところから地球について考えるきっかけを得てもらった工夫が凝らされました。</p>	
<p>8 働きがいも経済成長も</p>	<p>イベント運営には3社で36名のスタッフが携わりました。それぞれが本業に関連しつつ日常業務とは異なる場に出て、様々な来場者と接したり、お互いに交流する機会を持ったことで、新たな働きがいを見出すきっかけを作ることができました。</p>	
<p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p>あさはた緑地はターゲット11.7「人々に安全で包括的かつ利用が容易な緑地や公共スペースへの普遍的なアクセスを提供」を担っており、近隣施設での広報協力や、366名の来場者によって気軽に足を運んでもらうきっかけづくりに大きく貢献しました。</p>	
<p>会場の写真は参加者が映ってしまっているため、配布したチラシの出店ブース紹介面を添付します。</p>		
<p>準備、片付けや空いた時間などで、スタッフ同志の交流も生まれました。</p>		
<p>4.ポイント</p> <p>グリーンパークあさはたが管理運営を担っている施設が会場であることで、他2社は細かいことを気にせず出店でき、それぞれがやりたいことを実施できました。また、アースデイというイベントそのものがSDGsとの親和性が非常に高い上、コンセプトが明確なため、イベント全体としての方向性も示しやすかったです。</p>		

<p>5.取組が開始されたきっかけと展開</p>	<p>7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント</p>
<p>あさはた緑地の指定管理が始まって半月のタイミングで、スタッフでできることも限られる中、オープン最初のイベントを盛り上げるため、以前から交流のあったスマートブルー塩原氏と日興美術の品川氏に相談したところ快くご協力いただけて実現しました。スマートブルーさんが「ソーラーシェアリングで育てたブルーベリー」の試食ブースや社員さんが集めた「子ども用品のフリマ」を出したり、日興美術さんが自社の「防災カルタ」の体験会を行ったり、チラシ印刷の対応や品川さんには司会もしていただいたり、それぞれの強みを来場者層にもうまく合わせて発揮してくださいました。他にもganmoバーガーさんや、フェアトレードショップteebomさん、トークゲストに環境活動家の神澤清さんなど、多くの方にご協力いただき、またそれぞれの方々同士の交流も生まれて有意義なパートナーシップとなりました。</p>	<p>アースデイのコンセプトを理解し、イベントの趣旨に賛同いただければ基本的にはどなたでも参加いただけます。今回の会場となったあさはたのイベントに関与いただくこともできますし、それぞれで「アースデイ○○」を企画したり、さらにそれぞれのアースデイを連動させたりすることも可能です。実際、日本国内では各地のアースデイ実施者のネットワークがあり、定期的な意見交換も行われています。特に規模やスタイルを限定するものではないので、どなたでも自由な発想で参加したり企画したりすることができます。</p>
<p>6.応募した取組の今後の計画・展開</p>	<p>アースデイは毎年4月22日にありますので、来年以降もその前後の週末に開催を予定しています。今回はオープンして間もなくだったため、十分な準備期間を持てませんでしたが、来年に向けては実行委員会のようなものを立ち上げてもう少し前もって準備を進めて、毎年少しずつ規模を大きくしていきたいと思っています。</p>



SDGsが繋ぐ地域の輪、商店街活性化プロジェクト！

「静清信用金庫」×「静岡商業高等学校」×「コマカツ」

<p>1.取組概要</p>	<p>静岡商業高校の地域活性化をテーマとした課題研究授業「しぞーか地域研究」の臨時講師を、約1年間に亘って静清信用金庫職員が担当し、駒形通り商店街の有志団体コマカツの協力を得ながら、商店街活性化策の考案に取り組みました。現地視察や「ごちそうmart駒形」への出店などを通じて課題を抽出し、学生・コマカツ・静清信用金庫のディスカッションなどを経て、受講した学生が活性化策に向けた企画書を作成しました。活動の集大成として開催した「課題研究発表大会」において、学生3チームが企画書のプレゼンを行いました。</p>
<p>2.該当するSDGs目標</p>	<p>4 質の高い教育をみんなに 8 働きがいも経済成長も 11 住み続けられるまちづくりを</p> <p>学生が地元の活性化について考え、具体的なアイデアを考案することで、課題解決スキルの向上が図れます。また、企画書の作成とプレゼン実施により、コミュニケーション能力の向上を目指します。</p> <p>事業者との協働を経て、学生に地域事業の良さを知ってもらい、将来、地元で活躍する人材を育成します。</p> <p>駒形通り商店街が提案された商店街活性化策の実現可能性を検討し、静清信用金庫が実践にむけたサポートを継続することで、暮らしやすい街づくりを目指します。</p>
<p>3.取組イメージ</p>	<p>課題研究発表大会の運営協力 静清信用金庫 講義実施 静岡商業高等学校 静商の企画の説明・提案、スケジュール調整 駒形通り商店街の情報提供、授業への参加 駒形通り商店街の活性化策提案、ごちそうmart駒形への出店 コマカツ</p>
<p>4.ポイント</p>	<p>地域のことを学びたい高校、活性化に取り組む商店街、地域貢献活動を実践する信用金庫の目指す方向性が一致し、連携して活動を進めることができました。</p>

5.取組が開始されたきっかけと展開

- 長期研修で静清信用金庫に派遣された教諭が静岡商業高校に当金庫を紹介。当金庫が駒形通り商店街の有志団体コマカツを静岡商業高校に紹介してこのプロジェクトが開始しました。
- 学生が考案した商店街活性化策をコマカツに提案することをゴールと定め、当金庫職員によるSDGsの知識や課題解決手法などの講義、学生・コマカツ・当金庫でのディスカッションやグループワークなどにより、徐々に提案の方向性を定めていきました。
- 活性化策を検討する中で、学生考案によるオリジナルSDGs商品が二つ生まれました。素材にオーガニックコットンを使用し学生のイラストがプリントされた「こまがたオリジナルエコバッグ」と、コロナ禍で売れ残ったイチゴを使用した菓子パン「久能ジャムパ〜ンチ」で、これは「ごちそうmart駒形」で販売され、地元の方々に好評を博しました。商品化にあたっては、コマカツと当金庫が関連業者との橋渡しを行うことで実現に漕ぎつけました。
- 学生の研究活動の集大成として、アイデアをコマカツに提案する場として「課題研究発表大会」を開催し、3チームが駒形通り商店街を活性化する企画書をプレゼンして1年間の活動を終了しました。

6.応募した取組の今後の計画・展開

令和2年度に、静岡商業高等学校3年生の課題研究授業として実施した本取組みは、令和3年度の新3年生に引き継がれ、活性化策のアイデア実現に向けた活動を進めています。静岡商業高等学校、コマカツ、静清信用金庫の3者による商店街活性化の取組みは、今後も継続していく予定です。

7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

- 多くの高校で「総合的な学習」の一環として課題研究授業が実施されており、地域活性化は取組みやすく意義のあるテーマであると考えます。
- 信用金庫のような地域金融機関だけでなく、地域貢献活動に力を入れている企業は多く、高校との連携は実現しやすいと考えます。

▲当金庫職員と静商の学生とのグループワークの様様

▲静岡の学生がデザインしたこまがたオリジナルエコバッグ ▲久能ジャムパ〜ンチ

課題研究発表大会▶

「若年層の採用フォロー」でSDGs！幅広い活躍の場を。

「徳三運輸倉庫(株)」×「(特非)青少年就労支援ネットワーク静岡」

<p>1.取組概要</p>	<p>青少年就労支援ネットワーク静岡より、徳三運輸倉庫に若年者の就労支援に関する案内をいただくとともに、若年者に対する職場見学や職場体験を実施。徳三運輸倉庫としては、青少年就労支援ネットワーク静岡主催の就職氷河期世代採用に関する企業向けセミナーにて就職氷河期世代採用の事例を紹介したり、就労支援セミナーに参加したりすることで、互いに連携しています。採用に限らず若者の勉強のための、就労体験・社会経験の場を提供しています。</p>
<p>2.該当するSDGs目標</p>	<p>4 質の高い教育をみんなに 8 働きがいも経済成長も 17 パートナリシップで目標を達成しよう</p> <p>就業に対する教育を実施するほか、職場見学や職場体験を通じた社会勉強・企業研究の一環として取り組んでいます。昨年は5名の見学者に参加しています。うち1名は職場体験にも参加し、その職場体験談をセミナーを通じてほかの若者にフィードバックしています。そのほか10名ほど参加した就労支援セミナーにて若者の就労を後押ししています。</p> <p>働くことに躊躇したり、一步踏み出せない若年者にセミナー等を通じてサポートしたり、就業体験の機会を提供することで、若年層の雇用を促進していきます。</p> <p>職場見学・職場体験を通じた連携から就職氷河期世代の採用セミナー・就労支援セミナー等への参加をすることで、様々な場面での連携を強化しています。</p>
<p>3.取組イメージ</p>	
<p>4.ポイント</p>	<p>採用についての考え方の柔軟性が必要となります。雇用に関しての幅を広げることで、1つの仕事のイメージだと雇用が難しいと感じても、別の仕事やその人にできそうな仕事を創り出してあげることで、雇用の幅が広がります。</p>

5.取組が開始されたきっかけと展開

青少年就労支援ネットワーク静岡からのご連絡を受け、若年層の職場見学や就業体験についての案内をいただくことから始まりました。その後、若年層の職場見学・就業体験を実施したことで、連携がスタートし、就職氷河期世代の採用実績等のご紹介や若年層の就労支援セミナー等への講師としての参加によって、さらに連携を深めています。

6.応募した取組の今後の計画・展開

今後も情報交換を密にしながら、職場見学や就業体験を受け入れるとともに、関係企画等にも相互に連携・協力しながら参加することで発展させていきたいです。

7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

職場見学も就業体験もすべて無料であり、その中で、若い人材に出会える場面もあるため、人材雇用に対しての幅広さや柔軟さを持つことで取り組みやすいと思います。元々企業として持っている仕事に対してどの人材が適材かを見極めることが通常の採用であるが、逆に人材に対して、このような仕事をさせてみようという発想を持つことで、就業場面が増えるだけでなく、企業としても多角的な物の見方につながります。採用・雇用について固執した考えではなく、柔軟な対応ができれば、非常に取り組みやすく、人材の活性化にもつながる部分が大いと考えます。

職場見学・就業体験

市民が自信と誇り・希望を持って活躍できる授乳施設づくり

「子育て支援団体」×「しずおか都市の木化構想推進Project委員会」


1.取組概要	公共施設や商店街などに、地元木材を利用した授乳施設の設置の実現に向けて取り組んでいます。製作段階から市民を巻き込み、興味関心・愛着のある施設となるような仕組みを取り入れていきます。その他お子様の世話が安心して気楽にできる設備としても利用の可能性を広げています。	
2.該当するSDGs目標	5.ジェンダー平等を促進しよう メンバー構成員の男女比・女性比率の増加 (実績：2019年 0%、2020年 6%、2021年 12%) 目標：2022年 21%	3.取組イメージ 産官学の連携を図る (市長に提案) (小学校へ出張授業)
11.住み続けられるまちづくりを	市民の意見を聞くアンケート調査の実施 目標：2,000名 授乳施設の設置 目標：3台	
17.パートナーシップで目標を達成しよう	連携企業の増加 (2021年 16社) 目標：2022年 18社	

5.取組が開始されたきっかけと展開 キッカケ： 「妊娠・出産を機に、しずおかのお街に足を運ぶ回数が増える」というミーティング内の何気ない発言から開始されました。 困難な状況： 林業や製材、設計など他分野の関係者で構成していましたが、男性メンバーしかおらず、子育て経験はあっても社会課題に気付いていませんでした。 克服したエピソード： 子育て支援団体に所属している女性メンバーの加入により、女性目線の意見を共有することができ(目から鱗)同時に、社会の課題も見えてきました。	7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント 真似しやすいポイントとしては、必要とする人材・企業(林業・製材業・加工・流通・プロダクトデザイン・設計・施工・子育て支援団体)が既にどの地域にも存在しているという点です。 連携がスムーズになることで、社会のニーズをより具体的に把握することができ、またそれを必要とする方へ直接届けられることが出来る循環が生まれます。 他の事業所・団体でも仕組みを取り入れることで、新たに地域オリジナルのものを創出していくことも、容易に出来るのでは?と考えると可能性は無限大だと思います。
6.応募した取組の今後の計画・展開 アンケート結果を元に、授乳施設の製作を開始します。製作段階から、静岡市民を巻き込み、施設に興味関心を高めていくなど、自分たちが暮らす街を自慢したくなるような仕掛けを導入します。 設置から利用する際には、子育て支援団体との連携を図り、管理・運用サポートも行います。 日本の国土の約7割が森林であるということは、全国の共通課題と認識しています。静岡から、全国へと連携を拡大していきます。	  


モバイルバイオユニットできれいな水を

「(株)デジサーフ」×「(株)高嶋開発工学総合研究所」

1.取組概要	平時はレジャー利用しつつ、災害時には速やかに宿泊施設として活用できる、グランピング用トレーラーハウス(可動式コンテナ)と、キッチンやトイレの汚水を100%リサイクル処理可能な浄化槽を組み合わせたモバイルユニットを、デジサーフと高嶋康豪博士が共同で開発しました。汚水を完全浄化するモバイルバイオユニットを有効活用することで、トレーラーハウスは有事には速やかに仮設施設活用でき、浄化槽で水を確保する、防災に強い街づくりも可能になります。	
2.該当するSDGs目標	6.安全な水とトイレを世界中に モバイルバイオユニット内で発生する汚水を48時間で元の水以上に浄化するので、汚水が環境に与える公害や悪臭を防ぐとともに、土壌汚染の改善にも役立ちます。	3.取組イメージ Features of "Organic View" ① 汚物・汚水の放流無し ② 上水道不要 ③ 災害時でも使用可能 ④ 汲み取り不要 ⑤ 悪臭が無い ⑥ 分別処理不要 ⑦ 入替不要
9.産業と技術革新の融合をもつくろう	インフラ整備が不要なため、設置可能な地域が世界中に広がることが可能です。世界のインフラ改良の課題解決にも繋がると考えます。	
	4.ポイント 汚水を完全浄化する新技術を用いたモバイルバイオユニットは、インフラ整備を不要にしたため設置可能な地域を無制限に広げました。水不足で住宅環境が悪い地域や下水道の未整備の地域でも設置が可能です。設置コストも低く抑えられます。	

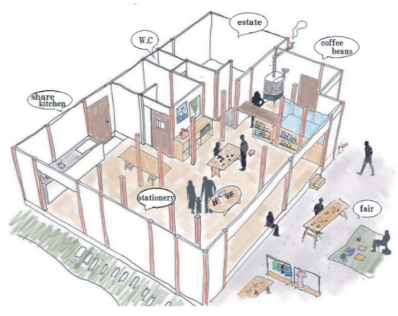
5.取組が開始されたきっかけと展開 豊州市場跡地の遊休地にて弊社のバーベキュー場を展開する際に、下水道工事は避けたいと考えました。その際に、高嶋博士の取り組みを知り展開することとなりました。	7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント この特徴を生かした市場の拡大 <table border="1" data-bbox="2255 1218 2789 1470"> <thead> <tr> <th>市場</th> <th>対象官庁・企業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>災害対策時緊急対策用衛生完備(避難所、公園等)</td> <td>内閣府 総務省</td> </tr> <tr> <td>防災協定、トイレ設置(ライフラインが切れても使用できるトイレ)</td> <td>東京消防庁 自治体(東京都・区・県・市・町) 大型スーパー</td> </tr> <tr> <td>下水道未整備地区の代替施設としての市場</td> <td>国土省...別荘開発企業 農水省</td> </tr> <tr> <td>山岳、自然公園の環境対策</td> <td>環境省</td> </tr> <tr> <td>都市内公園の利用促進施設</td> <td>環境省、自治体</td> </tr> <tr> <td>イベント型トイレの仮設トイレ</td> <td>電通、博報堂</td> </tr> <tr> <td>建設工事の仮設トイレ</td> <td>リースレンタル会社、ゼネコン各社</td> </tr> </tbody> </table> 今後、大型イベント等で仮設トイレを設置するのあたり、完全循環型なので、上下水道不要、汲み取りも不要なので、手軽に設置でき、導入しやすいと思います。 このように、イベント会場等にて利用可能です。トレーラーハウスと組み合わせることにより、宿泊施設にもなります。	市場	対象官庁・企業	災害対策時緊急対策用衛生完備(避難所、公園等)	内閣府 総務省	防災協定、トイレ設置(ライフラインが切れても使用できるトイレ)	東京消防庁 自治体(東京都・区・県・市・町) 大型スーパー	下水道未整備地区の代替施設としての市場	国土省...別荘開発企業 農水省	山岳、自然公園の環境対策	環境省	都市内公園の利用促進施設	環境省、自治体	イベント型トイレの仮設トイレ	電通、博報堂	建設工事の仮設トイレ	リースレンタル会社、ゼネコン各社
市場	対象官庁・企業																
災害対策時緊急対策用衛生完備(避難所、公園等)	内閣府 総務省																
防災協定、トイレ設置(ライフラインが切れても使用できるトイレ)	東京消防庁 自治体(東京都・区・県・市・町) 大型スーパー																
下水道未整備地区の代替施設としての市場	国土省...別荘開発企業 農水省																
山岳、自然公園の環境対策	環境省																
都市内公園の利用促進施設	環境省、自治体																
イベント型トイレの仮設トイレ	電通、博報堂																
建設工事の仮設トイレ	リースレンタル会社、ゼネコン各社																
6.応募した取組の今後の計画・展開 今後、遊休地活用が増え、それによりイベント市場が盛り上がっていくと思います。インバウンド/観光需要増加により、宿泊施設等の確保も必要になります。そこで、このトレーラーハウスとモバイルバイオユニットを活用、転用することで、様々なイベント市場にも対応でき、なおかつ、汚水を完全浄化するので、地球温暖化防止にも役に立つと考えます。																	

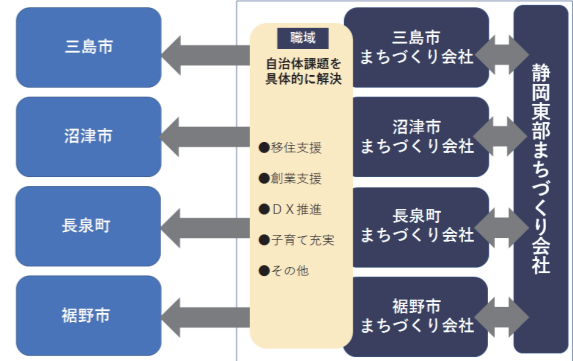
トラック・バスを用いた静岡市SDGsのPR

「興津貨物自動車運輸(株)」×「山崎運輸(株)」×「レオリブレ(株)」×「富士護謄産業(株)」		
1.取組概要	トラックのボディや車体に直接プリントできるオートボディプリンターを導入した興津貨物自動車運輸が、静岡市SDGs宣言事業所である山崎運輸、レオリブレ、富士護謄産業と協力し、SDGsのロゴと市章をそれぞれが所有するトラックの荷台やバスに人目につくように大きくプリントし市内を走行することで、宣言事業所のPRだけでなく、静岡市がSDGsを推進していることのPRにつながり、市民に幅広く知ってもらおう活動です。静岡市と連携して、SDGs推進及び市民認知度向上を目指す取り組みです。	
2.該当するSDGs目標	3.取組イメージ	
4 質の高い教育をみんなに	SDGsを広く知ってもらうためにPR活動を行うことで、業界事業者内でも認知度向上を図り、静岡市SDGs宣言事業所の増加や、宣言を検討する事業者が増加を目指します。運送事業者では活動前7社→活動後22社に増加しました。	
7 エコドライブをみんなに	トラックやバスにSDGsロゴと市章をすることで、乗務員の安全運転に対する意識が向上し、更なるエコドライブ・事故のない社会を目指しています。脱炭素社会に向け、まだディーゼル車に頼る業界で、エコドライブによる燃費向上を目指します。	4.ポイント
17 パートナリプを世界で広げよう	ボディプリントの技術を持つ興津貨物自動車運輸と市内を走行する車両を保有する山崎運輸、レオリブレ、富士護謄産業が静岡市と連携し、SDGsの推進及び市民認知度の向上を目指しています。今後は他の団体とも連携してPR活動の拡大を目指しています。	異業種4社と静岡市がタッグを組み、幅広い業界から発信することで、より多くの市民にSDGsの推進をPRすることがポイントです。また低コスト短納期を実現し、直接インクを吹き付けることでシールやラッピングとは違いゴミの出ない、オートボディプリンターによる車両へのプリント施工も魅力となっています。

5.取組が開始されたきっかけと展開	7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント
新規事業としてボディプリント事業を開始した興津貨物自動車運輸が、既に宣言を行っていたSDGsデザインのトラックを作成したところ、それを見た地域市民から静岡市役所への1本の電話がきっかけで、静岡市企画課とご縁があり、SDGsロゴと静岡市章が入った新しいデザインをトラックの荷台にプリントして、静岡市SDGsをPRすることとなりました。様々な反響があり、「これはSDGsではない」「発信する必要はない」といった声も少なからずありましたが、SDGsに取り組んでいることを発信し看板を背負うことで、事業所の従業員の意識が向上し、大きな意味で事業所で取り組むSDGsの推進につながると考え、そこに賛同してくれた事業者の協力で、この活動となりました。	トラックやバスといった大きな車両は、市民の方からは「怖い」というイメージがあり、運送事業者でなくてもプロドライバーとしての意識向上が社会から求められています。静岡市SDGs宣言事業所だけでなくこれから宣言を検討している事業所でも、事業所でのSDGsの取り組みを発信することで、従業員の意識向上が期待できます。またSDGsに限らず、社内の取り組みや商品PR等、保有する車両を使用してPRをし看板を背負うことで、ドライバーの安全意識の向上やプロドライバーとしての自覚を持つことで、事故防止やエコドライブにつながるという点において、ほかの事業所や団体、トラックやバスだけではなく社用車を保有する事業所にも真似しやすく、汎用性が高いと考えます。
6.応募した取組の今後の計画・展開	
今後は市民へのPRだけでなく、各事業所内での更なる意識向上とSDGsの推進に取り組み、更にそれぞれの業界内でのSDGsに対する認知度向上のために、静岡市が推進するSDGs啓発の一助として市内を安全に走行します。またそれぞれの業界でSDGsに対する認知度をさらに向上させ、静岡市SDGs宣言事業所を増加をし、仲間を増やしていきたいと考えています。また現在PR活動に協力してくれている以外の異業種の事業所の協力を得ることで、更に広く社会全体にSDGsに対する理解を加速し、SDGsを原動力とした地域創生、経済と環境の創出につなげます。	

アキヤアソビ ～空き家を使ったチャレンジの場所提供～

「(有)日の出企画」×「(株)ステイトウルー」×「まちのぷらっと相談室」		
1.取組概要	空き家を使った「住む」や「働く」が自然と増える関係人口創出プロジェクト。移住促進・起業支援・空き家対策の視点でまちづくりを行い、この取り組みに共感した人と静岡県東部に次々と拠点になる場所を作っています。そうしてつくられた場所でコトガラをおこし関係人口創出。そしてその場所を拠点に移住者・起業者が次々と生まれその中から更に空き家の使いこなしが進んでいく。そして共感の元生まれた各地の関係人口創出拠点同士が各市町と連携し更に拠点同士も連携し、オール静岡東部で課題解決するプロジェクトです。	
2.該当するSDGs目標	3.取組イメージ	
8 働きがいも 経済成長も	子育てを機に仕事場から離れ、時間的にフルタイムの働き方ができず復職できないこのような相談を受けることが多い。その際に「起業」という時間に縛られない選択肢を提案。多様な働き方により地域の活性化並びに経済成長を目指します。目標値は年間10件超の新規起業と創業を目指します。2019年は13件。2020年は14件達成。	
17 パートナリプを世界で広げよう	運営しているAntiquedoorというワークスペースを入居者・フリーランスの方たちと新たな仕事創出や法人とのマッチングをしています。起業支援をパートナーの士業とともにサポート。任意団体「まちのぷらっと相談室」開設。移住促進・起業支援をチーム戦で対応しています。地域課題を解決できる人材の育成もしています。	4.ポイント
12 つくる責任 つかう責任	空き家を地域資源として捉え交流の場に変化させる。関係人口創出の場所として県東部に3カ所運営しています。目標は県内の市町に点在させ地域間の連携を図ることです。まずは県東部の各市町に空き家を使った関係人口創出拠点を作り公民連携で空き家撲滅に取り組みます。月1ペースで県内の市町主催の空き家対策講座を仕掛けます。	放置されてしまう空き家をお借りしてシェアスペースに変えます。シェアスペースに改装の際に社会課題を盛り込むようにします。3施設に共有するのは廃材の有効利用。1つは近隣の工場から出てくる月間2トンの廃ベニヤ板。もう一つは地域の建築屋さんから出てくる廃材という具合です。コスト削減にも有効。

5.取組が開始されたきっかけと展開	7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント
【取組のきっかけ】 沼津市役所と空き家対策で関わったことです。地域課題として空き家の問題があがっており解決するというよりも楽しんで空き家を使いこなすという発想になりやがて静岡県東部に行政区分をまたぐ現在に至ります。 【困難な状況を克服したエピソード】 2点あります。1点は資金調達と2点目は空き家活用人材の発掘です。1点目の資金調達に関しコストを抑えるためDIYを取り入れて材料費を抑えることに成功。と同時に興味ある人をDIY作業をイベント化して巻き込むことに成功しました。知り合いの左官職人さんに講師として左官ワークショップなどを開催。2点目の空き家活用人材の発掘は市町と連携した『創業支援相談会』や『移住相談会』により候補者創出に成功しました。	他の事業所が参加しやすいポイントとして次の3つがそろえばどこでも始められます。 1. まちづくり人材 2. 空き家 3. 市町連携 1については当方のやり方に共感する人選が必要です。共感があれば誰でもすぐに取り入れられます。現状4地域での実践に向けまちづくり人材育成中です。
6.応募した取組の今後の計画・展開	
【短期的な計画】 移住や創業の相談を通じて相談者の希望エリアは出店も居住も最小単位は静岡県東部です。空き家拠点のエリアを現状の沼津市と裾野市以外の地域にも複数拠点をつくる計画です。 【中長期的な計画】 各地の空き家拠点の運営者と協力し空き家拠点の運営者を代表としたまちづくり会社を立上げそのメンバーに理事を兼務してもらいあらたなまちづくり協会的な組織を立上げ更に静岡県中部・西部にも同じ取組を普及させたいです。 【今後の展開】 空き家の利活用を通じた社会課題解決を担う人材を創出するため 空き家活用人材 創出の塾を作りたいと思います。	

静岡の建築家を応援する会「匠創物語」

「若手建築家たち」×「ディベロッパー」×「広報」×「不動産販売」

<p>アートブレイン・DAY architect あすなろ設計事務所・キョウ&studio-ArCo 未廣建設 静岡広報たん アイプロス不動産</p>	
<p>1.取組概要</p>	<p>地元の建築デザイナーたちに自分の家創りをリアルにPRできる機会を提供し、大手メーカーとは違う家創りをじっくり比較検討することができる新しいプロジェクトです。 「匠創物語」というブランドを立ち上げ、有能な地元建築家たちが提案する暮らし方を住宅取得者に幅広く知っていただくため、ディベロッパーによる土地開発、広報（後方）支援していくとともに、地元不動産業者による販売活動を通し、持続可能な事業を行っていきます。</p>
<p>2.該当するSDGs目標</p>	<p>3.取組イメージ</p> <p>4.ポイント</p>
<p>8 働きがいも経済成長も</p>	<p>土地・建築費・営業活動をディベロッパーや不動産業者が行うことにより、地元建築デザイナー自身が、本当に提供したい暮らし方を形にし、共感したお客様が購入することにより、経済成長も果たすことができます。 2021年島田市4区画 完成 2022年焼津市静岡市10区画 を計画中</p>
<p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p>土地のままでは購入希望者がいない分譲地に、個性ある唯一無二のデザイナー住宅ができることにより、付加価値が付きやすくなります。新しくその土地に住人が増え持続可能なまちづくりをしています。</p>
<p>17 パートナリシップで目標を達成しよう</p>	<p>ディベロッパーである未廣建設が土地と建設費を負担し地元建築デザイナーが本当に提供したいライフスタイルを形にした住宅を建築します。専門性を活かした広報活動（静岡広報たん 三輪）や販売活動（アイプロス不動産）を行うことで、循環を促していきます。2021年中に4区画販売完了を目指しています。</p>

<p>5.取組が開始されたきっかけと展開</p> <p>静岡県内において住宅取得者の大半が大手ハウスメーカーの注文住宅やパワービルダーの分譲住宅を選択する傾向が強く、売上のうち地元還元される割合は低く、首都圏を始めとした大都市圏に資金が集中している状況にあります。 一方、地元には有能な建築家が多数存在する事実があまり知られていません。その大きな理由は圧倒的な広告費用の差にあります。建築家が自ら設計した物件の見学会を単独で行うこともありますが、多くの住宅取得希望者にじっくりと見学していただくためには、モデルハウスをつくり長期間保有しなければなりません。その費用を負担し続けることは困難であり、加えて、一棟のモデルハウスだけでは比較対象がない上に、建築家と見学者が即一対一の関係となるため、気後れされることが多いため、個人の建築家に設計を依頼させるケースは少ないです。</p>	<p>7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント</p> <p>個人の建築デザイナーの分譲型モデルハウスであり、ありそうで今までなかった新しいプロジェクトではありますが、全て従来のビジネスモデルの組み合わせです。</p>
<p>6.応募した取組の今後の計画・展開</p> <p>2021年9月に建築デザイナーが提案したい暮らし方を形にした4戸の分譲型モデルハウスが島田市御飯屋に完成し、地元不動産会社による販売がはじまりました。 この「匠創物語」は、第二弾を焼津市、静岡市内に展開する計画です。地元の建築デザイナーたちに自分の家創りをリアルにPRできる機会を提供し、地元建築デザイナーとお客をつなぎ、応援をしていきます。</p>	<p>地元の建築デザイナー、ディベロッパー、不動産業者、広報担当がそれぞれの得意分野を活かすことで、持続可能な経済・地域の循環をつくることができ、どのエリアでも展開可能になります。</p>

「建設現場から発信するSDGs!!」 みんなで知ろう

「荏原実業(株)静岡支社」×「(株)ケーエス工業」×「(有)エスエネット」

<p>1.取組概要</p>	<p>建設工事現場という環境下では、工事を進めていくうえで協力会社との連携関係があります。日常の作業下では安全に作業を行うための安全施工サイクル活動があります。その環境を利用し、SDGsに対する意識改革を行う取組みになります。建設現場での時間を有効活用し、日々実施している朝礼、安全パトロール等の安全施工サイクル内でSDGsについて考える機会を与え、工事看板にSDGsについて掲示、ステッカーを配布するなど情報を可視化することでSDGsへの取組みをさらに周知・教育し、循環型社会の実現を目指します。</p>
<p>2.該当するSDGs目標</p>	<p>3.取組イメージ</p> <p>現場作業用ヘルメットにステッカーを貼ります。安全パトロール時にSDGsについてアナウンスします。</p> <p>4.ポイント</p> <p>日常においてSDGsの情報を得る環境が少ない建設作業関係者に情報提供ができることで、循環型社会の実現に寄与しているところがポイントです。また、建設業就労者は約500万人と言われており、その人口の多さから認識に対する広がり期待できます。</p>
<p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<p>「わたしたちのSDGs」と題した個人目標を設定し、SDGsに対し意識改革を行います。 日々の朝礼等でSDGsについて考える機会を与えます。</p>
<p>8 働きがいも経済成長も</p>	<p>SDGsを認識することで、社会貢献に寄与している仕事に携わっているという前向きな取り組み意識を持つようになります。週休2日制を実施し、働きやすい現場環境づくりに取り組みます。 当社在席現場従事者18人全員のヘルメットにSDGsステッカーを貼り付けました。</p>
<p>17 パートナリシップで目標を達成しよう</p>	<p>積極的に協力会社及び、産学官の連携を図り、SDGsを広域に展開していきます。</p>

<p>5.取組が開始されたきっかけと展開</p> <p>2019年度静岡市主催の入札説明会に、弊社社員が出席した際、静岡市のSDGsへの取組み状況についてアナウンスがあり、それを建設現場でフィードバックしてはと考えました。自治体、学校、事業所等ではSDGsに関する情報を得られる機会は多いが、建設現場へ来る人に個別にヒアリングをしてみると、意外と認知度が低いことが分かり、建設現場安全施工サイクルの中での本活動の教育、広報活動がマッチするため、取組みのきっかけとなりました。</p>	<p>7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント</p> <p>安全施工サイクルを行う環境をもつ建設現場の、元請けと協力会社が連携すれば、教育や広報活動の機会ができます。安全教育等の安全施工サイクルの地場があることは、各現場作業所で共通しており、建設現場でのステッカー配布やPR教育する同様な取り組みは真似しやすく、汎用性が高い活動であると考えます。また、建設業就労者人口が多い事もメリットであります。</p> <p>このように現場の安全施工サイクルの中で取り入れられ、全国でも同様の取組が広がっていくことを期待します。</p>
<p>6.応募した取組の今後の計画・展開</p> <p>今後も引き続き、建設現場における活動を協力会社と共同で進めるとともに、自治体とも協力し合いSDGs教育の機会をつくり、建設現場におけるSDGs普及活動をさらに加速化していきたいと考えております。 また、SDGsのステッカーの配布や生活道路に面した工事看板にSDGsの情報を掲示するなどして、現場だけでなく、地域住民の方々にもSDGsに触れる機会を増やしていく取り組みを実施していきます。</p>	<p>活動状況</p> <p>ヘルメット用</p> <p>配布用</p>

「紙の循環型利用と採用セミナー」でSDG s ! 業務から採用まで幅広い連携。

「徳三運輸倉庫(株)」×「イハラ紙器(株)」	
<p>1.取組概要</p> <p>イハラ紙器の製造過程で排出される廃棄段ボールを徳三運輸倉庫でプレス古紙にして、その古紙から徳三運輸倉庫が再生紙として段ボール原紙を製造しています。その再生段ボール原紙を使用して、イハラ紙器で新たな段ボールを製造し、その段ボール製品を徳三運輸倉庫が配送しています。このように、紙を循環型利用した製造から配送までの工程で連携するほか、人材採用でも合同見学面接会を実施することで、より業務的にわかりやすい採用に結び付け、ミスマッチを防ぐとともに、幅広い連携によって働きがいのある職場環境を構築しています。</p>	
<p>2.該当するSDGs目標</p> <p>8 働きがいも経済成長も 採用を連携させることで、お互いの業務理解を成熟させるとともに、求職者の選択の幅を広げています。荷主と運送業の合同企業説明会を実施し、求職者のミスマッチを防いでいます。また、相互に従業員の交流をすることにもつながっています。</p> <p>12 つくる責任 つかう責任 イハラ紙器の製造工程で排出される古紙をすべてリサイクルして再利用して、ゼロエミッションを目指しています。ほぼ100%再生紙として利用されていますので、地球環境にも優しい事業として連携しています。</p> <p>17 パートナリシップ 目標を達成しよう 互いの業務改善につながる提案のできる環境にあるため、働きやすい職場環境構築や無駄の削減にもつながっています。</p>	<p>3.取組イメージ</p> <p>4.ポイント 何年も前から事業としては連携していますが、従業員や採用という点での連携はSDG sを通じた部分でもあり、事業としての部分だけでなくトータルでの連携につながっています。</p>

<p>5.取組が開始されたきっかけと展開</p> <p>業務で連携する中で、SDG sの会話から、SDG sに関する社内講習を実施したことがきっかけに業務の話だけではなく、人材活用や採用の話を進めていく中で始まりました。実際に今年の8/5には、イハラ紙器内で「製造と物流の合同企業見学会」を実施し、10名ほどの求職者にも参加していただいております。</p>
<p>6.応募した取組の今後の計画・展開</p> <p>現在は採用の面での連携や業務での連携・業務改善の提案にとどまっていますが、今後は、人材活用の面で、物流から製造業に、また製造業から物流に転換する人材の育成とともに、業務を効率化するための取り組みをさらに具体的な方策として取り組んでいきたいです。</p>

<p>7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント</p> <p>製造過程で排出されるものや無駄をいかに改善したり別の方法に変えていくかという点。 また、採用や人材活用についても、自社のことだけでなく、視野を広げて互いに協力しあい、勧めあうことでも、双方の会社にとってもプラスであり、従業員にとってもプラスに作用し、求職者にとっても職業選択の幅やチャレンジする環境が広がるため、パートナーシップという部分においても様々な分野で協力していくことがポイントとなります。</p>
--

アートを通じた福祉支援により「誰一人取り残さない」社会の実現へ

「(株)しずてつストア」×「(特非)アートコネクつずおか」×「(特非)オールしずおかベストコミュニティ」	
<p>1.取組概要</p> <p>しずてつストアでは障がい者アートをはじめとする、障がいをお持ちの方によって手掛けられた様々な作品アート作品を通じて、障がいをお持ちの方の社会参加を支援する「しずてつストア アートミュージアム」事業に取り組んでおります。障がい者アートを有償で借り受け店舗に展示するほか、県内の福祉事業所による授産品の「福産品」の取扱いや、障がい者アートを自社オリジナル商品のデザインに採用し、売上の一部を障がい者アートの普及・推進の費用として寄付する取組みを通じて、障がいをお持ちの方の社会参加を支援します。</p>	
<p>2.該当するSDGs目標</p> <p>8 働きがいも経済成長も アート関連で5事業所、福産品関連で10ほどの事業所と連携し、社会参加支援に貢献している。</p> <p>★ターゲット (8.5) 2030年までに、若者や障害者を含む全ての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、並びに同一労働同一賃金を達成する。</p> <p>10 人や国の不平等をなくそう 障がいをお持ちの方のアート作品の展示を2店舗、福産品やアート作品を採用した商品を展開する「SDGsコーナー」を2店舗で展開をお持ちの方の社会参加への貢献と理解促進に取り組んでおります。</p> <p>★ターゲット (10.2) 2030年までに、年齢、性別、障害、人種、民族、出自、宗教、あるいは経済的地位その他の状況に関わりなく、全ての人々の能力強化及び社会的、経済的及び政治的な包含を促進する。</p>	<p>3.取組イメージ</p> <p>4.ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 毎日不特定多数の地域のお客様がご来店される食料品スーパーマーケットとして、アート作品や製作品を取り扱うことでより多くの方の目に触れる機会を創出している点 ● 静岡市内の各NPO法人と連携することで、数多くの方福祉事業との連携を実現している点

<p>5.取組が開始されたきっかけと展開</p> <p>社内でのユニバーサルマナー検定取得推進や手話での接客5大用語の実践などの取組みが評価され、令和2年度「障害を理由とする差別を解消するための取組に関する知事褒賞」を受賞した際に、アート活動を行う「WaC」様と連携したことをきっかけに、障がいをお持ちの方でも不自由のない人も素晴らしい作品を描かれていることに感銘を受け、2018年12月にオープンした藤枝駅前店のイトインスペースに「NPO法人アートコネクつずおか」様を通じて絵画作品を有償で借り受け展示しております。2021年7月にオープンした沼津駅前店では、建設中の仮囲いアート作品を展示し、オープン後も継続してイトインスペースへ展示するほか、社会・環境にやさしい商品のみの展開するSDGsコーナーを初展開し、アート作品を採用したオリジナルトートバッグの販売やオリジナルパッケージのチョコレート販売し、売上の一部を障がい者アート普及・促進のために「NPO法人アートコネクつずおか」様へ寄付する。そのほか、「NPO法人オールしずおかベストコミュニティ」(県内の福祉事業所の製産品)を仕入れて販売しております。また、オープン記念の来店者特典として、静岡市の福祉事業所「特定非営利法人ひまわり事業団それいゆ」の鶴沢大地さんのアート作品を採用したマスクケースを無料配布し、障がい者アート普及・推進に取り組まれました。2021年9月22日に改装オープンした新静岡セノバ店でも大岡店同様SDGsコーナーを展開し、より広範囲で県内の障がいをお持ちの方のアート作品や製作品の普及・推進に取り組んでおります。</p>
<p>6.応募した取組の今後の計画・展開</p> <p>障がいをお持ちの方によって数々の素晴らしいアート作品や製作品が手掛けられていることについての認知度はまだまだ低いと感じる為、今後も毎日不特定多数のお客様がご来店される食料品スーパーマーケットとしての事業特性を活かして、アート作品の展示や商品を通じてより多くの方の目に触れ、手に取っていただける機会を創出していきます。これらの活動を通じて、障がい者に対する差別意識を解消し、それぞれの個性や特徴として認識し、共に理解し、助け合いながら暮らしていけるような社会を目指します。スーパーマーケットとしても、そのような方が不自由なく買い物いただけるようなお店作りやサービスの提供に取り組んで参ります。</p>

<p>7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント</p> <p>「NPO法人アートコネクつずおか」、「NPO法人オールしずおかベストコミュニティ」を通じて、各事業所のアート作品の活用や福産品の仕入が可能であり、どの企業でも、すぐに取り組むことが可能です。弊社としても、あくまで福祉事業所の支援に繋げることを目的としておりますので、適正な金額をNPO法人を通じて各事業所にお支払いすることが、作者のやりがいや生活の支援に繋がります。また、各企業の事業特性を活かして取り組むことで相乗効果が期待できると考えております。</p>
--

「放任竹林」の伐採でSDGs!! 持続可能な自然環境を

「やつやま友の会」×「しずおか焼津信用金庫」×「小さな親切」運動静岡県本部 × 「株季咲亭」	
1.取組概要	静岡県街地にある谷津山（93ha.）の50%位に蔓延した放任竹林を伐採し、広葉樹を植栽し、良好な里山環境を再生します。 その活動により市民が憩える、野生生物が生息できる、そして急傾斜地での土砂崩れを防ぎ、住民が安心して暮らせる持続可能な自然環境を目指します。2003年の創立以来、18年間の活動回数は約680回、延べ参加者は約13,600名、管理地は約7ha.、会員は約70名となっています。
2.該当するSDGs目標	3.取組イメージ
<p>11 住み続けられるまちづくりを</p> <p>7割が山岳で占められる日本では多くの人達が山麓に住んでいます。その周辺の山々は急傾斜地も多く、大雨が降れば根の浅く、地下茎で絡み合った竹林は土砂崩れの原因となり、住民の被害が予想されます。根の深い広葉樹の森に変えれば、落ち葉や根が土中の微生物を養い、自然のダムができて土砂崩れなどを防ぎ、自然災害が起こりにくいまちづくりに貢献します。</p> <p>13 気候変動に具体的な対策を</p> <p>気候変動の大きな原因の一つに植物の乱伐による環境の劣化があります。放任竹林が増えれば生物多様性を含む生態系は劣化します。放任竹林を伐採し、郷土種を中心にした広葉樹の森に変えてゆけば気候変動への具体的な対策になります。</p> <p>15 陸の豊かさも守ろう</p> <p>日本の山岳の4割を占める放置人工林と里山の3割以上に蔓延した放任竹林は山岳環境を荒廃させています。放任竹林を伐採し、自然林に変えてゆけば生物多様性は回復し、豊かな生態系が蘇り、陸の豊かさも守れます。</p>	<p>竹林伐採作業の様子</p> <p>伐採跡地へ広葉樹植栽</p>
4.ポイント	全国の里山の3割以上に蔓延した放任竹林はSDGsを目指す持続可能な自然環境を著しく阻害しているにも拘わらず、社会的な関心はそれほど高くありません。 SDGsの基礎をなす持続可能な自然環境の再生に18年前から取り組んでいる「やつやま友の会」の活動は全国的に見ても先駆的だと思われる。

5.取組が開始されたきっかけと展開	18年前、谷津山の山麓に住む初代会長が放任竹林の蔓延による谷津山の荒廃を危惧し、その伐採を人々に呼びかけ、当会を創立し、地権者と協定を交わした地区の竹林伐採を始めました。静岡市が主催した谷津山での放任竹林伐採体験に参加した市民も当会の趣旨に賛同し入会され、会員も増えてゆきました。広い面積の放任竹林の伐採は静岡市の予算に指定業者にお預けし、当会がその後の若竹伐り、植樹・保育などを継続してきました。その後、地道なボランティア活動が続き、放任竹林の伐採地も7ha.に増えました。 この間、他団体等との連携活動にも力を入れてきました。 ①谷津山の森作りに関心のある「しずおか焼津信用金庫」様には約10年前、当会の管理地の一部の管理をお任せしました。以後毎年3回ほど、植樹、下刈などを行い、社員による森づくり活動を行っています。当会はそのCSRへのアドバイスや現地活動の支援を続けています。②地域の美化運動に関心がある「小さな親切」運動様とは両団体の関心が一致し、9年ほど前から当会の管理地に来て頂き、以後毎年2回連携して活動を続けています。③幼竹からメンマ作りを行う「株季咲亭」様とは2年くらい前からお付き合いが始まり、当会の管理地に出る1m位の幼竹を伐り出し、メンマの材料に利用して頂いています。④その他、近隣の小学校5年生を対象にした環境講座や地域の生涯学習センターと連携したタケノコ掘と環境講座なども行っています。
6.応募した取組の今後の計画・展開	自然保護に関心のある市民や、谷津山を散策するハイカーなどに当会への入会を呼び掛けています。隣の竹林を伐採し、活動に余裕ができれば、さらに管理地を増やし、谷津山の持続可能な自然環境を守り育てていきたいと思えます。 そのために、市民、地域住民、CSR活動に熱心な企業、行政、教育機関などとの連携をさらに継続していきたいと考えています。放任竹林の伐採、その後5年間ほど続く若竹伐り、植樹・保育などの森づくりには5年、10年、20年の時間が必要です。この活動を長く続けるための新入会員の確保が課題です。

7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント	放任竹林を伐採し、森づくりをするメリットは次のようなものがあります。 1.里山での作業は自然との触れ合いも多く、健康維持にはもってこいです。 2.劣悪な環境下にある放任竹林が伐採されて野生生物が生息できる自然豊かな森が復活し、景観が良くなれば谷津山を訪れるハイカーに喜ばれます。ボランティア活動として遣り甲斐もあり、社会貢献している喜びもあります。 一方、この活動の困難さや課題には以下のものがあります。 ①竹は伐採しても地下茎が5年位タケノコを出し続け、若竹に成長し、50日もしれば若竹は20m位の親竹になります。夏の若竹の時に伐採しなければ、短期間で管理地は竹林に戻ってしまいます。また、管理地の隣に竹林が残っていれば毎年進出してくる侵入竹の除去に苦労します。できるだけ地続きの広い面積の管理地を確保し、竹林を伐採する必要がありますが、これは地権者の協力が必要です。地権者との交渉も大変です。 ②里山には多くの有害生物がいます。スズメバチ、マダニ、カ、ムシなどです。また、ハゼノキ、イラクサなどの植物に触れるとカブレ、湿疹などが発生する恐れもあります。その対策として有効な服装が必要です。また、傾斜地で竹を伐採する場合、倒す方向に人がいれば大怪我をします。ノコギリの使い方などにも細心の安全対策が必要です。③竹林伐採後の植樹計画を持つことも大切です。どんな樹種をどのような密度で植えるか、また自然萌芽種をどのように扱うかも考え、20年、50年、100年後の里山環境を考えておく必要もあります。 「やつやま友の会」には里山の森づくり活動を長く続けてきた中で得た技術と活動を安全に進めるためのノウハウがあります。 放任竹林を伐採して豊かな自然環境を取り戻したいと願う多くの市民や団体がいると思います。その様な人達には、当会に短期間でも入会してもらい、技術やノウハウを吸収し、他の里山での活動にも生かしてもらいたいと思います。
<p>小さな親切運動様と連携事業</p> <p>しずおか焼津信用金庫CSR活動支援</p>	

自治体と民間企業がタッグを組み空き家問題解決へ


「藤枝市空き家ゼロにサポーター」×「藤枝市」	
1.取組概要	「藤枝市空き家ゼロにサポーター」は、藤枝市にて積極的に空き家対策に取り組む民間企業をサポーターとして藤枝市が募集・認定し、民間企業ノウハウを活かしながら、市と協働して市民、空き家所有者等への意識啓発や空き家の利活用・流通を促しています。 2019年8月2日の「空き家ゼロの日」に発足。2021年8月には38社がサポーター企業として活動しています。
2.該当するSDGs目標	3.取組イメージ
<p>11 住み続けられるまちづくりを</p> <p>人が集う活気のあるまちを創る 居住がない家屋は老朽化の進行が早いので、早期の対応により空き家を市場に流通させ、移住・定住による地域の人口対策や賑わいを維持します。</p> <p>12 つくる責任 つかう責任</p> <p>6R（6R県民運動）を推進し廃棄物を削減する 空き家を出来る限り解体せず、リフォームやリノベーションをし、引き継いでいきます。使用する資源を少なくし、廃棄物を減らすことで、環境負荷を下げっていきます。</p> <p>17 パートナリシップ 目標を達成しよう</p> <p>皆が協働して住みよいまちを創る 空き家対策は、行政だけでなく地域住民や様々な団体が、それぞれの役割や責務を認識し、相互に協力、協働、連携して取り組みます。 空き家ゼロにサポーターでは、2019年のサポーター発足以来15件の案件を解決してきました。</p>	<p>2021年8月1日 空き家ゼロの日イベント 子ども空き家お掃除隊を開催 市民から空き家を公募 （3件応募） 築40年で7年間空き家になっていた物件を子ども達6人と掃除 空き家バンクへの登録 補助金の活用へ</p> <p>4.ポイント</p> <p>窓口は藤枝市です。空き家相談は空き家対策室。移住は広域連携課。 自治体の信用と民間企業の専門性・機動力を掛け合わせた取り組みがポイントです。</p>



5.取組が開始されたきっかけと展開	藤枝市空き家ゼロにサポーター認定1号の空き家買取専科は、不動産買取専門店として空き家再生事業をおこなっていますが、1社だけで再生できる数には限りがありました。そこで、8月2日を「空き家ゼロの日」と2018年に記念日登録をし、啓発活動をはじめました。 しかし、具体的に空き家問題を解決していくためには、自治体と民間企業がタッグを組み、スピード感を持ち取り組むことが大切だと考えました。そこで、空き家買取専科から藤枝市に「空き家ゼロにサポーター」の発足を提案し、2019年8月2日より16社が藤枝市より認定を受け活動がスタートしました。
6.応募した取組の今後の計画・展開	藤枝市空き家ゼロにサポーターでは、サポーター企業の専門性を活かした空き家セミナー・終活セミナー・DIY体験会・移住体験ツアーなどのイベント開催。 市窓口にご相談に来られた方の個別案件対応（不動産売買・リフォーム・耐震診断・解体・相続相談など）の取り組みを加速させ、空き家にしない、空き家を活用し、空き家を減らし、安全な住み続けられるまちづくりをおこなっていきます。 「空き家ゼロの日」に合わせた、全国空き家問題啓発キャンペーンや、「空き家ゼロにサポーター」の仕組みを全国に広めていく活動をしていきます。

7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント	空き家問題はどの自治体でも地域の課題となっています。「空き家ゼロにサポーター」は、どの自治体や企業でも取り組めるしくみです。自治体と民間企業が連携し、意識やしくみを少し変えるだけで空き家にしない取り組みや空き家になっても早期に活用でき、持続可能なまちづくりを推進します。 空き家ゼロにサポーターのしくみやロゴマークは著作権フリーです。
<p>これまでの仕組み</p> <p>相続した家の相談にのってもらう 市役所 民間業者はそれぞれ営業活動</p> <p>空き家ゼロにサポーターの仕組み</p> <p>相続した家の相談にのってもらう 市役所 解決した良かった〜</p>	

SDGsで詐欺撲滅！ポスターで安心して暮らせるまちづくりを


「静岡信用金庫」×「静岡市教育委員会」×「静岡中央警察署・清水警察署・静岡南警察署」

<p>1. 取組概要</p> <p>地域の警察署の協力のもと、静岡市教育委員会と静岡信用金庫との共催で「特殊詐欺撲滅」をスローガンとした「せいしんポスターコンクール」を開催しました。このコンクールは静岡市内の中学12校の美術部に参加いただき、高齢者に対する「特殊詐欺等の犯罪被害への注意喚起メッセージ」をテーマにポスターを作成してもらっています。上位入賞作品は、当金庫オリジナルポスターの原画に採用し、当金庫店舗のロビーのほか、静岡市立中学校全校、私鉄ホーム、警察署等に掲出されます。また、出品作品は当金庫HP「Webギャラリー」に掲載するとともに、当金庫の店舗ロビーにも展示して被害防止を呼び掛けています。なお、当金庫は同委員会と平成30年5月に「連携・協力に関する協定」を締結しており、「静岡市部活動応援隊」の一企業として部活動支援にも参画しています。当金庫は引き続き地域の団体と連携し、安心して暮らせるまちづくりと質の高い教育機会の創出を目指していきます。(ポスターコンクールの実績/2019年度第1回参加校9校・応募数130点/2020年度第2回参加校12校/応募数197点)</p>	<p>2. 該当するSDGs目標</p> <p>11 住み続けられるまちづくりを</p> <p>4 質の高い教育をみんなに</p> <p>17 パートナリシップで目標を達成しよう</p>	<p>3. 取組イメージ</p>  <p>4. ポイント</p> <p>「信用金庫」「教育委員会」「警察署」という異なる組織の強みを活かし、シナジー効果を地域課題の解決へと繋げていくことができます。</p>
---	--	---

<p>5. 取組が開始されたきっかけと展開</p> <ul style="list-style-type: none"> 「高齢者における犯罪被害(特殊詐欺等)や交通事故の増加」という地域社会の課題解決に取り組むため、当金庫の強み(高齢者との面談率、接触率の高さ)を活かし、行政等と連携して様々な取組を継続的に進めています。 特に、「特殊詐欺」における被害は、年々増加傾向にあるため、様々なシーンで注意喚起を呼び掛けていますが、効果的で高齢者の方々の共感を呼ぶ手法を模索していました。 そうした中、高齢者のお孫さん世代が作成するポスターで防犯を呼び掛けることに着目し、静岡市教育委員会との「連携・協力に関する協定」のスキームを活用するとともに、警察署の協力もいただき、本取組を開始しました。 	<p>7. 汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント</p> <p>社会貢献・地域貢献をテーマとした取組において、教育機関や警察は非常に協力的であり、連携しやすいと考えます。</p>  <p>▲第2回せいしんポスターコンクール表彰式</p>  <p>▲入賞作品を採用した金庫オリジナルポスターは、被害防止の呼び掛けとともに、教員委員会、警察署との連携した取組みであることもアピールできる。</p>
<p>6. 応募した取組の今後の計画・展開</p> <p>本コンクールは令和元年度より始まり、今年度2回目を開催いたしました。今後も、継続的な実施により、コンクールの認知度を高め、多くの中学生の参加と効果的な「特殊詐欺」の被害防止に繋げていきたいと考えます。</p>	

「ごみの分別」からSDGs目標を達成しよう！

「アースサポート株式会社」×「株式会社さんびる学童塾」

<p>1. 取組概要</p> <p>ごみに関しては、小学4年生を対象に授業で行うよう学校でカリキュラムが組まれていますが、ごみの分別方法やごみ回収方法については授業で触れることはなく、行政のごみ処分場を見学する事が一般的です。しかし、コロナ禍で見学が出来ない状況もあり、アースサポート株式会社では、教科書には掲載されていない『ごみの環境教育』を地元小学校を対象に実施してきました。このノウハウを活かし、このたび、SDGsに取り組む企業である「株式会社さんびる」が運営する学童塾とコラボし、初の小学生全学年を対象とした環境教育を実施しました。</p>	<p>2. 該当するSDGs目標</p> <p>12 つくる責任 つかう責任</p> <p>4 質の高い教育をみんなに</p> <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p>3. 取組イメージ</p>  <p>↑ごみ収集車の説明</p> <p>↑ごみ分別の説明風景</p> <p>クイズの内容 →</p> <p>4. ポイント</p> <p>小学校の授業ではなく、学童の一環として、ごみに関する環境学習を行う点がポイントです。1年生、2・3年生、4～6年の3チームに分け、各グループごとに説明内容を分かりやすいように変更し、実際の車両やクイズ形式など体験型学習によって、子供たちがごみに関心をもってくれます。子供たちが学んだことを家で実践し、小さなごみの分別の積み重ねが、環境保全活動につながります。</p>
<p>5. 取組が開始されたきっかけと展開</p> <p>アースサポートが小学校で「環境教育」を行っている事は、HP等で公開されており、さんびる学童塾より、夏休みのイベント企画として環境教育が実施できないか相談があったのがきっかけでした。アースサポートでは、今まで対象が小学4年生でしたので、1年生から6年生まで約90名の大人数を対象に行うのは初の試みでした。1年生と6年生で同じ説明は難しい事や、コロナ禍で密を避けるため、1カ所に集まる人数を制限する必要がありました。そこで、さんびる学童塾の職員の方と打ち合わせを行い、広い場所を2カ所、バッカー車を配置する場所を1カ所準備していただき、3チームに分けて説明をすることにしました。</p>	<p>7. 汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント</p> <p>近年、女性の社会進出が進み、学童の需要は増加傾向にあるのに対し、公設学童は時間制限や家庭環境に応じて受入に制限があります。そのような社会状況下で、民間の学童は増加傾向にあり、民間企業ならではの様々なカリキュラムに工夫を凝らしています。一方、ごみに関しては、小学4年生を対象に授業で行うよう学校でカリキュラムが組まれていますが、ごみの分別方法やごみ回収方法については授業で触れることはなく、行政のごみ処分場を見学する事が一般的です。小学生だけでなく、大人でもごみの分別方法については、地方自治体が発行する手引き等で自分で調べたり、自治体に確認するしかありません。実際、容器包装リサイクルのプラスチック用の袋に、使い捨てマスクが混入したり、ガス缶破裂による車両の火災事故なども後を絶ちません。廃棄物処理業者は、ごみについてはエキスパートです。全部燃やせるごみに廃棄するのではなく、洗ってリサイクルする、と簡単なことを教えるだけで、廃棄物を削減し、リサイクルを推進し、排気ガスを削減するという大きな環境保全につながります。ごみの分別については、それ自体がSDGsのテーマとしてあまり捉えられていないかもしれませんが、ごみは社会活動において必ず発生するものであり、環境やエネルギー問題にも大きく関わってくるものです。持続可能な社会を目指すためにも、SDGsの目標達成に向けても大きく貢献をするテーマです。ごみの分別方法を知りたいというニーズはきっと多くありますので、廃棄物処理業者から発信していくと、ごみの分別という環境教育がメジャーなものになっていくと考えています。</p>	
<p>6. 応募した取組の今後の計画・展開</p> <p>さんびる学童塾に通う子供たちは、4年生を機に入退塾が行われます(4年生で学童が不要と判断される、公設学童は3年生までのため4年生から入塾させたい等)。このことを考慮し、3年に1回のペースで環境教育を行う予定にしています。また、アースサポートにおいては、人数の多い環境教育は難しいと考えていましたが、さまざまな工夫と受講側との協力によって、対応が可能になりました。今回のコラボによる環境教育は、地元新聞やテレビでも放映されており、各社のホームページにも掲載しています。活動を見て、環境教育を希望される団体があれば、実施していく予定です。</p>		

静岡市の文化X資源X新テクノロジーのものづくり

「Tech and Hug」×「杣プロジェクト」×「日軽産業(株)」
×「TEAL PHOTON(株)」×「Akiz」

Table with 3 columns: 1.取組概要 (Project overview), 2.該当するSDGs目標 (SDG targets), 3.取組イメージ (Project images), 4.ポイント (Key points).

Table with 2 columns: 5.取組が開始されたきっかけと展開 (Start and development of the project), 6.応募した取組の今後の計画・展開 (Future plans for the project).

Table with 2 columns: 7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント (Points for generalizability), 8.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント (Additional points for generalizability).

「藤枝茶を何とかしようプロジェクト」の活動!!

「西光エンジニアリング(株)」×「エフドア」×「藤枝茶を何とかしようプロジェクト」

Table with 3 columns: 1.取組概要 (Project overview), 2.該当するSDGs目標 (SDG targets), 3.取組イメージ (Project images and flowchart), 4.ポイント (Key points).

Table with 2 columns: 5.取組が開始されたきっかけと展開 (Start and development of the project), 6.応募した取組の今後の計画・展開 (Future plans for the project).

Table with 2 columns: 7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント (Points for generalizability), 8.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント (Additional points for generalizability).



＜藤枝茶を何とかしようプロジェクトの運営、技術会議＞
【藤枝茶を何とかしようプロジェクト参加メンバー】
・西光エンジニアリング(株)：統括・マツバ製茶(株)：仕上げ加工・大塚園：茶農家・(株)伊藤園：茶飲料メーカー・やす家：宮古島のフレーバー生産者・(株)沖友：卸売業【支援機関】
静岡県工業技術研究所、藤枝市産業政策課、藤枝市お茶のまち推進室、藤枝商工会議所、岡部町商工会、藤枝市エコノミックガーデニング支援センター「エフドア」

「乾燥モズク」と「藤枝の海ぶどう」の誕生!!

「(株) 沖友」×「静岡県商工会連合会」×「宮古島漁業協同組合」×「海ぶどうのやす家」

<p>1.取組概要</p>	<p>沖縄県産のモズクや海ぶどうの販売を行う(株)沖友は、静岡県商工会連合会のアドバイスを受けて沖縄県の水産業者、宮古島漁協及び海ぶどう本舗やす家と連携し、生のモズク及び海ぶどうの水分を除いて重量を軽減することにより、輸送費削減と共に輸送時の二酸化炭素排出量を削減し、脱炭素化・SDGsの達成を目指します。</p> <p>水分を除いたモズクは、更に水分を除去して「乾燥モズク」の商品化に成功しました。また、水分を除いた海ぶどうは、栄養塩が豊富な駿河湾深層水による中間養生で成長して食感を向上し、「ふじえだの海ぶどう」と名付けて周年で流通し、輸送のダメージや7日間の賞味期限切れで廃棄するロスを無くしました。</p> <p>水分の除去や乾燥には、従来の2倍以上(当社比)の高い熱効率のマイクロ波減圧乾燥機を使用します。</p>
<p>2.該当するSDGs目標</p>	<p>目標 13：気候変動に具体的な対策を 熱効率に優れた「マイクロ波減圧乾燥機」の国内における普及を急ぎ、さらに海外にも普及を図り、エネルギー効率の改善率を倍増することで脱炭素化・SDGsを進めます。</p> <p>目標 9：産業と技術革新の基盤をつくらう 「グリーン技術・マイクロ波減圧乾燥機」により、海藻等の新たな乾燥商品を生産し、地域の漁業生産物の価値を高め、成果を共有します。 「環境に配慮した技術」で、途上国の持続可能なインフラ改良やイノベーションの実現に貢献します。</p> <p>目標 14：海の豊かさを守ろう 海洋は二酸化炭素や熱エネルギーを吸収して地球温暖化を和らげますが、海洋酸性化を招きます。それに加えて海水温の上昇や、海洋循環が滞れば、海洋生物が生きていけない環境になるので、脱炭素化・SDGsの達成が急がれます。</p>
<p>3.取組イメージ</p>	<p>宮古島漁協、宮古島海ぶどう生産グループ、静岡県水産技術研究所、静岡県商工会連合会、海ぶどう本舗やす家、駿河湾深層水利用者協議会、株式会社沖友（駿河湾深層水による中間養生施設）、スーパーマーケット（KOマート 他）、レストラン・居酒屋（藤枝市場 他）、直販</p>
<p>4.ポイント</p>	<p>収穫したモズクや海ぶどうをそのまま輸送していましたが、乾燥モズクは約10%、他のモズクは50%程度、海ぶどうは70%程度に重量を軽減することで、炭素の排出が多い化石燃料の使用を減少でき、地球温暖化の大きな要因である二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量を大幅に削減して脱炭素化・SDGsの達成を目指します。</p>

5.取組が開始されたきっかけと展開

モズクの課題は、塩漬けて出荷したモズクを加工業者が保管し、味付けモズクに加工する直前に塩抜きを行います。この塩漬けと塩抜きの作業によりフコイダン等モズクの有用成分の多くを失いますが、(株)沖友が扱うモズクは塩漬けをしません。収穫したモズクの水分を50%ほど除去して凍結したモズクを静岡に輸送して保管し、加工前に水道水で元の水分量に戻して使うことにより輸送や保管コストは半減でき、モズクの持つ栄養と美味しさの総てを台所に届けます。更に乾燥を進めた含水率6%程度の「乾燥モズク」も商品化して販売しています。

海ぶどうの課題は、賞味期限が7日と短く低温に弱い点で、その為に沖縄県内での流通を余儀なくされ、慢性的に生産が過剰する状態で、本格的な県外への流通が必要です。これらの課題を解決する為に、静岡県商工会連合会のアドバイスを受けて宮古島漁協及び海ぶどう本舗やす家と連携・共創を進めています。

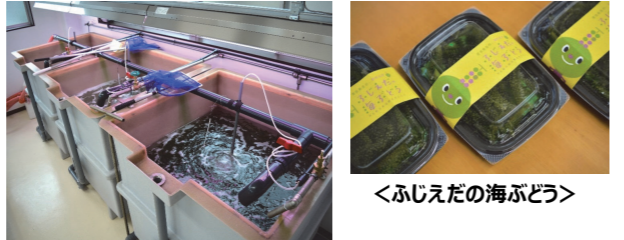
6.応募した取組の今後の計画・展開

宮古島の水産業者との連携・共創により、モズクと海ぶどうが抱える課題は解決できました。静岡では、産地と同じ栄養価と美味しいモズクが台所に届くようになり、産地で食べるより食感が良好な海ぶどうが周年で流通できるようになりました。

今後は、連携する水産業者を宮古島から沖縄県内に広げて原料の安定供給を図りながら、静岡の受け入れ施設を増強する必要が有ります。フコイダン等有用成分を損なわれないモズクを静岡から全国に、食感が良好な海ぶどうを静岡から中部圏と首都圏に販路を拡大する計画です。

7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

モズクは、塩漬けによる流通でフコイダン等の有用成分の多くを失っています。有用成分を失わずに消費者に届ける流通方法の改善と、食感に優れた海ぶどうを周年で中部から関東圏に流通する新たな流通方法の構築に取組む為に、宮古島の漁業者と連携・共創して進めました。遠隔地から含水率97%と重い海藻の輸送でフードマイレージは大きく、脱水して重量を軽減して輸送することで輸送コストを低減し、脱炭素化・SDGsの達成を進める事が大前提で取組みました。



脱水した海ぶどうは、駿河湾深層水で中間養生を行う新たな流通構築を目指し、静岡県水産・海洋技術研究所に深層水による海ぶどうの中間養生の調査を依頼し、駿河湾深層水利用者協議会に入会して深層水の安定供給の協力を求めました。調査の結果、深層水による数日間の中間養生で、海ぶどうは深層水の栄養塩で急成長し、粒は肥大して良好な食感が得られるようになり、沖縄よりも美味しい海ぶどうと言われ、商品名を「ふじえだの海ぶどう」として流通を始めました。

この計画の汎用性のポイントは、独り勝ちしない「連携・共創」であると思います。

遊びながらSDGsに関心を広げる夏休みイベント【ペットボトルキャップdeべりりん】

「下田東急ホテル」×「近隣企業」

<p>1.取組概要</p>	<p>下田東急ホテルでは、ファミリー向け夏休みイベントとして「ペットボトルキャップdeべりりん」を開催します。日頃身近にあるペットボトルのキャップを利用して一枚の絵を描くキャップアート制作体験で、絵のテーマは下田市のゆるキャラ「べりりん」です。年齢制限はなく、お子様からお年寄りまで一緒に参加できるイベントです。参加する子供たちはカラフルなキャップをパネルのどこにはめるのかパズルのように悩みながら、大きなべりりんを描きます。ご家族やご友人と一緒に協力しながら遊び、完成させる達成感を味わうことができます。</p> <p>イベント会場では、ポリオワクチンの支援や海洋プラスチック問題を知ってもらうためのパネルを掲示します。集まったキャップが、開発途上国の子供たちのポリオワクチン接種支援のために役立つことを伝え、参加する子供たちに自分たち一人一人の小さな行動が環境保全の他、開発途上国の支援になることを感じてもらいたい、さらに周りにも行動の輪を広げてほしいと考えています。</p> <p>東急ホテルズでは全社でSDGsへの取り組みを展開しています。この小さなキャップを集める行動はSDGsで掲げている【3.すべての人に健康と福祉を】【12.つくる責任、つかう責任】【14.海の豊かさを守ろう】につながります。下田東急ホテルでは、海の豊かさを守るため、ホテル目の前の「鍋田浜プラゴミ0キャンペーン」を掲げビーチクリーンを行っています。ペットボトルキャップ集めも今後の活動に加えていきます。</p> <p>本イベントは近隣企業からも賛同をいただき、準備期間で約50kg、20,000個のペットボトルキャップが集まりました。</p> <p>下田東急ホテルは今後も、美しい海と豊かな大地の恩恵によりリゾートホテルを営んでいることに感謝の気持ちを含めて、SDGsにつながる活動を継続していきます。</p>
<p>2.該当するSDGs目標</p>	<p>3.すべての人に健康と福祉を 周辺企業より集まった約50kg、20,000個のペットボトルキャップは、認定NPO法人「世界の子供たちにワクチンを」日本委員会へ寄付をし、開発途上国の子供たちのポリオワクチン接種支援に協力します。</p> <p>12.つくる責任、つかう責任 身近な物でもリサイクルや寄付することができることを知ってもらい、廃棄物の海や川、森への放出が無くなるよう目指します。</p> <p>14.海の豊かさを守ろう 海岸に落ちているペットボトルを拾いイベントに再利用するなどして海洋ゴミの削減を目指します。 このイベントを通して下田東急ホテルが実施する環境活動（ビーチクリーン）への参加を呼びかけます。</p>
<p>3.取組イメージ</p>	
<p>4.ポイント</p>	<p>日頃身近にあるペットボトルのキャップを利用して一枚の絵を描くキャップアート制作体験をすることで、お子様からお年寄りまで参加でき一緒に協力しながら遊び、完成させる達成感を味わうことができます。</p> <p>また、ポリオワクチンの支援や海洋プラスチック問題を知ってもらうためのパネルを掲示し集まったキャップが、開発途上国の子供たちのポリオワクチン接種支援のために役立つことを伝え、参加する子供たちに自分たち一人一人の小さな行動が環境保全の他、開発途上国の支援になることを感じてもらうことがポイントです。</p>

5.取組が開始されたきっかけと展開

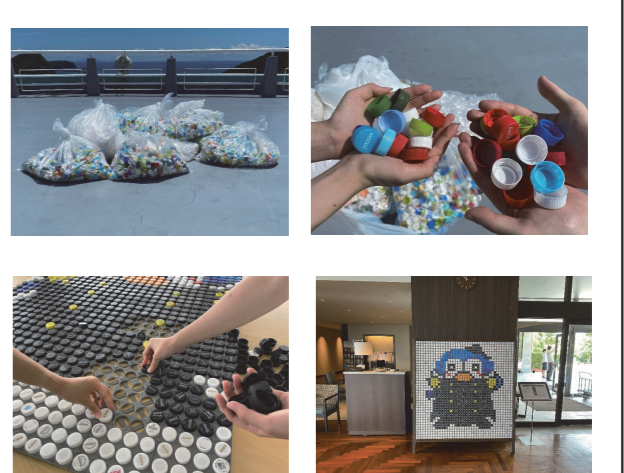
夏休みファミリー向けイベントがSDGsについて学ぶ機会になれば良いと考え、このイベントを始めました。進めていくうちに、近隣企業様も協力してくれることになりました。

6.応募した取組の今後の計画・展開

他にもイベントとして、SDGsの関連した遊びやゲームや講演などのイベントを考え、お客様や地域の皆様と共に学んで実践していく場づくりに努めます。

7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

ペットボトルキャップを集め、アートのテーマを決めて頂ければすぐにも実行することができます。また、こちらのイベントは特殊な技術や、材料を必要としないので他の事業所・団体でも真似しやすく汎用性が高いと思います。



「みんなで拾ってみんなで作る」海ごみアップサイクルチャレンジ

「アノミアーナ」×「アップサイクル企業」×「行政・地域団体・学校」

<p>1.取組概要</p>	<p>アノミアーナは海ごみ問題の解決を目指して、大量漂着ポイントである若狭湾（福井県）で、海ごみの調査や再資源化の試み、持続可能な回収・処分体制の提案、地域や学校での啓発活動などを行なっています。海ごみの再資源化は様々な困難が伴いますが、問題意識の高いプラスチックメーカーらと共同で、海ごみを原料にした魅力的な商品を開発し、販売を始めています。地域や学校でも、自分たちが拾った海ごみがオリジナルグッズに変わることに関心が高まり、暮らしの中での発生抑制など、行動変容のきっかけとなっています。</p>		
<p>2.該当するSDGs目標</p>	<p>14 海の豊かさを守ろう 12 つくる責任、つかう責任 17 パートナースHIPを促進しよう</p>		
<p>海ごみの調査を行い、持続可能な回収・処分体制の構築に向けて、行政への提案を行っています。提案を受け、福井県では海岸漂着物対策協議会が設立され、地域計画の策定に向けた議論を始めています。小浜市では、全量埋立て処分していたところを、今年度から部分的に分別回収を始めています。地域でも、海ごみ問題に取り組む学校や海岸清掃に取り組む団体が増えています。</p>	<p>3.取組イメージ</p> <p>海ごみ問題の概要 → 再資源化の可能性を知る ビーチクリーン → 材料を分別回収 → 原料化（洗浄・裁断等） オリジナルのアップサイクル品の完成 → 技術的な難しさも伝える → 周りの人に話したくなる</p>		
<p>海ごみ問題への関与に意欲的なプラスチックメーカーらとともに、海洋プラごみのアップサイクル商品の開発を行っています。若狭湾で回収したプラごみで、カラフルなインテリア小物、キーホルダー、アクセサリ、サングラスなどを作り販売するほか、海ごみ抑制の啓発活動に使っています。これまでに海洋プラごみ約300kgをアップサイクルしました。</p>	<p>4.ポイント</p> <p>海ごみ問題に取り組み始めた頃は、プラスチックメーカー＝好ましくない存在、のように思っていたが、プラスチックメーカーだからこそ、その利点も問題点もよくわかっていて、何年も技術開発をされるなど、その姿勢と情熱、職人技に感動します。他方、メーカーは海ごみ大量漂着地域との繋がりが薄く、原料調達に事欠いたり、せっかく商品を作っても海ごみに困っている地域で活かされていないなどの問題がありました。私たちはその間を取り持つて、良い循環が生まれるよう仕組み作りをするとともに、アップサイクル品を啓発グッズとして活用することで、より広い層の関心を集めることができています。</p>		

5.取組が開始されたきっかけと展開

若狭湾はリアス海岸のため10数軒程度の集落が点在し、過疎高齢化も進んでいます。地域住民の海岸清掃の負担が増えていることから、5年前から体験観光の中にビーチクリーンを取り入れるなど、市民や観光客がビーチクリーンに参加する仕組みを作ろうとしていました。ところが、ある時、集めた海ごみが数ヶ月も処分されずに漁港に留め置かれたことから原因を調べたところ、海ごみの大半が県外に搬出され、埋め立て処分されていることを知りました。また、処分場が逼迫しており、処分料が高騰していることもわかりました。「海をきれいにしたら、山がごみで埋まる」と思い解決策を探していたところ、欧米では海ごみのアップサイクルが行われており、日本でも取り組み始めている会社があることを知りました。すぐに視察し、若狭湾の海ごみでアップサイクル品を作っていたことが出来ました。それぞれのアップサイクル品は非常に魅力的な商品であることから、「自分たちが拾った海ごみが素敵なグッズに変わる!!」ということで、これまで海ごみに関心が高かった人もビーチクリーンに参加するきっかけとなっています。

6.応募した取組の今後の計画・展開

みんなで拾ってみんなで作る「アップサイクルチャレンジ」| オーシャングラス（海ごみサングラス）チャレンジを各地に広げて行きます。学校や地域団体、企業などに呼びかけ、地域全体で取り組む活動にして行きたいと考えています。また、これまでの観光は「きれいなところを見てもらう」「きれいにしてから来てもらう」という形でしたが、一緒にきれいにして、アップサイクル品をお土産にしてもらう「海ごみ観光」「海ごみ教育旅行」を海沿いの宿泊施設や観光協会、旅行会社とともに進めて行きます。更には、地域通貨やエコポイントなどを導入することで、一般市民や観光客が積極的にビーチクリーンに参加し、スーパー、コンビニ、小売店など海ごみになるものを出す可能性がある企業も連携できる仕組み作りができなかと模索しています。

7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

学校、地域、行政が直接企業と連携するのは難しいですが、間に私たちのようなNPO的組織が入ると、そこをハブにして、いろんな団体が連携できるように思います。

海ごみのアップサイクルは技術的に難しく、地域の企業が簡単にマネのできるものではありませんが、街ごみであれば比較的ハードルは低いかと思います。アップサイクルに挑戦する企業が増えていけば、と思います。

海の世界活動を15年以上続けてきましたが、なかなか活動として広がっていきませんでした。そうした中で、アップサイクルに取り組む始めたところ、非常に注目を浴び、いろんな方々が興味を持ち、参加したいと言われるようになりました。「モノ」の持つ力の大きさを感じています。

モノを通して経済を動かすことで、会社や小売店、レストラン、観光業者などが環境活動に携わる方法が見えつつあります。SDGsという、これまで「経済側」だった人たちが「環境側」に近づいてくるイメージですが、私たち「環境側」も「経済側」に近づいていく必要があるのではないかと感じています。

「庭木の里親サービス」で大切な樹木を次の世代につなぐ

「良知樹園(株)」×「(株)中部日本プラスチック」×「しずおか焼津信用金庫」

<p>1.取組概要</p>	<p>造園業を行っている当社は、様々な事情により手離さなければならなくなった歴史ある庭木を引き取り、所有者の想いを理解していただける新たなオーナーに引き渡す、「庭木の里親サービス」を行っています。本事業がしずおか焼津信用金庫の協力もあり、様々なチャネルで発信された結果、SDGsを推進する中部日本プラスチックとのマッチングにつながり、新工場建設時に多くの樹木が里親事業として移植されました。大切な樹木が処分されることなく、歴史とともに次世代へ承継することに貢献することで、脱炭素社会の実現を目指します。</p>		
<p>2.該当するSDGs目標</p>	<p>15 陸の豊かさも守ろう 17 パートナースHIPを促進しよう 4 質の高い教育をみんなに</p>		
<p>伐採対象であった樹木の里親となり、樹木の生命を次世代へ繋ぐことで、生態系や環境を守ることを目指します。</p>	<p>3.取組イメージ</p>		
<p>新工場の緑化を目指す中部日本プラスチックと、「庭木の里親サービス」を行う当社が金融機関の協力もありマッチングした事で、脱炭素社会の実現を目指します。</p>	<p>4.ポイント</p> <p>伐採される予定だった庭木を当社が引き取り、樹木を必要とするSDGsを推進する企業や団体と連携することで、歴史ある大切な樹木を単に伐採する選択肢だけでなく、里親事業として移植し、次世代につなげていくところがポイントです。</p>		
<p>里親事業を拡大させることで、庭師集団から脱却し売上規模の大きくなる景観設計士需要を発掘することで後継者不足に苦しむ造園業界の活性化と高学歴人材の若手育成を目指します。</p>			

5.取組が開始されたきっかけと展開

高齢化社会や核家族化の進展のために、大きな庭を持つ家庭が減少しており、本来は価値のある庭木も庭園保有者の世代交代により維持管理が困難になり、庭木の伐採依頼が増えていました。

しかし思い出のある木を引っ越しなどで泣く泣く伐採依頼をする方がほとんどでした。その現状をしずおか焼津信用金庫担当者と共有している中で、「庭木の里親サービス」のアイデアが生まれました。

中部日本プラスチックは、新工場設立の際に環境に配慮し、緑豊かな工場を目指していました。金融機関による情報発信サポートがあり、本事業が中部日本プラスチックにも届いたことがきっかけとなり、マッチングとなりました。

6.応募した取組の今後の計画・展開

SDGs推進に伴い、環境に配慮した持続可能な経営や、脱炭素化を目指す企業が増加すると考えられます。今後も多くの樹木が伐採されずに、次の世代に継承されるよう、本事業を続けていきます。これからは本事業の取り扱い範囲を拡大させるために「庭木の里親サービスWEBサイト」を構築し、事業を効率的に運用していきます。まずは本事業の理念を理解していただける連携先を増やし、業務オペレーションを安定させ、様々なチャネルで情報発信していくことで認知度向上を図る予定です。後継者不足に苦しむ造園業界において、剪定や管理といった庭師の育成だけでなく、景観緑化プロジェクト等をコーディネートできるランドスケーパー（景観設計士）の若手育成にもつなげていきたいと考えます。

7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント


静岡県には歴史ある庭園を保有している家庭が多いですが、家の建て直しなどで大切な庭木を残したくても残せない方がいます。一方で、大型施設や古民家の再生、公園等の整備によっては大きく育った樹木を必要としているところもあります。このようなニーズをマッチングさせることで歴史ある樹木を次世代に繋いでいきます。この事業が幅広く周知され、庭木を手離す方と必要としている方に円滑に届くことで、樹木を守るひとつの手段として知られれば、より多くの団体や庭木を持つ家庭が参加でき、より多くの樹木を守ることが可能となります。今回、中部日本プラスチックとの連携により本来処分されるはずだった焼津の工場の樹木が新たな場所に移植されました。この取組みがより多くの方に認知され、歴史ある樹木が次の世代に引き継がれていければと思います。



庭木の里親サービス

SHIZUOKA SDGs Action!静岡のSDGs企業を発信!

「しずおか焼津信用金庫」 × 「静岡でSDGsに先進的に取り組む企業」

<p>1.取組概要</p>	<p>しずおか焼津信用金庫と静岡でSDGsに先進的に取り組む企業（以下、SDGs推進企業）が連携し、静岡のSDGsの取組を情報発信することでSDGsを推進する企画になります。静岡市内中心部に位置する追手町支店およびホームページを活用し、地元中小企業のSDGs事業を紹介しています。静岡の特徴的なSDGs事業を連携して発信することで、他の中小企業をも触発し相乗効果を図ります。中核的役割をもつ金融機関とSDGsメインプレイヤーである地域中小企業と連携し、静岡のSDGs推進に貢献します。【SDGs推進企業(五十音順)】(株)季咲亭、スマートブルー(株)、西光エンジニアリング(株)、(株)竹酔、日興美術(株)、平和みらい(株)、良知樹園(株)、社会福祉法人天心会 亀爪園</p>	
<p>2.該当するSDGs目標</p>	<p>8 働きがいも経済成長も</p> <p>SDGsをキーワードとした新たな取組により、団体間の横とのつながりを創出し、企業価値の向上や新たな事業の創出を目指します。</p>	<p>3.取組イメージ</p> <p>SDGs企画概略図</p>  <p>追手町支店ディスプレイ(リアル)</p> <p>ホームページ(バーチャル)</p> <p>クラウドファンディング(SDGs金融)</p>
<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	<p>静岡の地域中小企業の特徴的なSDGs事業を発掘し、静岡の持続可能な産業化や技術開発を推進します。クラウドファンディング等の活用を促進し、誰もが参画しやすい仕組みづくりに努めます。</p>	
<p>17 パートナシップで目標を達成しよう</p>	<p>静岡の多様なSDGs推進企業と連携し、先進的なSDGs事業を発信することで、他の中小企業をも触発し、相乗効果で静岡のさらなるSDGs推進に努めます。</p>	

5.取組が開始されたきっかけと展開

2020年にSDGsは「行動の10年」という新たなフェーズに入りましたが、SDGsを積極的に取り組む中小企業は静岡県内においても約2割程度に留まっていた(帝国データバンク静岡支店2020年6月調べ)。一方で、金融機関として地域中小企業と寄り添った対話をする中で、地域中小企業だからこそ地元で寄り添った経営やSDGsに準ずる事業を行っていると感じていました。

そこで、さらなる静岡のSDGs推進のため、SDGs推進企業のSDGs事業を後押しすべく、2020年8月から当金庫が情報発信のサポート等を行う企画を始動しました。本企画が新聞、地域ビジネス情報誌、テレビ放送などにも取り上げられたことにより、静岡におけるSDGs普及啓発効果および企業価値の向上に繋がったと感じています。

6.応募した取組の今後の計画・展開

今後もSDGs推進企業と連携し、静岡のSDGs事業を情報発信することや、各企業のSDGs事業の拡大をサポートしていきます。



静岡にはまだまだSDGsを先進的に取り組んでいる地元企業が多く存在します。静岡のさらなるSDGs推進のため、引き続きSDGs推進企業の発見、情報発信等のサポートを続けていきます。加えて、SDGsの認知度アップに伴い、取組みを始めたいと考える企業に対しても支援を強めていきます。本取組により、他の中小企業をも触発し、相乗効果で静岡のSDGsを推進していくことに貢献します。また、さらに幅広い連携を進めべく学校との連携や、当金庫エリア内である焼津市や藤枝市内などの支店を活用したより広域的な情報発信を目指します。

7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

より多くの人がSDGsを理解し、身近なSDGsの取組を「知る」ことが、SDGsゴール達成に向けた一歩目であると考えています。そのために、静岡の特徴的なSDGsの取組を発信し、地域全体がSDGsを意識していくことが大切だと思います。

本取組は、複数の団体が連携して情報発信をすることで、より効果的な発信になったと思われます。SDGsをキーワードとして多業種が連携して情報発信することは、他の団体においても真似やすく、汎用性が高いと考えます。

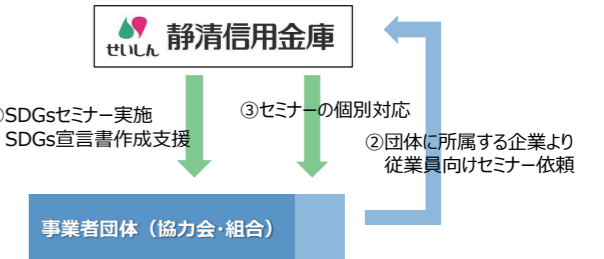
本取組を通じて、静岡のSDGs推進企業を発見・認識し、SDGsの取組みを可視化することができました。そうすることで、社内でのSDGs意識の向上に繋がったという声もありました。このように、外部への発信により、他の中小企業に広がっていくだけでなく、一人一人のSDGs意識の向上にもつながると考えます。

ホームページ 追手町支店ディスプレイ

企業・団体向けのSDGs勉強会実施&SDGs宣言作成支援

「静清信用金庫」 × 「事業者団体」

<p>1.取組概要</p>	<p>SDGs取組の必要性の高まりを受け、「協会会」「組合」といった事業者団体に対し、静清信用金庫がSDGsセミナーを実施しています。セミナーにおいては、SDGsの基本的情報、企業がSDGsに取り組む意義・目的などを伝え、希望に応じてSDGs宣言書やSDGsマップの作成支援も行っています。また、団体でのセミナー実施後、受講した企業からの従業員向けセミナー実施の個別依頼にも応え、企業のみならず一般個人に対するSDGs普及・啓蒙活動に活動の裾野を広げています。</p>	
<p>2.該当するSDGs目標</p>	<p>4 働きがいも経済成長も</p> <p>SDGsに関する勉強会を受講することで、開発目標達成に向けた施策検討方法を学びます。</p>	<p>3.取組イメージ</p>  <p>①SDGsセミナー実施 SDGs宣言書作成支援</p> <p>②団体に所属する企業より従業員向けセミナー依頼</p> <p>③セミナーの個別対応</p> <p>事業者団体(協会会・組合)</p>
<p>8 働きがいも経済成長も</p>	<p>売上・収益の向上を意識したSDGs取組みを検討し、実践することで企業の持続可能性を高め、雇用の継続・創出を図ります。</p>	
<p>17 パートナシップで目標を達成しよう</p>	<p>SDGsに関心が高い事業者・団体が連携することで、より高いレベルのSDGs取組みを目指します。</p>	

5.取組が開始されたきっかけと展開

団体1. 村上開明堂協会

- 村上開明堂の一次下請企業で組織される村上開明堂協会(全12社)が定期的に実施している勉強会において、SDGsをテーマに取り上げたいとの意見が出ました。
- 協会会メンバー企業の代表者から、メインバンクである当金庫にSDGsセミナー実施の要請があり、地域創生SDGs推進課が応じました。
- セミナー実施後、参加した2社から従業員向けセミナーの依頼があり、Zoomにてセミナーを実施しました。
- また、協会会各社はSDGs宣言書を作成する運びとなり、当金庫で作成を支援いたしました。本取組の成果として、SDGs宣言書の発表会をZoomで開催しました。

団体2. 静岡県志太様原生コンクリート協同組合

- 生コン関連業者で構成される同組合の定期勉強会において、SDGsをテーマに取り上げたいとの意見が出ました。
- 同組合の理事長からメインバンクである当金庫にSDGsセミナー実施の要請があり、地域創生SDGs推進課が応じました。
- 勉強会においては、SDGsの知識習得のみならず、同組合の懸案事項である「残コン・戻りコンの活用策」の検討にまで議論が及んでいます。

6.応募した取組の今後の計画・展開


- 当金庫はSDGsセミナーをこれまでに15回(企業関係7回、学校関係8回)実施しています。
- SDGsへの関心は更に高まることが予想され、セミナーのご要望には積極的に対応していきます。

7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

- 金融機関は早くからSDGsに取り組んでいるため、他業界に比して情報量が多く、理解度も高いと思われます。また、金融機関は地域創生事業に力を入れており、企業や団体からの要望には積極的に応じるものと考えます。
- 金融機関の保有するSDGs情報を地域企業や団体に惜しみなく提供することで、地域のSDGs普及スピードは高まるものと考えます。

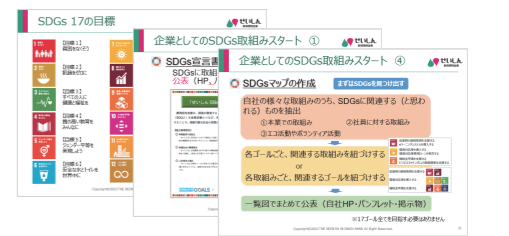
「SDGs宣言」構築を目指して

【静清信用金庫 中野廣樹による勉強会】



2021年6月16日 ZOOMにて開催 村上開明堂協会

▲村上開明堂協会勉強会の模様



▲静清信用金庫作成のSDGsセミナー資料



貧困をなくそう

「まだ食べられるのに、もったいない」で SDGs P20

事業所・団体名	● 株式会社 神成
所在地	静岡県駿河区中原 636-1
連携における役割	訳あり食品を様々な団体から仕入れて消費者へ販売。
関連 URL	http://e-kanteidan.com/reduction-of-foodloss-shop/
事業所・団体名	NPO 法人 食品ロスを真剣に考える会
所在地	静岡県駿河区八幡5-8-3
連携における役割	企業から訳あり食品の寄贈を受けたり、生活困窮者への食料支援。
関連 URL	http://syokuloss.com/



飢餓をゼロに

SDGs を通して企業と企業を結ぶ P21

事業所・団体名	● 株式会社 ノースジニアス
所在地	札幌市豊平区平岸3条5-4-22 平岸グランドビル新館5F
連携における役割	あらゆる企業へ取材を行い、パートナーシップ促進の橋渡し役となっています。
関連 URL	https://www.northgenius.co.jp/
事業所・団体名	社会福祉法人 南幌福祉会
所在地	北海道空知郡南幌町元町2-2-2
連携における役割	麻生キッチンリあんへ食料を寄付し、食品ロスの削減と、栄養ある食事提供に貢献しています。
関連 URL	https://www.n-fukushikai.or.jp/
事業所・団体名	NPO 法人 麻生キッチンリあん
所在地	札幌市北区北 39 条西5-2-12
連携における役割	子ども食堂を運営し、子どもから大人まで脆弱な立場にある人々へ、安全かつ栄養のある食事を提供しています。
関連 URL	https://asabu-rian.com/

農福連携でくらしの豊かさの実現を目指す P22

事業所・団体名	● 清水農業協同組合
所在地	静岡県清水区庵原町1
連携における役割	農業者の生産サポートのため質の高いサービスを提供し、くらしの豊かさの実現を目指しています。
関連 URL	https://www.ja-shimizu.org/
事業所・団体名	就労継続支援 B 型事業所 nanairo
所在地	静岡県清水区三保 1876-6
連携における役割	雇用契約に基づく就労が困難な方に就労の機会や生産活動の機会の提供を行っています。
関連 URL	https://nanairo-shimizu.jp/



すべての人に健康と福祉を

「保険の整備拡充」で SDGs ! 会社にも従業員にも適切な保険を。 P23

事業所・団体名	● 徳三運輸倉庫 株式会社
所在地	静岡県清水区興津中町 873-1
関連 URL	http://www.tokusan-unyu.jp/
事業所・団体名	損害保険ジャパン 株式会社 清水支社
所在地	静岡県清水区本郷町5-5
関連 URL	https://www.sompo-japan.co.jp/

ことばの壁をこえ心もからだも健康に P24

事業所・団体名	● 社会福祉法人 恩賜財団済生会 支部静岡県済生会
所在地	静岡県駿河区小鹿1-1-1
連携における役割	外国人のための無料健康相談と検診会 実行委員会と協力し、静岡済生会総合病院で検診を実施しています。静岡県国際交流協会に対しては、医療通訳の派遣依頼を行っています。
関連 URL	https://www.socialinclusion.saiseikai.or.jp
事業所・団体名	外国人のための無料健康相談と検診会 実行委員会
所在地	静岡県葵区鷹匠3-3-1
連携における役割	「外国人との共生社会」を目指して、外国人を対象に、無料健康相談と検診会を行います。
事業所・団体名	静岡県国際交流協会
所在地	静岡県駿河区南町 14-1 水の森ビル2階
連携における役割	医療通訳の派遣・研修を行っています。
関連 URL	http://www.sir.or.jp/



質の高い教育をみんなに

未来の主役は私たちだ! 子どもたちが作る SDGs マップ P17

事業所・団体名	● あさおの SDGs
所在地	川崎市麻生区上麻生
連携における役割	SDGs 推進隊活動における企画、運営の実施。
関連 URL	https://www.instagram.com/asao_no_sdgs/
事業所・団体名	川崎市 麻生区役所
所在地	川崎市麻生区万福寺1-5-1
連携における役割	SDGs 推進隊の活動助成 (市民提案型提案事業としての採択)、運営補助。
関連 URL	https://www.city.kawasaki.jp/asao/soshiki/18-8-2-0-0.html

「ひろろ」ことから SDGs を考える地域清掃プロジェクト P25

事業所・団体名	● 常葉大学附属橘中学校・高等学校
所在地	静岡県葵区瀬名2-1-1
連携における役割	企業を招いた SDGs の講演や、当清掃活動の取組について旗振り役を担っています。
関連 URL	https://www.tokoha.ac.jp/tachibana-jh/
事業所・団体名	西奈学区自治会連合会
所在地	静岡県葵区瀬名3-18-58
連携における役割	常葉大学附属橘中学校・高等学校と共同して当清掃活動の取組に参加協力する役を担っています。

事業所・団体名	日本たばこ産業 株式会社 静岡支店
所在地	静岡市葵区音羽町 13-1
連携における役割	市民参加型の清掃活動「ひろえば街が好きになる運動」について生徒に説明／ひろ街のノウハウ提供を行っています。
関連 URL	https://www.jti.co.jp/coexistence/manners/hiromachi/index.html

未来に向けて、街づくりを自分達の手で P26

事業所・団体名	● 株式会社 nexus 静岡
所在地	静岡県焼津市柳新屋 886-1 オレンジパークビル1階
連携における役割	生徒の思いを現実化し、実践教育の場の提供をしています。
関連 URL	https://heartlink.info/

事業所・団体名	焼津市立大富中学校
所在地	静岡県焼津市中根1-1
連携における役割	連携を行うきっかけを提示し、生徒と企業の橋渡しを行っています。

みんなで地球について考えるイベント「アースデイあさはた」 P27

事業所・団体名	● 一般社団法人 グリーンパークあさはた
所在地	静岡市葵区北2-10-20
連携における役割	主催、会場提供、全体運営、ウォークラリー。
関連 URL	https://asahata-gp.com/

事業所・団体名	スマートブルー 株式会社
所在地	静岡市葵区千代2-17-23
連携における役割	協賛およびブース出店。
関連 URL	https://smartblue.co.jp/

事業所・団体名	日興美術 株式会社
所在地	静岡市葵区流通センター 12-2
連携における役割	協賛およびブース出店。
関連 URL	https://www.nkbj.co.jp/

SDGs が繋ぐ地域の輪、商店街活性化プロジェクト！ P28

事業所・団体名	● 静岡信用金庫
所在地	静岡市葵区昭和町2-1
連携における役割	コーディネーター、授業運営のサポート。
関連 URL	https://www.seishin-shinkin.co.jp

事業所・団体名	静岡県立静岡商業高等学校
所在地	静岡市葵区田町7-90
連携における役割	企画・授業運営。
関連 URL	http://www.seisho.ed.jp

事業所・団体名	コマカツ (任意団体)
所在地	静岡市葵区駒形通4-11-21
連携における役割	商店街の当事者として、高校生と協力して商店街活性化策を実施。

「若年層の採用フォロー」で SDGs ! 幅広い活躍の場を。 P29

事業所・団体名	● 徳三運輸倉庫 株式会社
所在地	静岡市清水区興津中町 873-1
連携における役割	若年層の職場見学・就業体験の受入れ。各種セミナーへの参加。
関連 URL	http://www.tokusan-unyu.jp/

事業所・団体名	NPO 法人 青少年就労支援ネットワーク静岡
所在地	静岡市清水区島崎町 223 清水テルサ2F 静岡地域若者サポートステーション内
連携における役割	主に若年者の就労支援。就職後の継続勤務のフォロー。
関連 URL	https://www.sssns.org/

シール絵本『SDGs ってなあに?』の製作 P30

事業所・団体名	● 日興美術株式会社・ダイワ製本株式会社
所在地	静岡市葵区流通センター 12-2
連携における役割	クラウドファンディングを活用し、ご賛同の企業・団体・個人と連携しパートナーシップでシール絵本を県内小学1年生に届けるという目標を達成するプロジェクトを推進し、目標を完遂しました。
関連 URL	https://www.nkbj.co.jp/

事業所・団体名	しずおか焼津信用金庫
所在地	静岡市葵区相生町1-1
連携における役割	クラウドファンディングでの資金調達を提案、追手町支店ディスプレイ、ホームページでの情報発信。(SDGs ゴール⑦パートナーシップで目標を達成)
関連 URL	https://www.shizuokayaizu-shinkin.co.jp/about/sdgs/

事業所・団体名	一般社団法人 ワークルール
所在地	静岡市葵区駒形通1-3-4
連携における役割	クラウドファンディングの趣旨に賛同し、大口の支援を申し出て、新入生への配付に協力。
関連 URL	https://www.workrule.jp

事業所・団体名	あいおいニッセイ同和損害保険 MS & AD ユニゾンスマイルクラブ
所在地	静岡市葵区常磐町1-7-5
連携における役割	クラウドファンディングの趣旨に賛同し、大口の支援を申し出て、新入生への配付に協力。
関連 URL	https://www.aioinissaydowa.co.jp

事業所・団体名	昭和印刷加工 有限会社
所在地	静岡市葵区平和2-29-30
連携における役割	クラウドファンディングの趣旨に賛同し、大口の支援を申し出て、新入生への配付に協力。
関連 URL	https://www.showa-p.com/

100年後も続く『愛といのち』のアートプロジェクト P31

事業所・団体名	● 一般社団法人 Feel & Sense
所在地	神戸市灘区大土平町2-2-7
連携における役割	アートにより「自己肯定感」「自他を受容できる人間力」を育むことで、地域・社会貢献力、環境への意識の向上、SDGs が掲げる社会の早期課題解決へとつなげることを目指しています。
関連 URL	https://www.life-planetarium.com

事業所・団体名	テニススクール ノア HAT 神戸校
所在地	神戸市中央区脇浜海岸通2-2-3
連携における役割	「LIFE® いのち」の活動共創パートナー。バンドー神戸青少年科学館・竹田城跡・学校へのSDGs教育等、LIFE® いのちの上映サポート。会場にて小さな成功体験による「心の育成・健康」を目的としたテニス体験を開催。
関連 URL	https://www.life-planetarium.com/ 竹田城 https://noah-hat-kobe.com

事業所・団体名	九州大学 SDGs デザインユニット
所在地	九州大学大学院芸術工学研究院 SDGs デザインユニット事務局
連携における役割	九州大学 SDGs デザインユニット長の井上滋樹教授と、SDGs の普及推進・心の育成を目的に連携。今後は九州での野外上映会での連携を取りながら広がっていきます。
関連 URL	https://www.life-planetarium.com/ 糸島 https://sdgs.kyushu-u.ac.jp/sdgs/747

6 ジェンダー平等を実現しよう

市民が自信と誇り・希望を持って活躍できる授乳施設づくり P32

事業所・団体名	● アトリエサクラ 有限会社
所在地	静岡市葵区巴町 72 - 11
連携における役割	子育て支援団体との連携、マーケティング、広報。
関連 URL	https://www.ate-sakura.jp/

事業所・団体名	アトリエ KAYA 一級建築士事務所
所在地	静岡市清水区草薙杉道 2 - 12 - 18
連携における役割	木質化空間を提案し、設計事務所としての技術をもとに、新たな居場所という価値を生み出しています。

事業所・団体名	合同会社 すまうと
所在地	静岡市葵区水見色 536
連携における役割	新しい家具構造やシステムの開発、性能試験、強度試験、特許出願など新しい可能性を積極的に研究しています。
関連 URL	https://smaut.net/

事業所・団体名	杣プロジェクト
所在地	静岡市駿河区手越原 160 - 2
連携における役割	川の清掃を介して、緑や水の循環・環境課題について話し合う「杣カフェ」を主催しています。
関連 URL	https://www.soma-pj.com/

事業所・団体名	安池林業
所在地	静岡市葵区安東 2 - 2 - 8 - 403
連携における役割	林業を通して、シビックプライドの醸成への取組支援をしています。
関連 URL	https://prideofforester.wixsite.com/mysite

事業所・団体名	現代産業論ゼミ
所在地	静岡市駿河区大谷 836 静岡大学
連携における役割	家具・森・地域の歴史文化を研究、地域の資源とユーザーをつなげる活動や木育支援。

6 安全な水とトイレを世界中に

モバイルバイオユニットできれいな水を P33

事業所・団体名	● 株式会社 デジサーフ
所在地	神奈川県藤沢市辻堂神台 2 - 2 - 1 アイクロス湘南 8 階
連携における役割	公園・公共施設、遊休地等のプロデュースやマッチングを行う。トレーラーハウス等の調達。サービス面の提供。
関連 URL	https://digisurf.co.jp/

事業所・団体名	株式会社 高嶋開発工学総合研究所
所在地	静岡県沼津市三枚橋町 15 - 10
連携における役割	微生物研究、開発。技術面の提供。
関連 URL	https://y-takashima.jimdofree.com/

7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに

トラック・バスを用いた静岡市 SDGs の PR P34

事業所・団体名	● 興津貨物自動車運輸 株式会社
所在地	静岡市清水区八木間町 817 - 1
連携における役割	静岡市と連携し SDGs ロゴと市章を自車両と静岡市 SDGs 宣言事業所の保有車両にプリントし PR 活動を行います。
関連 URL	https://okitsukamotsu.com

事業所・団体名	山崎運輸 株式会社
所在地	静岡市駿河区宮竹 1 - 10 - 10
連携における役割	SDGs ロゴと市章をプリントした保有車両の走行により、市民及びトラック協会会員への SDGs 認知度向上を目指します。
関連 URL	http://www.yamazakiunyu.co.jp

事業所・団体名	レオリブレ 株式会社
所在地	静岡市清水区幸町 11 - 14
連携における役割	SDGs ロゴと市章をプリントした保有車両の走行により、地域への SDGs 認知度向上を目指します。
関連 URL	http://reolibre.com

事業所・団体名	富士護謄産業 株式会社
所在地	静岡市清水区八坂北 1 - 21 - 37
連携における役割	SDGs ロゴをプリントした保有車両の走行により、地域への SDGs 認知度向上を目指します。
関連 URL	http://www.fujigomu.co.jp

8 働きがいも経済成長も

アキヤアソビ ～空き家を使ったチャレンジの場所提供～ P35

事業所・団体名	● 株式会社 日の出企画
所在地	静岡県三島市日の出町 4 - 5
連携における役割	主宰 コーディネーター。
関連 URL	https://www.antiquedoor.net/

事業所・団体名	株式会社 ステイトゥルー
所在地	静岡県裾野市岩波 55 - 6
連携における役割	地域連携調整担当 空き家情報収集。(宅建業法上)

事業所・団体名	任意団体 まちのぷらっと相談室
所在地	静岡県沼津市大岡 1972 - 6
連携における役割	土業連携 手続調整。
関連 URL	https://www.antiquedoor.net/machipura

静岡の建築家を応援する会「匠創物語」 P36

事業所・団体名	● 末廣建設 株式会社
所在地	静岡県藤枝市兵太夫 986 - 1
連携における役割	匠創物語総合プロデュース、土地開発、建築費用負担を担っています。
関連 URL	http://suehiro-k.co.jp/

事業所・団体名	有限会社 アートブレイン
所在地	静岡市葵区長沼 1 - 9 - 30
連携における役割	建築デザイナー 設計&施工管理 を行っています。
関連 URL	http://www13.plala.or.jp/artbrain/index.html

事業所・団体名	DAY architect 建築計画
所在地	静岡県島田市大津通り 1965-6 サンライズビル 302
連携における役割	建築デザイナー 設計&施工管理 を行っています。
関連 URL	http://day-architect.com/

事業所・団体名	株式会社 あすなろ設計事務所
所在地	静岡市駿河区高松2-28-3
連携における役割	建築デザイナー 設計&施工管理 を行っています。
関連 URL	https://www.asunaro-reno.com/

事業所・団体名	株式会社 キッシュ
所在地	静岡市清水区元城町 7-20
連携における役割	建築デザイナー 設計&施工管理 studio-ArCo 一級建築士事務所とコンビを組んでいます。
関連 URL	https://anoie.jp/

事業所・団体名	studio-ArCo 一級建築士事務所
所在地	静岡県富士市中丸 892-75
連携における役割	建築デザイナー 設計&施工管理 株式会社キッシュとコンビを組んでいます。
関連 URL	https://studioarco.i-ra.jp/

事業所・団体名	有限会社 アイブロス不動産
連携における役割	完成物件販売活動担当 購入希望者の案内 オープンハウス対応 販売プロモーションを行います。
関連 URL	http://www.ibros-fudousan.com/

事業所・団体名	静岡広報たん
所在地	静岡市駿河区下川原六丁目 26-14 (株式会社 Sweets Investment 内)
連携における役割	広報担当 このプロジェクトを多くの方に知っていただけるよう広報活動を行います。
関連 URL	https://siz-kouhoutan.jimdofree.com/

「建設現場から発信する SDGs !! 」 みんなで知ろう P37

事業所・団体名	● 荏原実業 株式会社 静岡支社
所在地	静岡市駿河区八幡2-2-25
連携における役割	建設現場において SDGs を提唱し、元請会社としての管理能力をもとに、教育の場を生み出しています。
関連 URL	https://www.ejk.co.jp/

事業所・団体名	株式会社 ケーエス工業
所在地	静岡市清水区南矢部 631-1
連携における役割	建設現場において一次下請会社の立場から、元請け会社の教育元にを協力会社へ展開しています。

事業所・団体名	有限会社 エスエネット
所在地	静岡市葵区研屋町 12
連携における役割	建設現場において一次下請会社の立場から、元請け会社の教育元にを協力会社へ展開しています。

「紙の循環型利用と採用セミナー」で SDGs ! 業務から採用まで幅広い連携。 P38

事業所・団体名	● 徳三運輸倉庫 株式会社
所在地	静岡市清水区興津中町 873-1
連携における役割	段ボール製品の配送のほか、廃棄段ボールの回収及び再生段ボール原紙を製造しています。また、幅広い採用活動も手がけています。
関連 URL	http://www.tokusan-unyu.jp/

事業所・団体名	イハラ紙器 株式会社
所在地	静岡市清水区長崎 310
連携における役割	再生段ボール原紙から段ボールを製造しています。
関連 URL	https://www.ihr-s.co.jp/



産業と技術革新の基盤をつくろう

「季咲亭・静岡めんまプロジェクト」 P9

事業所・団体名	● 株式会社 季咲亭
所在地	静岡市葵区沓谷5-1-6
連携における役割	静岡めんまプロジェクト発起人 メンマ作成販売。
関連 URL	https://kisakutei.com/

事業所・団体名	丸子まちづくり協議会
所在地	静岡市駿河区丸子3-12-52
連携における役割	竹林整備・他のNPO 法人様との架け橋。
関連 URL	http://mariko-mk.com/index.html

事業所・団体名	やつやま友の会
所在地	静岡市駿河区
連携における役割	竹林整備・他のNPO 法人様との架け橋。
関連 URL	https://www.city.shizuoka.lg.jp/000865886.pdf

事業所・団体名	公益財団法人 ふじのくに未来財団
所在地	静岡市駿河区八幡1-2-21 KKビル 101
連携における役割	寄付付き商品の資金を管理。
関連 URL	https://www.shizuokafund.org/donation/donations_with_commodity.html

事業所・団体名	NPO 法人 里山再生クラブ
所在地	静岡県菊川市倉沢 1138-2
連携における役割	竹林整備・他のNPO 法人様との架け橋。(特に藤枝市方面)
関連 URL	https://satoyama-saisei.jimdo.com/

事業所・団体名	静岡県志太榛原農林事務所
所在地	静岡県藤枝市瀬戸新屋 362-1
連携における役割	竹林整備・他のNPO 法人様との架け橋。(特に藤枝市方面)
関連 URL	http://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/sa-750/documents/shinrin_ringyou_sesaku.pdf

事業所・団体名	藤枝市役所
所在地	静岡県藤枝市岡山2-15-25
連携における役割	竹林整備・他のNPO 法人様との架け橋。(特に藤枝市方面)
関連 URL	https://www.city.fujieda.shizuoka.jp/soshiki/sangyoshinko/norin/index.html

事業所・団体名	瀬名梶原会
所在地	静岡市葵区
連携における役割	竹林整備・竹林整備 NPO 様との架け橋。
関連 URL	https://kokokara-net.jp/organizations/591

事業所・団体名	静岡市役所
所在地	静岡市葵区追手町5-1
連携における役割	竹林整備・竹林整備 NPO 様との架け橋。
関連 URL	https://www.city.shizuoka.lg.jp/000_000561.html

事業所・団体名	静岡県森林組合連合会
所在地	静岡県藤枝市岡部町岡部 2047-2
連携における役割	竹林整備・竹林整備 NPO 様との架け橋。
関連 URL	https://www.s-kenmori.net/

事業所・団体名	静岡県静岡土木事務所
所在地	静岡市駿河区有明町2-20
連携における役割	竹林整備・竹林整備 NPO 様との架け橋。
関連 URL	https://www.pref.shizuoka.jp/kensetsu/ke-850/

事業所・団体名	竹林再生プロジェクト大内
所在地	静岡市清水区
連携における役割	清水区大内における放置竹林の整備。(私有地及び県有地)

事業所・団体名	静岡県立大学環境サークル CO-CO
所在地	静岡市駿河区谷田 52-1 (静岡県立大学)
連携における役割	清水区大内において放置竹林対策を竹林再生プロジェクトと共に実施。
関連 URL	https://instagram.com/coco.coco.nature?utm_medium=copy_link https://twitter.com/coco_nature?s=21

事業所・団体名	静岡大学ぐりーんぐりーん
所在地	静岡市駿河区大谷 836 (静岡大学)
連携における役割	静岡大学内での放置竹林対策を実施している。今回、大内地区における放置竹林対策(若竹狩り)を実施。
関連 URL	https://twitter.com/guriguri_shiz

事業所・団体名	常葉大学ビオトープ研究会・自然体験活動研究会
所在地	静岡市駿河区弥生町6-1 (常葉大学・草薙キャンパス)
連携における役割	県内の自然再生・子どもたちに向けた環境教育を行っており、今回大内地区における放置竹林対策(若竹狩り)を実施。
関連 URL	https://mobile.twitter.com/bioedu_fuji ・ https://www.instagram.com/bioedu_tokoha/

事業所・団体名	社会福祉法人 見晴学園
所在地	静岡県三島市宇エビノ木 4745
連携における役割	アート作品の提供。
関連 URL	http://kir250520.kir.jp/entrance.html

事業所・団体名	社会福祉法人 富岳会
所在地	静岡県御殿場市神山 1925-1148
連携における役割	アート作品の提供。
関連 URL	http://www.fugakukai.com/

事業所・団体名	障害者の仕事を考える母の会
連携における役割	アート作品の提供。
関連 URL	https://www.facebook.com/shougaishanoshigoto.hahanokai/

事業所・団体名	WaC (WONDERFUL ART COMMUNITY)
所在地	静岡県焼津市西小川5-20-10
連携における役割	アート作品を提供。
関連 URL	http://wac.is-mine.net/ren_zheHP/Welcome_waC.html



住み続けられるまちづくりを

『竹灯ろう作ってみようか?』から始まった地域をまきこんだ魅力づくり P11

事業所・団体名	● 用宗を楽しくする会
所在地	静岡市駿河区用宗5-20-20 株式会社マルカイ内
連携における役割	地域に住む人と用宗エリアに魅力を感じる人が中心となり、地域課題や環境問題について考え、自らが楽しみながらアイデアを出し合い、具体的な行動を起こし地域と連携しながらまちの魅力を発信しています。
関連 URL	https://www.facebook.com/enjoy.mochimune

事業所・団体名	清水漁業協同組合 用宗支所
所在地	静岡市駿河区用宗2-18-1
連携における役割	用宗漁港周辺を活動拠点とする当会の各プロジェクトの会場利用や資機材の協力など多岐に渡りご協力をいただいています。
関連 URL	http://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/sa-420/guide/gmochimune.html

事業所・団体名	用宗町内会
所在地	静岡市駿河区用宗4-1-6
連携における役割	町内会の補助団体として、電気代の一部補助や町民へのチラシ回覧等で情報発信など認知向上にご協力をいただいています。
関連 URL	https://mochimune.stars.ne.jp/

事業所・団体名	静岡市立長田南小学校
所在地	静岡市駿河区広野4-7-1
連携における役割	年間を通じて地域の魅力をアピールするため、オフシーズン中に小学校敷地内への竹灯ろう設置にご協力をいただいています。また、小学校の授業で会の活動紹介を行い、子どもの頃から地域課題や環境問題を知るきっかけとなるよう取り組んでいます。
関連 URL	https://osadaminami-e.shizuoka.ednet.jp/

事業所・団体名	静岡市立城山中学校
所在地	静岡市駿河区小坂2-33
連携における役割	竹灯ろうの製作場所の提供や会のその他の活動への参加協力をいただいています。また全校道徳の授業で会の活動を紹介する場をご提供いただき、子ども達が地域課題や環境問題を知るきっかけとなるよう一緒に取り組んでいます。
関連 URL	https://shiroyama-j.shizuoka.ednet.jp/



人や国の不平等をなくそう

アートを通じた福祉支援により「誰一人取り残さない」社会の実現へ P39

事業所・団体名	● 株式会社 静鉄ストア
所在地	静岡市葵区末広町 95
連携における役割	食料品スーパーマーケットの店舗や商品など事業を通じて、作品が多くの方の目に触れる機会を創出。
関連 URL	http://www.s-store.co.jp/sustainable/

事業所・団体名	NPO 法人 アートコネクトしずおか
所在地	静岡市葵区伝馬町8-10 藤江学園ビル 地下1階
連携における役割	アート活動を行う、福祉事業所との仲介や企画・サービスの提案。
関連 URL	https://artconnect-s.com/

事業所・団体名	NPO 法人 オールしずおかベストコミュニティ
所在地	静岡市葵区呉服町2-1-5 5 風来館(ごぶくかん) 4階
連携における役割	各福祉事業者からの福産品の仕入と納品を担当。
関連 URL	http://www.all-shizuoka.or.jp/

事業所・団体名	NPO 法人 ひまわり事業団 「それいゆ」
所在地	静岡市駿河区曲金5-4-58
連携における役割	アート作品の提供。
関連 URL	https://www.scil.jp/syuub/

「放任竹林」の伐採でSDGs !! 持続可能な自然環境を P40

事業所・団体名	● やつやま友の会
所在地	静岡市駿河区
連携における役割	静岡市 SDGs 連携アワードの応募団体です。他の事業所、団体と連携して谷津山の放任竹林伐採と森づくり活動や環境学習などを18年前から行っています。
事業所・団体名	しずおか焼津信用金庫
所在地	静岡市葵区相生町1-1
連携における役割	谷津山の750mの放任竹林伐採地の整備活動及び植樹・保育をしてCSR活動を続けています。やつやま友の会は、そのCSR活動を支援しています。
関連 URL	https://www.shizuokayaizu-shinkin.co.jp/
事業所・団体名	「小さな親切」運動静岡県本部
所在地	静岡市清水区草薙北2-1 静銀総合サービス株式会社内
連携における役割	やつやま友の会の管理地で定期的に連携して森づくり活動を実施しています。その活動を通して、次世代を担う子供達に自然豊かな里山を残し、活動を理解し体験して輪を広げていきます。
関連 URL	http://www.across.or.jp/kindness/
事業所・団体名	株式会社 季咲亭
所在地	静岡市葵区沓谷5-1-6
連携における役割	放任竹林から価値を見出す一環として、幼竹を伐採し、その活用方法として“メンマ作り”を行っています。(同時に、成長した親竹を伐るより、はるかに軽作業で竹を減らせることができるので、ボランティア活動として助かっています)
関連 URL	https://kisakutei.com/menma/

自治体と民間企業がタッグを組み空き家問題解決へ P41

事業所・団体名	● 空き家買取専科 (株) Sweets Investment
所在地	静岡市駿河区下川原6-26-14
連携における役割	運営 広報 サポーター代表。※他の藤枝市空き家ゼロにサポーターについては、藤枝市にご確認ください。
関連 URL	https://akiya-kaitori.jp/
事業所・団体名	藤枝市 都市建設部 空き家対策室
所在地	静岡県藤枝市岡出山1-11-1
連携における役割	空き家ゼロにサポーター運営 空き家相談市役所窓口。
関連 URL	https://www.city.fujieda.shizuoka.jp/soshiki/toshikensetsu/akiya/index.html
事業所・団体名	藤枝市 企画創生部 広域連携課
所在地	静岡県藤枝市岡出山1-11-1
連携における役割	移住市役所窓口。
関連 URL	https://www.city.fujieda.shizuoka.jp/style/index.html

SDGs で詐欺撲滅! ポスターで安心して暮らせるまちづくりを P42

事業所・団体名	● 静清信用金庫
所在地	静岡市葵区昭和町2-1
連携における役割	企画・立案・運営。
関連 URL	https://www.seishin-shinkin.co.jp
事業所・団体名	静岡市教育委員会
所在地	静岡市清水区旭町6-8
連携における役割	共催。
関連 URL	https://www.city.shizuoka.jp

事業所・団体名	静岡中央警察署
所在地	静岡市葵区追手町6-1
連携における役割	後援。

事業所・団体名	清水警察署
所在地	静岡市清水区天王南1-35
連携における役割	後援。

事業所・団体名	静岡南警察署
所在地	静岡市駿河区富士見台1-5-10
連携における役割	後援。



12 つくる責任 つかう責任

コーヒーの力を信じて。持続可能な循環型社会 P15

事業所・団体名	● 株式会社 hug coffee company
所在地	静岡市葵区両替町1-3-9 わかさビル1F
連携における役割	コーヒーかすの排出、生産された作物の販売、事業自体の宣伝。
関連 URL	https://hugcoffee.co

事業所・団体名	富士見工業 株式会社
所在地	静岡市駿河区富士見台1-21-22
連携における役割	コーヒーかすを利用した堆肥の製造。
関連 URL	https://fujimi-group.co.jp

事業所・団体名	ワークショップリ〜ふ
所在地	静岡市葵区北3-18-37
連携における役割	コーヒーかす堆肥を使用した作物の栽培。
関連 URL	http://marble-m.main.jp/

「ごみの分別」からSDGs 目標を達成しよう! P43

事業所・団体名	● アースサポート 株式会社
所在地	島根県松江市八幡町882-2
連携における役割	「ごみの分別」の環境教育の実施。
関連 URL	https://www.earth-support.jp/

事業所・団体名	株式会社 さんびる
所在地	島根県松江市乃白町薬師前3-3 さんさんビル2F
連携における役割	環境教育の企画、開催当日運営の補助。
関連 URL	https://www.sanbg.com/business/sanbiru/index.html

静岡市の文化×資源×新テクノロジーのものづくり P44

事業所・団体名	● Tech and Hug
所在地	静岡市葵区丸山町70-2
連携における役割	商品コンセプト、ウェブサイト制作、マーケティング、まちづくり、市民連携事業(等を本業にする市民のグループです)。
関連 URL	https://www.techandhug.jp/

事業所・団体名	杣プロジェクト
所在地	静岡市駿河区手越原 160-2
連携における役割	オクシズ材を用いた食器付属品のデザインと製造、アルミ食器のデザイン。
関連 URL	https://www.soma-pj.com/

事業所・団体名	日軽産業 株式会社
所在地	静岡市清水区松原町5-12
連携における役割	アルミ材料の特殊加工、アルミ食器のデザイン、製造、性能検査。
関連 URL	https://www.nikkeisangyo.co.jp/

事業所・団体名	TEAL PHOTON 株式会社
所在地	神奈川県三浦郡葉山町長柄 1461-248
連携における役割	SDGs 啓蒙及び社会的インパクト投資等金融分野のサポート。

事業所・団体名	Akiz
所在地	静岡市清水区春日1-7-16
連携における役割	写真・動画撮影。
関連 URL	https://www.akiz.jp/



気候変動に具体的な対策を

「藤枝茶を何とかしようプロジェクト」の活動!! P45

事業所・団体名	● 西光エンジニアリング 株式会社
所在地	静岡県藤枝市高柳3-30-23
連携における役割	廃棄している三番茶等下級緑茶の生葉の有効活用を目指し、地域経済牽引事業計画の承認を受けて進めています。
関連 URL	https://www.seikoeng.jp/74947/

事業所・団体名	藤枝市エコノミックガーデニング支援センター・エフドア
所在地	静岡県藤枝市前島1-7-10 BiVi 藤枝 1階 藤枝市産学官連携推進センター内
連携における役割	県の承認を受けた西光エンジニアリング(株)の「地域経済牽引事業計画」を実施するに当たり、創業などのビジネス支援の為に藤枝市によって運営されているエフドアに相談し、「藤枝茶を何とかしようプロジェクト」を設立して事業を進めています。
関連 URL	https://egfujieda@yahoo.co.jp

事業所・団体名	藤枝茶を何とかしようプロジェクト
所在地	静岡県藤枝市高柳3-30-23 西光エンジニアリング(株)内
連携における役割	県内の茶業関係者が集結したプロジェクトで、メンバーが事業の荒茶生産、仕上げ加工、包装、販売等を担当。
関連 URL	http://ocha-matsuba.com/corp_info/ (マツバ製茶) https://www.facebook.com/otsukaen/ (大塚園) https://web-terada.jp/company.php/ (寺田製作所) https://www.itoen.co.jp/ (伊藤園)

「乾燥モズク」と「藤枝の海ぶどう」の誕生!! P46

事業所・団体名	● 株式会社 沖友
所在地	静岡県藤枝市高柳3-30-23
連携における役割	新たなモズクや海ぶどう商品の開発及び販売者。
関連 URL	https://okiyu.jp

事業所・団体名	静岡県商工会連合会
所在地	静岡市葵区追手町 44-1
連携における役割	新たなモズクや海ぶどう商品の販路開拓支援。
関連 URL	http://ssr.or.jp

事業所・団体名	宮古島漁業協同組合
所在地	沖縄県宮古島市平良字荷川取 593-5
連携における役割	モズクの養殖に関わる漁業協同組合。
関連 URL	https://miyakojimagyo.com

事業所・団体名	海ぶどう本舗やす家
所在地	沖縄県宮古島市平良字東仲宗根添 1
連携における役割	宮古島の海ぶどう販売者。



海の豊かさを守ろう

SHIZUOKA STRAW PROJECT P7

事業所・団体名	● 農育プロダクション「いきものがかり」 by 静岡農業高校
所在地	静岡市葵区古庄3-1-1
連携における役割	SHIZUOKA STRAW PROJECT 主催:麦わらストローの製品化、イベントの実施、ワークショップの開催、啓発活動など。
関連 URL	http://www.edu.pref.shizuoka.jp/shizuoka-ah/home.nsf/

事業所・団体名	株式会社 静岡銀行
所在地	静岡市清水区草薙北2-1
連携における役割	SHIZUOKA STRAW PROJECT への資金援助、イベント提供、行内への啓発活動。
関連 URL	https://www.shizuokabank.co.jp/

事業所・団体名	ふじのくに COOL チャレンジ実行委員会 (事務局:静岡県地球温暖化防止活動推進センター)
所在地	静岡市葵区黒金町 12-5 丸伸ビル2F
連携における役割	SHIZUOKA STRAW PROJECT 関連のイベント等の参加者、麦わらストロー購入者への温暖化対策アプリ・クルポのポイント付与。
関連 URL	http://sccca.net/index.html

事業所・団体名	株式会社 ドリームプラザ
所在地	静岡市清水区入船町 13-15
連携における役割	SHIZUOKA STRAW PROJECT へのイベント提供、募金箱の設置、社内の啓発活動。
関連 URL	https://www.dream-plaza.co.jp/

事業所・団体名	つむぎ CAFE
所在地	静岡県島田市本通3-6-1 地域交流センター歩歩路2階
連携における役割	SHIZUOKA STRAW PROJECT 賛同店舗、募金箱の設置、店内での麦わらストローの活用、啓発活動。
関連 URL	https://tsumugicafe.jimdofree.com/

事業所・団体名	日興美術株式会社・ダイワ製本株式会社
所在地	静岡市葵区流通センター 12-2
連携における役割	SHIZUOKA STRAW PROJECT 関連の資料やショップカードの FSC® 認証紙利用を促進。
関連 URL	https://www.nkbj.co.jp/

遊びながら SDGs に関心を広げる夏休みイベント【ペットボトルキャップ de ぺるりん】 P47

事業所・団体名	下田東急ホテル
所在地	静岡県下田市5-12-1
連携における役割	【ペットボトルキャップ de ぺるりん】の提供。
関連 URL	https://www.tokyuhotels.co.jp/shimoda-h/index.html

事業所・団体名	下田商工会議所
所在地	静岡県下田市2-12-17
連携における役割	下田のゆるキャラ「ペーりん」の貸出し。※ペーりんは下田商工会議所の持ち物です
関連 URL	https://www.shimoda-cci.or.jp

事業所・団体名	静岡県三保松原文化創造センター「みほしるべ」
所在地	静岡県清水区三保 1338-45
連携における役割	松原保全の意義についてのレクチャー、松原保全の啓発。打ち合わせスペースの提供。保全イベントの情報発信。
関連 URL	https://miho-no-matsubara.jp/

「みんなで拾ってみんなで作る」海ごみアップサイクルチャレンジ P48

事業所・団体名	● アノミアーナ
所在地	福井県小浜市水取1
連携における役割	海ごみ大量漂着地域の団体や行政と協力して海ごみ回収を行い、一部をプラスチックメーカー等へ送り、アップサイクル品を商品化。地域や学校で海ごみ講座を開くほか、レストラン等での使用や展示・販売を通じた啓発活動も行なっています。
関連 URL	http://www.anomiana.org/

事業所・団体名	株式会社 Otono
所在地	静岡県清水区三保 1303-3
連携における役割	学生の募集・プロジェクト参加による地域や企業との接点創出のコーディネート。回収品を活用した商品開発支援・販路支援。
関連 URL	https://otono.site/

「庭木の里親サービス」で大切な樹木を次の世代につなぐ P49

事業所・団体名	● 良知樹園 株式会社
所在地	静岡県焼津市一色 115
連携における役割	庭木の里親サービス事業者。景観緑化における景観設計士。(SDGs ゴール⑮庭木の里親サービスで大切な樹木を残す)
関連 URL	http://www.rachijuuen.com

事業所・団体名	有限会社 ウチダプラスチック
所在地	福井県鯖江市河和田町 3-11
連携における役割	リサイクルペットボトルからメガネフレームを作る日本で唯一の企業。若狭湾の海ごみペットボトルから作るサングラス「オーシャングラス」を共同開発。
関連 URL	http://www.uchid.com

事業所・団体名	株式会社 中部日本プラスチック
所在地	浜松市東区大瀬町 1844
連携における役割	「新工場を自然豊かなパワースポットに」緑化プロジェクト事業者。(SDGs ゴール⑮新工場緑化でCO ₂ 削減を図る)
関連 URL	http://www.cnp.co.jp

事業所・団体名	株式会社 テクノラボ
所在地	横浜市神奈川区青木町 6-19
連携における役割	海洋プラごみからインテリア小物を製造する企業。若狭湾の海洋プラごみを原料に数々の商品を作っています。
関連 URL	http://www.techno-labo.com/rebirth/

事業所・団体名	しずおか焼津信用金庫
所在地	静岡県葵区相生町 1-1
連携における役割	追手町支店 SDGs ディスプレイ企画とビジネスマッチングの実施。(SDGs ゴール⑰パートナーシップの活性化)
関連 URL	https://www.shizuokayaizu-shinkin.co.jp/about/area/action/

事業所・団体名	カエルデザイン 合同会社
所在地	石川県金沢市瓢箪町 2-6
連携における役割	海洋プラごみなど、廃棄されたものから美しいアクセサリーを製造し、販売。若狭湾の海洋プラごみでアクセサリーを作っています。
関連 URL	https://kaerudesign.net/

17 パートナーシップで目標を達成しよう

「邪魔モク」でSDGs!捨てられていたアカモクに付加価値を! P13

事業所・団体名	● 株式会社 GOLDBLUE
所在地	静岡県葵区音羽町 15-5
連携における役割	廃棄されていたアカモクを用宗青壮年部と収穫し、アカモクを加工しています。地元企業と連携し、新商品を多く開発し、さらに食品だけでなく、化粧品・健康食品を販売し、捨てられていた海藻を商品化するという価値を生み出しています。アカモクを静岡の新しい特産品にするべく、地元の飲食店やリハビリ施設など多くの企業が活用し地産地消を行っています。また、いくつかの高等学校から要請があり、アカモクとSDGs活動についての講演を行っています。
関連 URL	https://goldblue.jp

事業所・団体名	sea-auberge shitsumi
所在地	福井県小浜市志積 15-6
連携における役割	宿泊棟のラウンジに海ごみ問題のコーナーを設け、書籍の展示、アップサイクル品の展示販売を行うほか、アノミアーナが行う海ごみワークショップの会場にもなっています。施設の備品として、アップサイクル品を使用しています。
関連 URL	https://www.shitsumi.com/

事業所・団体名	清水漁業協同組合 用宗支所 青壮年部
所在地	静岡県駿河区用宗 2-18-1
連携における役割	廃棄されていたアカモクに対して、(株) GOLDBLUE と一緒に収穫し、加工販売を行っています。

事業所・団体名	Team Clean Blue
所在地	福井県敦賀市
連携における役割	月1回のビーチクリーンを行い、回収したプラごみの一部をアップサイクル品の原料にしています。

事業所・団体名	静岡県立焼津水産高等学校
所在地	静岡県焼津市焼津 5-5-2
連携における役割	(株) GOLDBLUE に働きかけを行い、授業の一環で本取組を学生に紹介しました。また、新たな利活用の方法を学生とともに検討中です。授業だけでなく、アカモクの水映像を撮影するなど、研究にも携わっています。2021年はアカモクを活用したメニューを「うまいもん甲子園」で提案し、県大会を突破いたしました。
関連 URL	http://www.edu.pref.shizuoka.jp/yaizusuisan-h/home.nsf/IndexFormView?OpenView

事業所・団体名	ブルーフラッグアカデミー
所在地	福井県大飯郡高浜町和田 118-30-1
連携における役割	地域の団体とともに定例のビーチクリーンや啓発活動を行い、オーシャングラス プロジェクトにも積極的に参加しています。
関連 URL	https://wakasa-takahama.jp/blueflag/



陸の豊かさを守ろう

スリーリングス PJ (1000年先を1000人のチカラで…) P19

事業所・団体名	● 株式会社 なすび
所在地	静岡県清水区谷田 8-2
連携における役割	300名の社員の機動力を持った枯れ松葉の清掃活動。メニュー発案、発信、取りまとめ。事業発起人。
関連 URL	https://www.nasubi-ltd.co.jp

SHIZUOKA SDGs Action !静岡のSDGs 企業を発信! P50

事業所・団体名	● しずおか焼津信用金庫
所在地	静岡市葵区相生町1-1
連携における役割	SDGs 企画の実施。追手町支店ディスプレイ、ホームページでの情報発信、クラウドファンディングを利用した資金調達支援。
関連 URL	https://www.shizuokayaizu-shinkin.co.jp/about/area/action/

事業所・団体名	株式会社 季咲亭
所在地	静岡市葵区沓谷5-1-6
連携における役割	追手町支店ディスプレイ等で SDGs 事業の情報発信。(SDGs ゴール⑤放置竹林の改善)
関連 URL	https://kisakutei.com/

事業所・団体名	スマートブルー 株式会社
所在地	静岡市葵区千代2-17-23
連携における役割	追手町支店ディスプレイ等で SDGs 事業の情報発信。(SDGs ゴール⑦電力エネルギーの地産地消)
関連 URL	https://smartblue.co.jp/sdgs

事業所・団体名	西光エンジニアリング 株式会社
所在地	静岡県藤枝市高柳3-30-23
連携における役割	追手町支店ディスプレイ等で SDGs 事業の情報発信。(SDGs ゴール⑦革新的な機械の開発で地域創生)
関連 URL	https://seikoeng.jp/

事業所・団体名	株式会社 竹酔
所在地	静岡市葵区田町2-89-1
連携における役割	追手町支店ディスプレイ等で SDGs 事業の情報発信。(SDGs ゴール⑤女性プロジェクトチームを結成し、お弁当の開発)
関連 URL	https://www.chikusui.co.jp/

事業所・団体名	日興美術 株式会社
所在地	静岡市葵区流通センター12-2
連携における役割	追手町支店ディスプレイ等で SDGs 事業の情報発信。(SDGs ゴール④ SDGs シール絵本を子どもたちに届ける)
関連 URL	https://www.nkbj.co.jp/news/cf_sdgs-stickerbook2/

事業所・団体名	平和みらい 株式会社
所在地	静岡市駿河区豊田1-9-1
連携における役割	SDGs 事業の情報発信。「共同配送」という未来型物流技術で CO2 削減や渋滞緩和などの環境対策を日々実践しています。
関連 URL	http://www.heiwa-mirai.co.jp

事業所・団体名	良知樹園 株式会社
所在地	静岡県焼津市一色115
連携における役割	追手町支店ディスプレイ等で SDGs 事業の情報発信。(SDGs ゴール⑤庭木の里親サービスで大切な樹木を残す)
関連 URL	http://www.rachijuen.com

事業所・団体名	社会福祉法人天心会 特別養護老人ホーム 竜爪園
所在地	静岡市葵区長尾89-1
連携における役割	追手町支店ディスプレイ等で SDGs 事業の情報発信。(SDGs ゴール③地域を健康に。積極的な地域福祉活動への取組)
関連 URL	http://www.love.or.jp

企業・団体向けのSDGs勉強会実施&SDGs宣言作成支援 P51

事業所・団体名	● 静岡信用金庫
所在地	静岡市葵区昭和町2-1
連携における役割	出講、勉強会内容の提案。
関連 URL	https://www.seishin-shinkin.co.jp

本事例集の取組事例において、提出された応募シートを原則そのまま掲載しております。中には国際連合広報センターが掲載している「カラーホイールを含むSDGsロゴと17のアイコンの使用ガイドライン」に適しない表記等が見られる場合がございますので、ご注意ください。